

大倉山ミエルは神奈川県との協働事業で『孤の解消』のために

「活動団体がつながる^{2023年度}ことによる コミュニティ活性化」

つながる ミニブックレット

この事業(ボランティア基金21事業)では
① 大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業等の活性化と、その見える化・モデル化
② それらを基にした県域への展開
③ コミュニティ活性化のための人材育成のためのOJT的研修・つながりづくりを行っています。その最終報告として『つながるミニブックレット』を発行します。

ブックレット

・最終報告書 2024/3/31

大倉山ミエル アフターコロナのコミュニティづくり・2023
商店会の「はちみつ」のアンテナショップから始まる。3回の
移転、現在4カ所目で、様々な活動団体とつながって活動中
小さな、自由な居場所を目指して活動中！ミエルALL、ミエル企画部が主体的に企画・運営
に参加して様々な活動が生まれています。又、14年前の開設当初から『活動をつなぐ活動』も継続して、地域の
様々な活動団体、ケアプラザ、行政、社協、学校などともつながって、様々な活動を進めています。



この事業は神奈川県ボランティア活動推進基金21の協働事業により行っています。

つながるミニブックレット 2023年度
2024年3月31日 初版第一刷発行
著者：鈴木智香子 鈴木健夫 他 26
発行者：NPO法人街カフェ大倉山ミエル

発行所：NPO法人街カフェ大倉山ミエル
〒222-0037 神奈川県横浜市港北区大倉山4-36-

☎：045-717-6778
Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp



目次

1. 事業概要

- ① 目的
- ② 概要
- ③ スケジュール

2. 事業1：大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業等の活性化と見える化・モデル化

- ① 大倉山地域での地域協働活動の活性化
 - ① 大倉山地域での活動の活性化
 - 1 菊名みんなの広場、2 大倉山はちみつ保存会、3 ミエル企画部、4 港北区子ども若者支援団体交流会、5 自治会の活性化等
 - ② 活動をつなぐ活動
 - ・大倉山地域（大倉山・菊名・大曾根・師岡）今年度の重点活動
 - ・これまでの実績（大倉山地域のつながりMAP2021）
- ② 展開のための見える化
 - ① ミエルの特徴1,2
 - ② ミエルのパンフ「ミエルの木2021」
 - ③ ミエルのカレンダー
 - ④ ミエルのこれまで：活動・ひと・団体・協働活動・補助金
 - ⑤ ミエル企画部の「楽しい活動+少しのボランティア」
 - ⑥ ミエルの「3度の移転」
 - ⑦ 自立した「多世代の小さな居場所」のモデル化・展開
 - ⑧ 基金21フォーラム 20241209 「大倉山ミエルのこれから」
 - ⑨ 居場所の運営・財政形態
 - ⑩ 自立した「多世代の小さな居場所」のモデル化
 - ⑪ ミエル企画部・ミエルALL
 - ⑫ プロボノメンバー座談会
 - ⑬ ミエルの協働活動
- ③ 居場所の作り方マニュアル（2023）
- ④ 「つながるミニフォーラム：2021+2022+2023」
 - ① 「つながるミニフォーラム 2021」の概要・タイムテーブル
 - ② 「つながるミニフォーラム 2021」での考察と気づき
 - ③ 「つながるミニフォーラム」2022
 - ④ フォーラムモデレーター（杉崎先生）からのコメント
 - ⑤ 「つながるミニフォーラム」2023
 - ⑥ ミエルがめざすコミュニティ（組織）
- ⑤ 地域連携活動支援

3. 事業2：県域への展開

- ① 県域への展開
 - ① 概要：支援地域の検討：茅ヶ崎、新川崎、三浦の検討 ・過去の活動事例の例
 - ② 地域コミュニティの活性化のためのモデル化
 - ③ 県域支援：活動団体の協働支援のモデル化に向けて
 - ④ 茅ヶ崎「さろんどて」への展開 2021+2022+2023
 - ⑤ 大磯国府本郷への展開 2021+2022+2023
- ② その他の地域への展開
 - ・座間生活クラブ・綾瀬市の居場所支援等
- ③ 県域展開での考察と気づき 2021+2022+2023

4. 事業3：コミュニティ活性化のための人材育成・OJT的研修・つながりづくり

- ① 普及のためのプレ研修 2021+2022+2023
 - ① 目的
 - ② 研修のポイント
 - ③ プレ研修の概要とスケジュール
 - ④ プレ研修での考察と気づき
- ② 今後の研修について 2023
- ③ 2023年度の研修：Open Day（個別的研修）

5. HP作成

- ① HP作成の目的とポイント
 - ① 目的
 - ② HPのポイント

- ・参考資料
- ・あとがき

1. 事業概要

こんなことをしています。

① 目的

：地域における市民活動団体は多数存在するが、各々が個別の課題の中で活動を終始しがちであり、地域課題の共有化が進まない状況にある。本事業は、個々に地域で活動している団体をつなぎ、複数の活動団体が共に連携して事業を行うことで地域コミュニティが活性化し、地域で暮らす人がさまざまな地域活動をより身近に感じられるようになり、より多くの人々が「コミュニティ」に参画することで、県民の「弧」の解消を図り、未病改善等に必要な要素である「社会参加」を促していく。

② 概要

① 大倉山地域での地域協働活動の推進展開のための見える化

：大倉山モデル地域において、これまでの地域活動の新たな展開として、各々の活動団体の地域活動をつないで、地域協働活動を起こし、その効果と課題を見える化、モデル化し広く県域に展開する。

② 県域への展開

：域モデル地域内で当該地域に対して地域協働活動のコーディネートと活動の見える化を支援する。

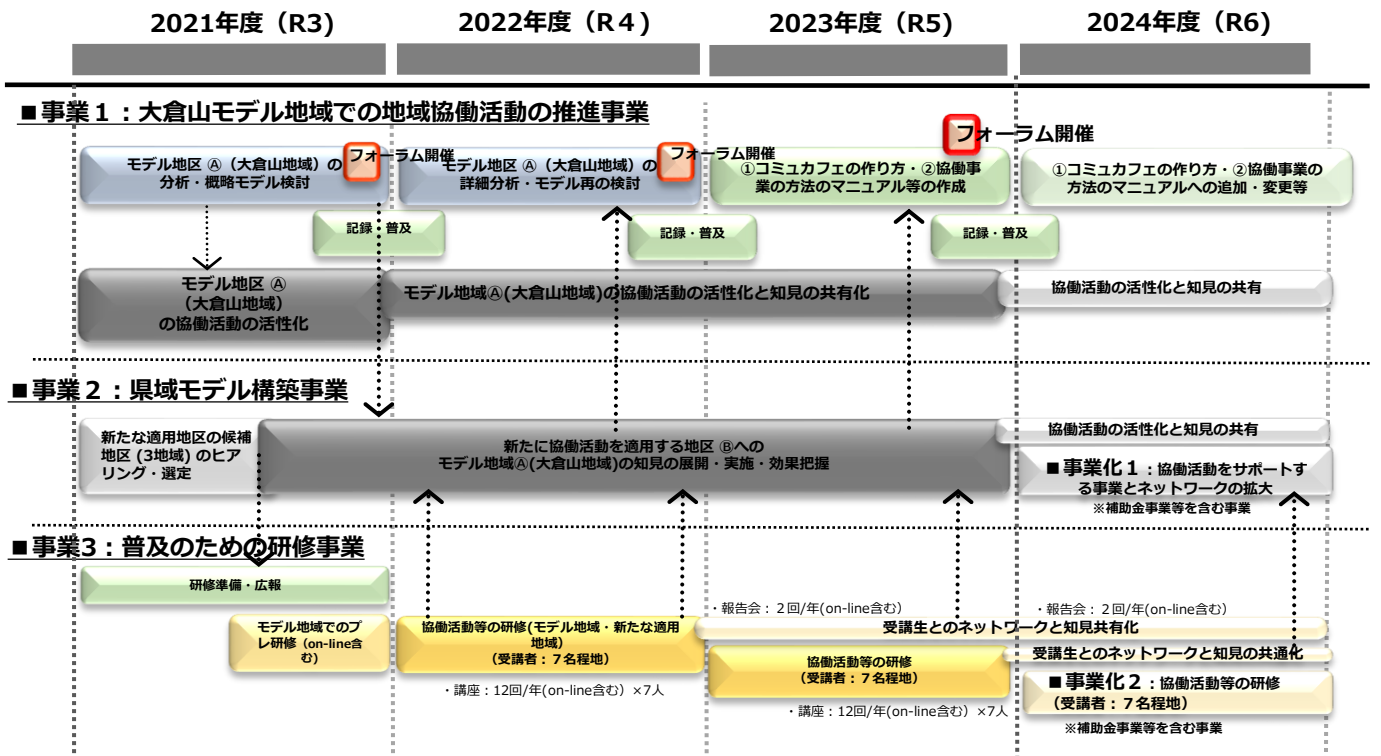
③ 普及のための研修

：地域協働活動を主軸とするサポーター研修を定期的実施し、地域で活躍できる人材を養成し、それぞれの地域に持ち帰り、その地域に存在する市民活動団体同士をつなぐことによって、コミュニティ活動を活性化させる。

活動団体がつながることによる地域協働の活性化事業

③ スケジュール

※地域協働活動：地域での複数団体等が共に事業を行う活動。



大倉山ミエル、2021.04.17

課題：地域活動に連携活動が少なく、地域の課題、解決策の共有活動が進まない。



目的：アウトリーチを重視した地域協働を広げていくことで、地域のコミュニティ活動の活性化と人材育成と普及を図る。

2. 事業1：大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業等の活性化とその見える化・モデル化

① 大倉山地域での地域協働活動の活性化

① 大倉山地域での活動の活性化

1 菊名みんなの広場 →「菊名あったか」の支援に変更 2022年度に変更

菊名の空家取得から支援、近隣の活動団体（お出掛バス等）と共同運営を目指す。ヨコハマ市民まち普請採択、地域包括支援を目指す。2022年に分かれた「菊名あったか」の支援に切り替えている。

2 大倉山はちみつ保存会

菊名で20年養蜂を行ってきた菅野氏から、2021年末の養蜂を引継ぐPJ、師岡の耕作放棄地を開墾して、エシカル畑として活動中の「熊野の森もろおかスタイル」と共同で進めている。養蜂事業も2024年度で4年目に入っている。

3 ミエル企画部

自然発生的に生まれたLINEグループ「ミエルベビー部」（2024年2月：ミエルALL250名）が生まれ、現在のミエルを自立的に支える「ミエル企画部」（LINEグループ現在27名）も生まれてきた。この事業では、そのコミュニティのあり方の整理と活性化を行いながら、その経緯を見える化をはかりながら展開をはかっている。

4 港北区子ども若者支援団体交流会

港北地域で障害者や弱者支援を考える会の立上げた「街を耕す会港北」に参加、障害者の舞台「ぶかぶかさん」の上映会・シンポジウムを開催。定例会を継続中。その活動を母体に武藤氏と区社協とミエル等が発起人になり、「港北区子ども若者支援団体交流会」を呼びかけ、交流会を開催中、引き続き活動を継続中。

5 町内会への展開

横浜市生活支援補助事業サービスBを利用して、自治会館等を利用して自治会が運営してゆくことを目指し、まず、大倉山地区での白樺会館で「シニアのおしゃべり会」の企画を会長に打診中だが、なかなか進まない状況である。

② 活動をつなぐ活動（協働）2021年時点

■大倉山地区（大倉山・菊名・大曾根・師岡） 2021年度の重点活動（つながりMAP（活動拠点等））



● 2021年度の重点活動

● ミエルの大倉山地域のアウトリーチ活動

- 1 ハッピーガザミュージック ●
HMMの鈴木美子氏はミエル活動の以前から、ミエルの共同創設者、ミニコンサート等の開催、現、ミエルの理事
- 2 公園遊びの会「おたん」立上げ・世話人 ●
フォーラムアソシエの活動として2005年に新横浜第1公園で乳幼児対象の公園遊びの会立上。
- 3 NPO法人フォーラム・アソシエ 立上げ ●
「がんばるママのご褒美講座」等を企画運営、現、副理事長、
- 4 NPO法人鶴見川流域ネットワーク ●
毎年、お出かけ水族館の開催をはじめ、色々な活動を共催している。
- 5 大倉山おへそ 立上げ ●
大倉山商店会と連携して空店舗を生かした商店街の中の居場所を整備・運営、ヨコハマ市民まち普請事業を採択。
- 6 熊野の森もろおかスタイル 支援・会員 ●
3.11後、自然エネルギーで暮らす社会を目指し、活動を展開する団体、ヨコハマ市民まち普請事業採択（空地を生かした市民農園の整備）
- 7 Flat（熊野の森もろおかスタイルのメンバー中心）立上支援 ●
空き家活用で高齢者の居場所を整備をアドバイス。
- 8 菊名みんなの広場 立上げ支援 → 菊名あったか ●
菊名の空家取得から支援、近隣の活動団体（お出掛バス等）と共同運営を目指す。ヨコハマ市民まち普請採択、地域包括支援を目指す。
- 9 大曾根「空家」 ●
住宅1階の空きスペースを利用した地域に開かれたシェアスペースを検討中、エリアマネージメント勉強会等を共催。
- 10 大曾根「プランテッド」による商店会活性化（2020～）支援中 ●
地域WEBサイト「てくてく」の立上や大曾根商店会の活性化を模索中、県の経済振興課に繋ぐ、等
- 11 大倉山はちみつ保存会 立上げ・世話人 ●
菊名で20年養蜂を行ってきた菅野氏から、2021年末の養蜂を引継ぐPJ、師岡の耕作放棄地を開墾して活動中（熊野の森もろおかスタイルとの共同）
- 12 檜町「NPO法人子育て・ニッポン/産前産後カフェ」 ●
代表の榎田さんと産前産後ママさんのサイトを緊急対応も含め「ここみで港北」Webサイト公開（共同事業）
- 13 菊名 らんがく舎 ●
宇田川氏は港北区災害ボランティア連絡会の代表で、ミエルでの「地域食堂」メンバーでもあり、今回の熊本水害の緊急支援に協力。
- 14 「街を耕す会港北」立上げ → 「子ども若者支援団体交流会」 ●
港北地域で障害者や弱者支援を考える会の立上げに参加、障害者の舞台「ぶかぶかさん」の上映会・シンポジウムを開催。定例会を継続中。
- 15 自治会館の活用検討（白樺会館等） ●
横浜市生活支援補助事業サービスBを利用して、自治会館を利用して自治会が運営してゆくことを目指し、大倉山地区で、まず白樺会館で「シニアのおしゃべり会」の企画を会長に打診中。
- 16 ミエル企画部の継続 ●
現在のミエルを自立的に支える「ミエル企画部」（LINEグループ現在30名）も生まれてきた。今年度はそのコミュニティのあり方の整理と活性化を行いながら、その経緯を見える化をはかる。

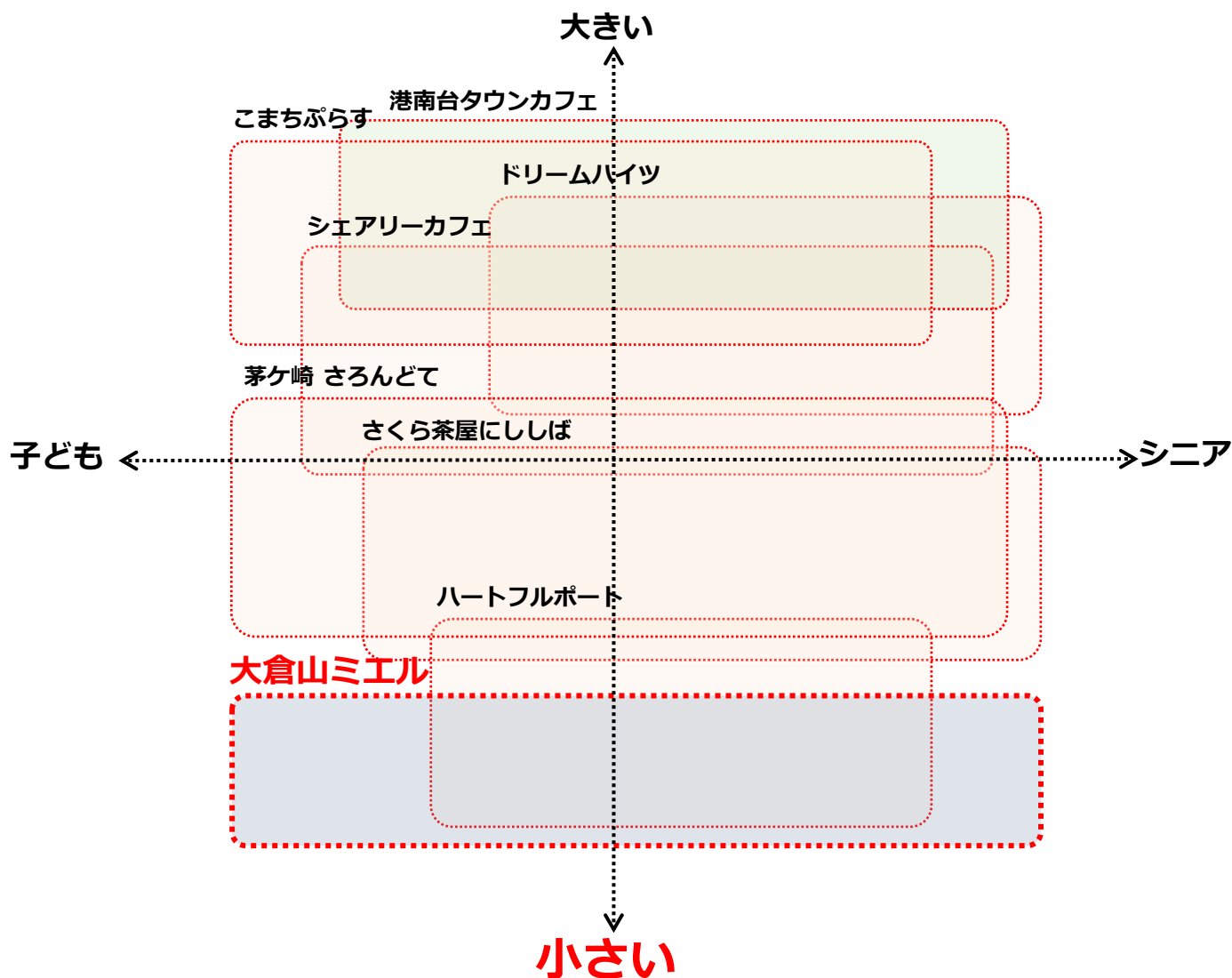
② 展開のための見える化

①-1 ミエルの特徴1 :

- ① **小さい** : 少人数でできる。動きが速い、ボランティアでやり易い、始めやすく、やめやすい
- ② **多世代** : 全生活、多世代 -1歳~101歳、ケア~ビジネス、環境~産業、歴史~アート、何でもOK、連携・協働しやすい
- ③ **ゆるさ** : 気が楽、自由度が高い、PDCAが早い、チェックが小、変更し易い
- ④ **自立性** : 参加者の自立性の意識化、やりがいの実感、運営者の軽減
- ⑤ **連携性** : 人脈、情報入手、知見のFB、ネットワーク型組織

■コミュニティカフェのタイプ：様々なコミュニティカフェ

* 大きさ：居場所の広さ、事業費等によるあくまで主観的イメージです



大倉山ミエルの特徴：

小さい



小さく始めやすい。
リスクが少なく済む。

全方位
(全生活)



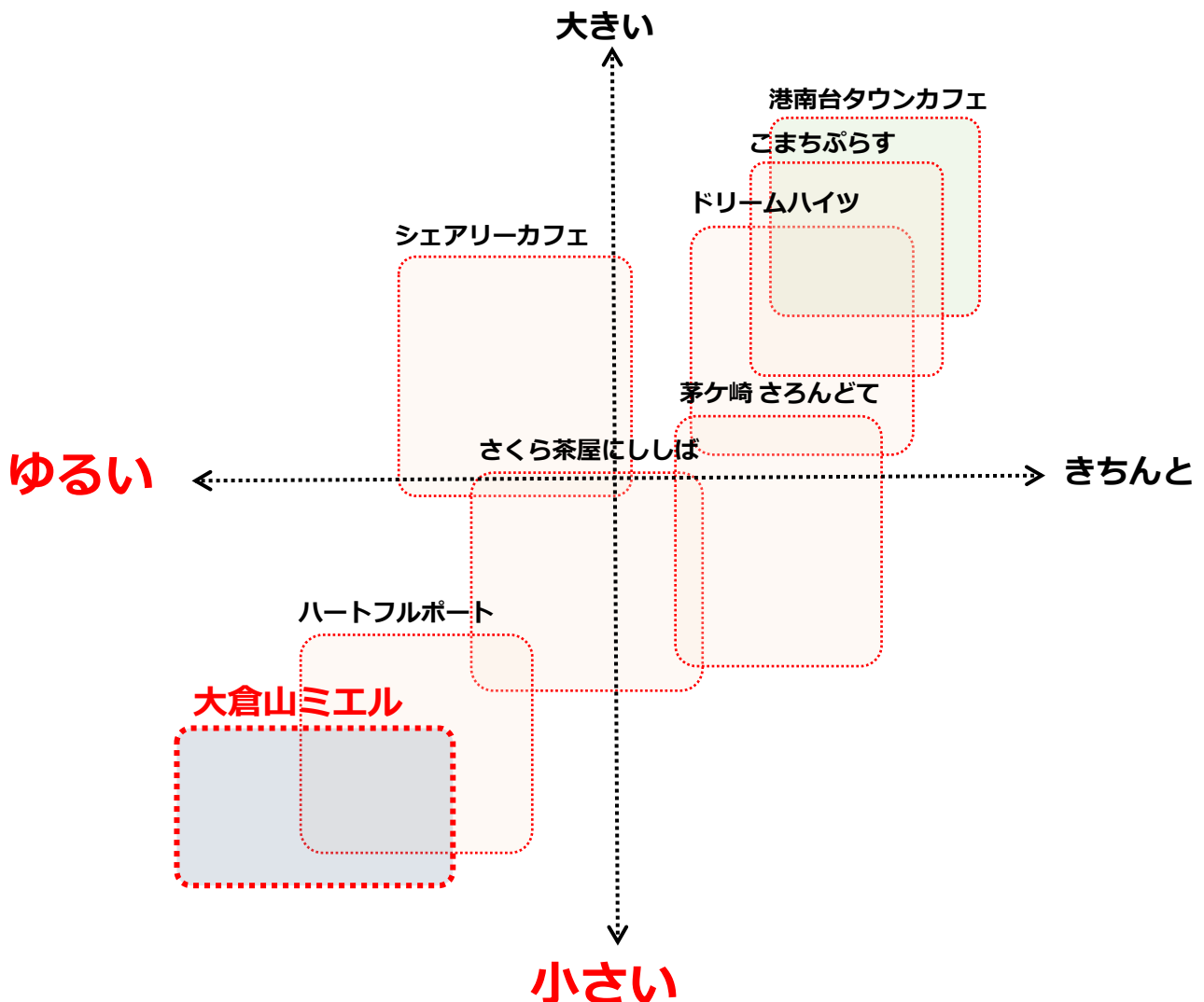
様々な出会いが期待できる。
活動が広がり易い。

①-2 ミエルの特徴2 :

- ① 小さい : 少人数でできる。動きが速い、ボランティアでやり易い、始めやすく、やめやすい
- ② 多世代 : 全生活、多世代 -1歳~101歳、ケア~ビジネス、環境~産業、歴史~アート、何でもOK、連携・協働しやすい
- ③ **ゆるさ** : 気が楽、自由度が高い、PDCAが早い、チェックが小、変更し易い
- ④ 自立性 : 参加者の自立性の意識化、やりがいの実感、運営者の軽減
- ⑤ 連携性 : 人脈、情報入手、知見のFB、ネットワーク型組織

■コミュニティカフェのタイプ : 様々なコミュニティカフェ

*ゆるさ : あくまで主観的イメージです。



大倉山ミエルの特徴 :

小さい →

小さく始めやすい。
リスクが少なくて済む。

ゆるさ →

**自由度が高い、自立性が
生まれやすい。**

② ミエルのパンフ「ミエルの木 2021」

新カフェ 大倉山ミエル



2021

**大倉山ミエルは
自由に、気軽に、楽しく
やりたい事をやる場所**

**ミエルで
近所に友人を見つけ
てください。**



★ ミエルの自由な居場所活動 2021

- #### ● 妊婦・乳幼児親子の活動

おっぱい探検隊

週に2回、毎月、おしよんバーで、おさんぽに出かけていきます。のんびり、ゆったり、多いたり、遊んだり、食べたり、そんなこどもの時間を一緒に考え、作っていく方を募集します。

産名・赤ちゃんカフェ

毎週金 10:00~12:00
ハイハイする前の赤ちゃんのんびり、おしゃべりできます。保育士のみなさんが、毎回います！

居残りカフェ

妊婦さん〜2ヶ月までの赤ちゃんが、地域でのんびり過ごす場所。店主は「こども探検隊」のぼろさん。お名さんの広場とミエルで2〜3回、13:00~開催。赤ちゃんの交流交換、抱っこ体験ができます。

森のようちえん

ミエルより前から始めた活動で、身近な公園や道端に自然がいっぱいで、小さくても、自然を感じながら育ってほしいという思いから始めています。現在はインストラクターの寿さんが、身近な公園などで、自然観察、自然遊びを企画・運営しています。自然を感じることの先に人を惹きつける活動と思っています。
- #### ● 小学生の活動

放課後ミエル

基本、週に2回、15:30~17:00に小学生を対象に自主的に選んでもらえる時間を設けています。子どもたちのために今年度は『子どもシャープリスト講座』等を開催しました。先日子どもたちの企画で『逃走中』を新機軸企画で開催しました。子ども発案の、色々な企画も作戦会議中です。

こども新学(共催)

生活クラブとの共催で、月1回のペースで小学生5年生6名が、子ども考える疑問を、子どもたちを主体に話し合っています。生活クラブ「生活と自治」にも掲載されています。

● 大人の部活動

Edu Cafe

あるお父さんの発案で親同士で教育を語るから考える時間を共有する場として、太郎の森や大倉山ハイムの中庭の林蔭でピクニックを兼ねて開催中です。

ミエルの部屋

様々な海外での生活や仕事の話「フィリピンでのJICAの1年や緑地の生活」「大倉山で特別生活」「ドイツの手紙」等を近所に住む方に話していただいています。毎日の生活の関する意見を広げる活動として。

子ども食堂・フードパントリー

子ども食堂、みんなの食卓はコロナ前まで20食3回開催してました。現在は、第2会場日と第4会場日にフードパントリーと食卓をしています。今は社協やスクールソーシャルワーカーともつながっています。

おかん会

子どもの悩みを語る親御さんたちが、お互いの悩みを話し合います。今は月一回の方から夜に、小学生と中学生の区別に分けて開催しています。

● シニアの活動

赤出かけミエル

シニア向けの毎週月曜と水曜日の10:00~12:00に開催しています。お茶の会弁当付きで500円です。ゆったり、おしゃべりや趣味の体験や、水曜日は近所ののびアノ楽談してくれる時間があります。定員6名です。(横浜市生活支援課補助金サービスです)

認知症カフェ

大倉山エアプラザの定規を引っかけて、近所方除の認知症カフェを第2水曜日14:00~15:30、1回/月開催しています。誠にありがとうございます。無料です。


〒107-8345 港区大倉山4-30-26 (北倉山橋線大倉山駅か(徒歩12分))



ミエル(株) | ミエル企画部 | 住 東京都港区大倉山4-30-26 | TEL 03-6457-7676 | Mail: mie@rifiso-net.ne.jp | 代表: 鈴木 敏子

主な運営: おでかけミエル: 毎月月・水10:00~13:00、ちびっ子ミエル: 火・木10:00~12:00、放課後ミエル: 月・水・金15:30~17:00 等
定 員: 新型コロナ対策上、定員6名、全て予約制を原則とします。
連絡・申込方法: 大倉山ミエルに電話03-6457-7676、Mail: mie@rifiso-net.ne.jp、代表: 鈴木 敏子

新カフェ 大倉山ミエル



大倉山ミエルは、近所の - 1歳から100歳のゆるい居場所となり、そして、港北、横浜のコミュニティ活動の活性化も目指しています。そのために、300m 徒歩圏のインフォーマルな小さな居場所の重要性をつたえる様々な活動に取り組んでいます。

● NPO法人街カフェ大倉山ミエルの事業

① 自由な居場所


ミエルは、妊婦・乳幼児からシニアまで、いつでも気軽に訪れる居場所。そして、小さなNPOの自由度が高く、すぐ実行できる居場所を目指しています。社会的処方の方考や、コミュニティナーズの取組も参考にしながら、居場所の有り様や運営方法も常に試行錯誤しながら進めています。

② 地域のハブ活動

大倉山、大倉敷、神岡、駒倉を含む大倉山周辺、ゆるく「大倉山地域」の様々な活動を関連づけて、さらに、活動活動より活性化することで、心豊かで、のんびり過ごせる、そして自分たちで考える「まちづくり」につなげていきたいと考えています。ミエルも自主事業として、様々な活動団体、関連行政機関、企業とも、活動当初から「活動をつなぐ活動」として行なってまいりました。これからも一層、ゆるくつながっていきたく考えています。

③ コミュニティ活性化支援

ミエルは大倉山地域での近所の居場所、地域のハブ機能、コミュニティ活性化活動等の経験を活かし、様々な地域で自由な居場所の重要性、そして、地域協働活動の活性化を大切に支援活動も行っていきます。



大倉山ミエル2010~

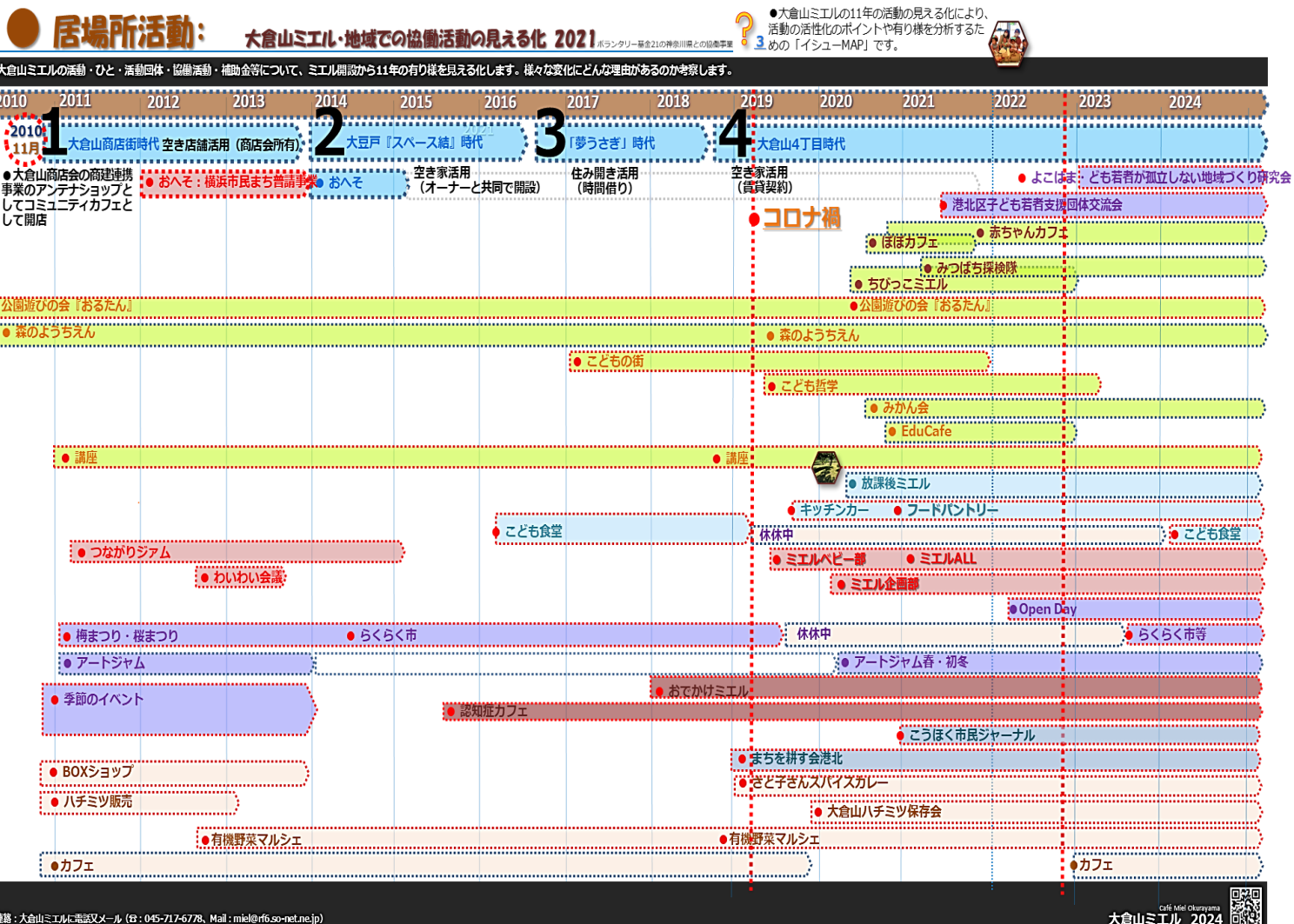
●: 共催、参加又は持込企画

・港北区みんなのチカラ応援事業
・東区子どもの森プロジェクト
・聯合21 神奈川県道地帯事務局の支援を受けています。

● ミエル(株): 2021年5月に更新し、再加入をお願いしたlineグループ、その他に多くの企画・運営グループがあります。
● ミエル企画部: ミエルを知って、自由に、気軽に、楽しくやりたいことを企画・運営、サポートするグループ。

④-1 ミエルのこれまで：活動

- 3度の移転と4回の立上、2010年11月開設から14年
- 4カ所の居場所
 - ① 大倉山商店会のはちみつのアンテナショップとしてオープン。賃料14万円（10坪）
 - ② 区役所近くの空家、大きな一軒家（2階建）をオーナーと開店（48坪）
 - ③ 家開きの小さなキッチン・カフェ・ギャラリーを時間借りで運営。3年目には横浜市生活支援事業（サービスB）も開始しました。（15坪）
 - ④ 住宅地の空ギャラリー+工房に移転。平屋で、テラス、駐車場付き、家賃12.5万円（22坪）横浜市生活支援事業（サービスB）により賃料+光熱費程度が出ている。
- 現在の大倉山4丁目に移転してから、ミエル企画部の自立的な活動に支えられて、小さいけれど多くの活動が生まれてきています。
- コロナ禍中でランチを中止したことで、ランチのためのスタッフが抜け分、本来のコミュニティ活動に集中できるようになり、活動が活性化しました。
- サービスBで家賃と光熱費を賄っている。それ以外の活動は基本がボランティア（社会奉仕）の活動で支えられている。
- コロナ禍以降はフードパントリーや「港北区子ども若者支援団体交流会」そして「よこはま・子どもが孤立しない地域づくり研究会」と困難を抱える家族の支援活動に広がっている。



④-2 ミエルのこれまで：ひと・団体

- 地域の活動団体の先輩方には開設当初から、様々な活動を支援してもらっている。
- ① 開設当初からのコアメンバーは鈴木智香子、鈴木美子氏、鈴木健夫（サポート）の3人、2021年からは鈴木健夫が定年後、本格参画している。
- ② 移転のたびに参加メンバーの多くは交代している。
- ③ 子どもの遊び場『おるたん』の伊藤さん、「熊野の森もろおかスタイル」の肥後さん夫婦、孫育てニッポンの棒田さんとは、信頼関係と緊密な協働活動を展開できている。
- ④ 4丁目に移転してからの、ミエル企画部のメンバーとの様々な活動の展開は目ざましい。

2ひと・団体

大倉山ミエル・地域での協働活動の見える化 2021

・ボランティア基金21の神奈川県との協働事業

大倉山ミエルの活動・ひと・活動団体・協働活動・補助金等について、ミエル開設から11年の有り様を見える化します。様々な変化にどんな理由があるのか考察します。

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
2010年11月 ●大倉山商店街時代 <small>●大倉山商店会の高速連携事業のアンテナショップとしてコミュニティカフェとして開店</small> ●鈴木智香子 ●伊藤：公園遊びの会「おるたん」 ●鈴木美子：ハッピーマザーミュージック ●鈴木健夫 ●入江さん・小林さん・奥山さん：バリアフリーの会・びーのびーの・どろっぷ ●ナオさん：食担当：精進家 ●志田・菊池：大倉山文化村 ●榊月・松江川他：ワイワイ会議 ●志村・信藤・高岡：社福かれん ●鶴見川流域ネットワーク：岸先生・亀田さん他 ●武藤先生：橋学園 ●フォーラムアソシエ：元木さん他	●大倉山商店街時代 <small>空き店舗活用（商店会所有）</small> ●おへど	●大倉山商店街時代 <small>空き店舗活用（商店会所有）</small> ●おへど	●大倉山商店街時代 <small>空き店舗活用（商店会所有）</small> ●おへど	●大戸「スペース結」時代 <small>空き家活用（オーナーと共同で開設）</small> ●おへど	●大戸「スペース結」時代 <small>空き家活用（オーナーと共同で開設）</small> ●おへど	●大戸「スペース結」時代 <small>空き家活用（オーナーと共同で開設）</small> ●おへど	●「夢うさぎ」時代 <small>住み開き活用（時間借り）</small> ●植村さん・清水さん・宇田川さん・菊名みん谷の広場・お出か付バス ●横浜コミュニティカフェネットワーク：港南台タウンカフェ・米田さん・ごまかカフェ・シェアリーカフェ・ハートフルポート等 ●横浜アソシエネットワーク	●「夢うさぎ」時代 <small>住み開き活用（時間借り）</small> ●植村さん・清水さん・宇田川さん・菊名みん谷の広場・お出か付バス ●横浜コミュニティカフェネットワーク：港南台タウンカフェ・米田さん・ごまかカフェ・シェアリーカフェ・ハートフルポート等 ●横浜アソシエネットワーク	●大倉山4丁目時代 <small>空き家活用（賃貸契約）</small> ●市民セクターよこはま ●菊名みん谷の広場 ●八景市場 ANEX ●まちを耕す会港北 ●ミエルベビー部 ●ミエルAll ●ミエル企画部	●大倉山4丁目時代 <small>空き家活用（賃貸契約）</small> ●市民セクターよこはま ●菊名みん谷の広場 ●八景市場 ANEX ●まちを耕す会港北 ●ミエルベビー部 ●ミエルAll ●ミエル企画部	●大倉山4丁目時代 <small>空き家活用（賃貸契約）</small> ●市民セクターよこはま ●菊名みん谷の広場 ●八景市場 ANEX ●まちを耕す会港北 ●ミエルベビー部 ●ミエルAll ●ミエル企画部	●大倉山4丁目時代 <small>空き家活用（賃貸契約）</small> ●市民セクターよこはま ●菊名みん谷の広場 ●八景市場 ANEX ●まちを耕す会港北 ●ミエルベビー部 ●ミエルAll ●ミエル企画部

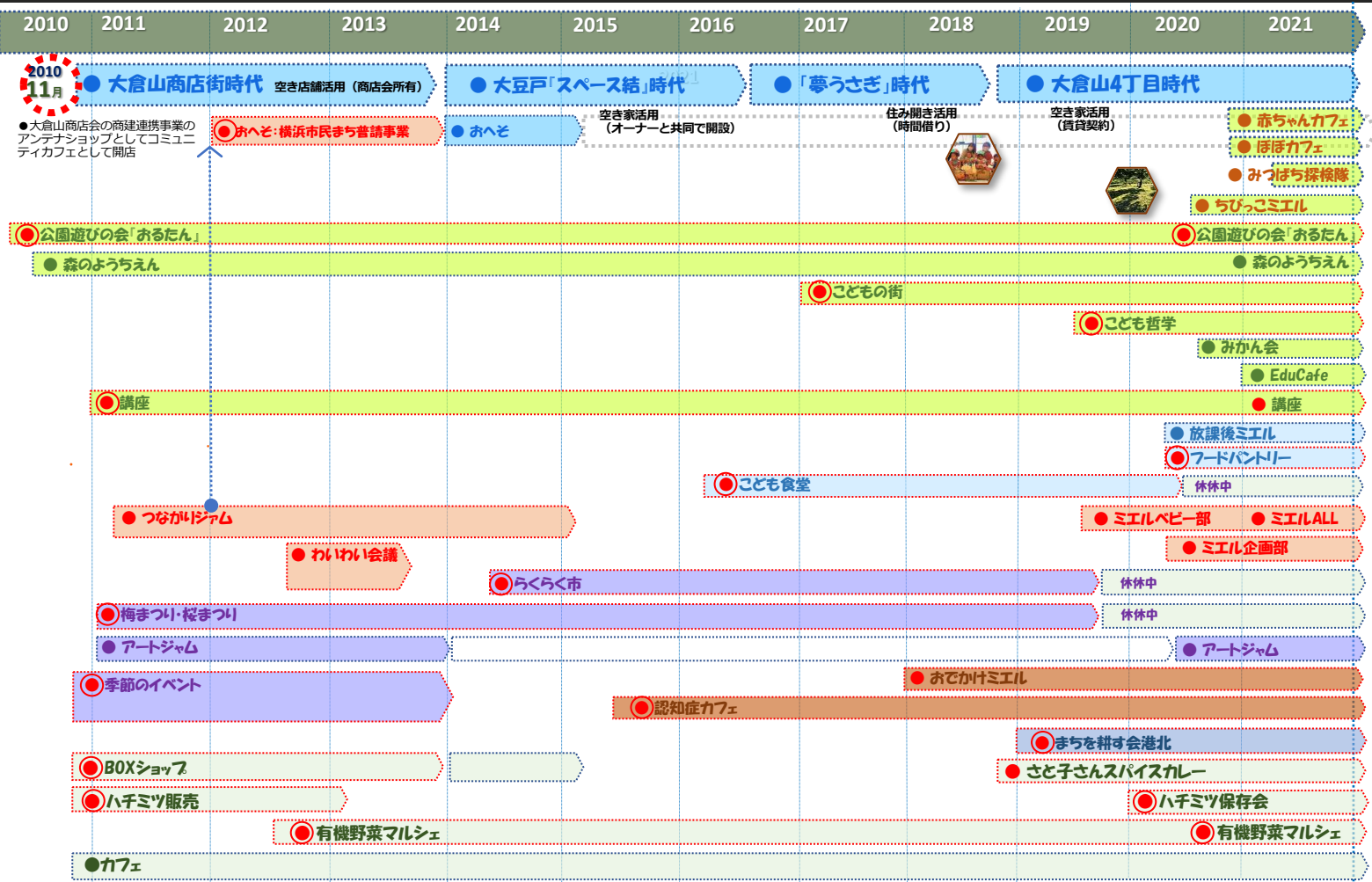


④-3 ミエルのこれまで：協働活動

- ミエルはミエル内部の活動も、外部との協働活動も、常に誰かと一緒に活動を企画・運営しています。地域の活動団体の先輩方には開設当初から、様々な活動を支援してもらっている。
- ミエルは開設当初から12年間、『活動をつなぐ活動』を活動の一つの柱として活動しています。
 - ① 地域に開くことは、つまり地域の他団体や行政関連機関等とつながって活動してゆくことと考えて、活動し続けています。
 - ② まず、こちらから働きかけることが全ての始まりだと考えています。待っていては何も始まりません。
 - ③ 変更は当たり前、継続する事より、楽しくやれる事を重視しています。
 - ④ 些細なことは、気にしないことが、自由度を確保するための大切だと考えています。

3 協働活動：外部：● 内部：● 大倉山ミエル・地域での協働活動の見える化 2021

大倉山ミエルの活動・ひと・活動団体・協働活動・補助金等について、ミエル開設から11年の有り様を見える化します。様々な変化にどんな理由があるのか考察します。



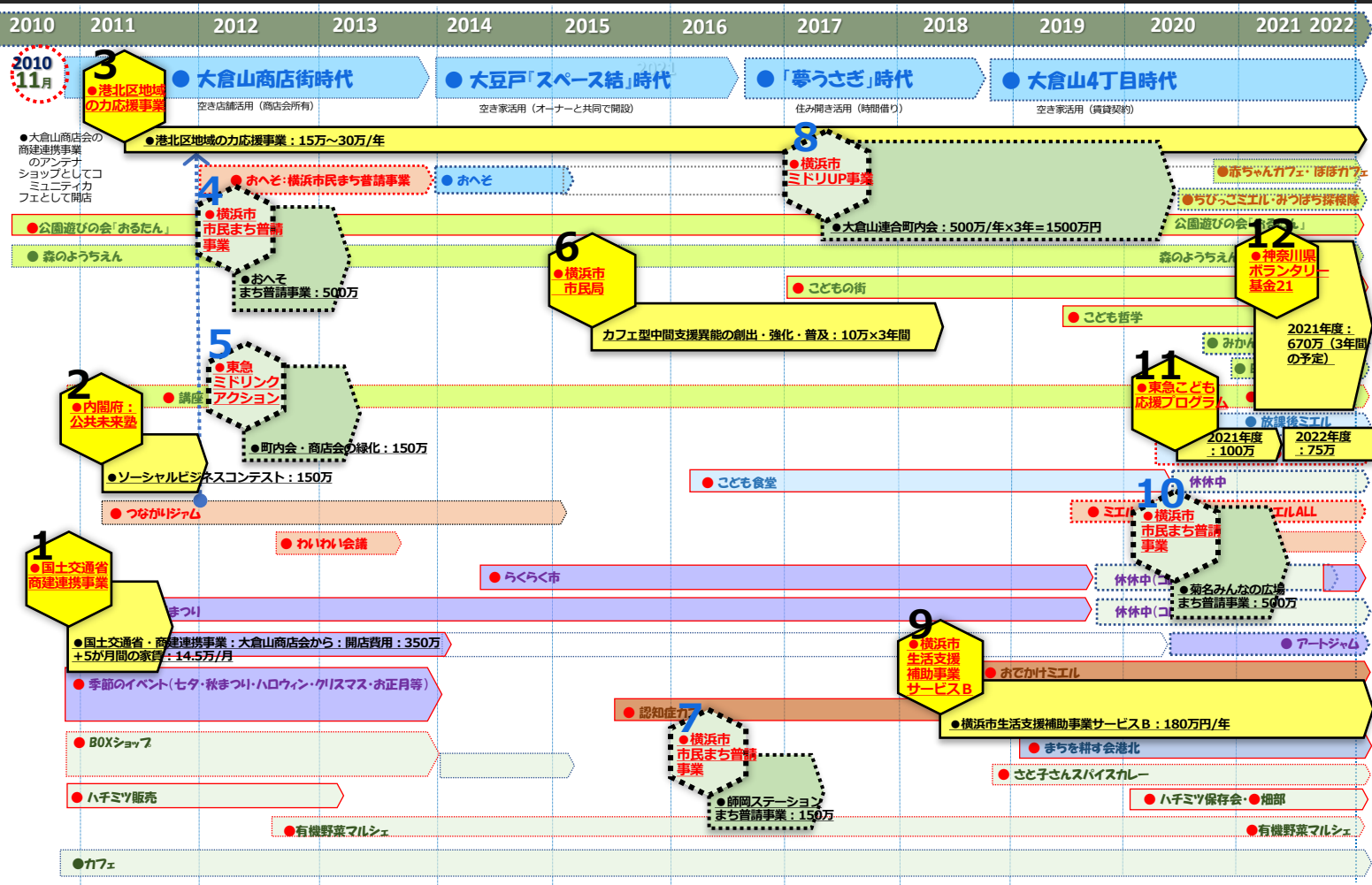
④-4 ミエルのこれまで：補助金

- 大倉山ミエルは2010年の開設当初から国交省の「商建連携事業」や内閣府の「公共未来塾」等の補助金をいただいて活動を開始しました。その意味で特に現在は、大倉山ミエルの活動は、有志のボランティア活動と補助金によって運営をできています。
- ミエルは開設当初から港北区の地域のチカラ応援事業の補助金を受けています。金額だけでなく、区（行政）に活動を認められることが、広報やその後の活動の認知に役立ちます。
 - ① 補助金もいきなり大きな補助金獲得はむずかしい面もあり、実績が必要であり、活動同様、小さな補助金から順次、大きな補助金に応募していく。横浜市であれば、市民協働推進支援センター等に相談することもお勧めです。
 - ② ミエルは横浜市まちづくりコーディネーターや団地再生コーディネーターでもあり、横浜市市民まち普請事業の支援や、横浜市内のいくつかの区の支援、受託事業もおこなっています。
 - ③ ミエルのメンバーには市民セクターよこはまや横浜プランナーズネットワークに所属しているメンバーもいて、様々な人的・知見的ネットワークを生かして活動し、補助金や行政の事業や施策についても情報収集の能力も高く維持しています。

4 補助金等：大倉山ミエル・地域での協働活動の見える化 2021

・ボランティア・基金21の神奈川県との協働事業

大倉山ミエルの活動・ひと・活動団体・協働活動・補助金等について、ミエル開設から11年の有り様を見える化します。様々な変化にどんな理由があるのか考察します。



連絡：大倉山ミエルに電話又メール（☎：045-717-6778、Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp）この事業は神奈川県ボランティア・基金21の協働事業により行っています。

大倉山ミエル 2021



⑤ ミエル企画部の「楽しい活動+少しのボランティア」

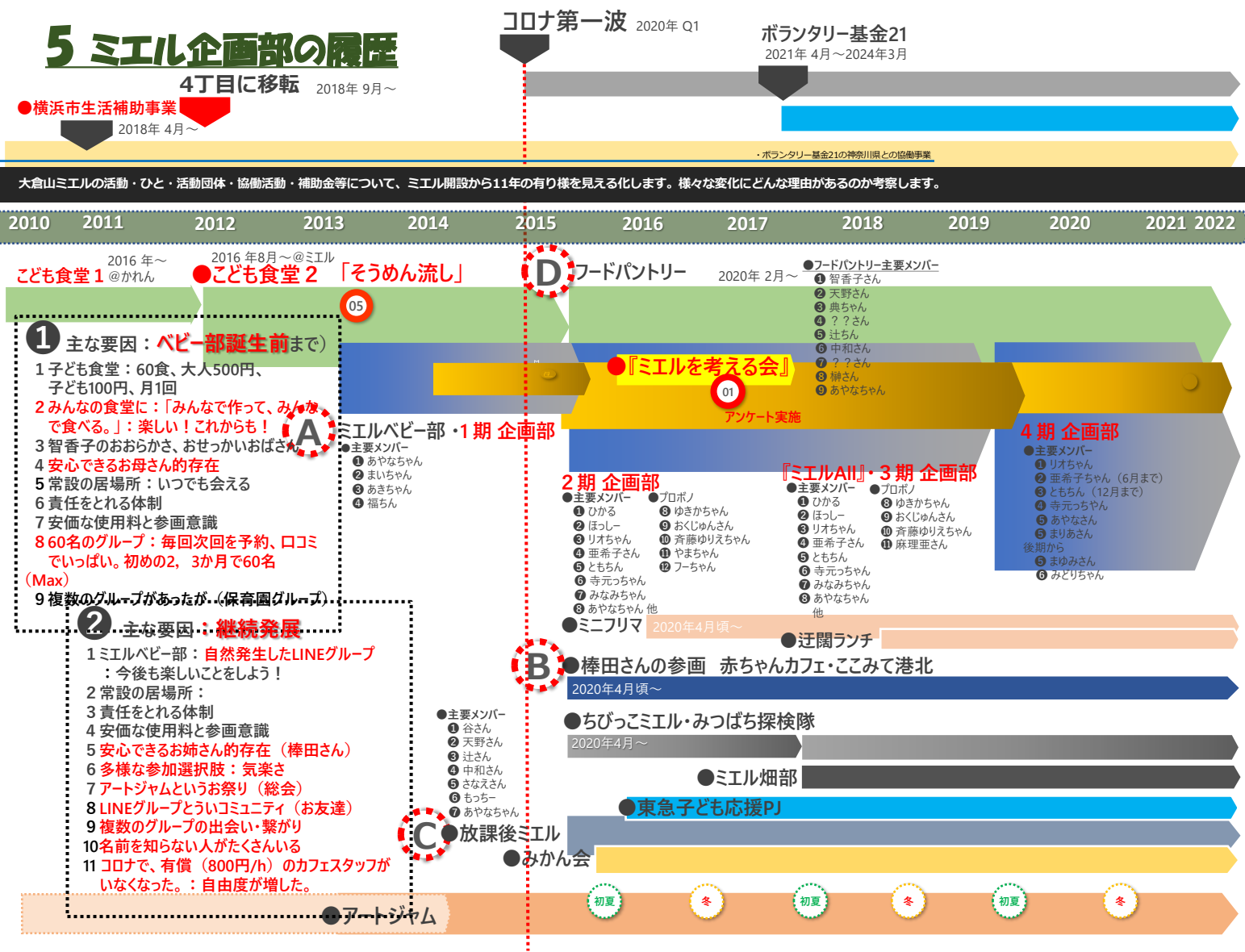
1 ベビー部の誕生の要因

- : 楽しい体験を継続したい。みんなにも体験してほしい。
- : ミエルの基本的在り方として：心的安全性（優しいじいじとばーば）

2 日常的な楽しいコミュニティを作ろうとしているミエルの姿勢。

3 継続発展の要因

- : 安心できるお姉さんの存在（棒田さん）
- : 多様な参加選択肢：気楽さ
- : アートジャムというお祭り（総会）
- : LINEグループとういコミュニティ（お友達）
- : 複数のグループの出会い・繋がり



⑥ 大倉山ミエルの「3度の移転」

- 様々な人たちとの関わり ➡ 心的安全性+知の共有
 - 地域で長く活動をしている方々との連携
 - フォーラムアソシエなど、生活クラブの方々との連携
 - 横浜コミュニティカフェネットワーク、横浜プランナーズネットワークとの繋がり
 - 市民セクターよこはまと協働推進センターとのかわり
 - 港北区子ども若者支援団連絡会立上、社協とのかわりなど。
- 地域活動が大切、居場所だけにこだわっていない。
 - イベント ➡ 日常活動 ➡ コミュニティ
 - カフェ運営に本気になれない。
- 継続へのこだわりが少ない。(転勤族の街づくり)
 - 「いいものは、長続きしない。それが世界の原理です。でも、その素晴らしい出来事が、その先の時間を豊かにしてくれます。」 : @「屋根のない学校」奈須正裕先生の言葉

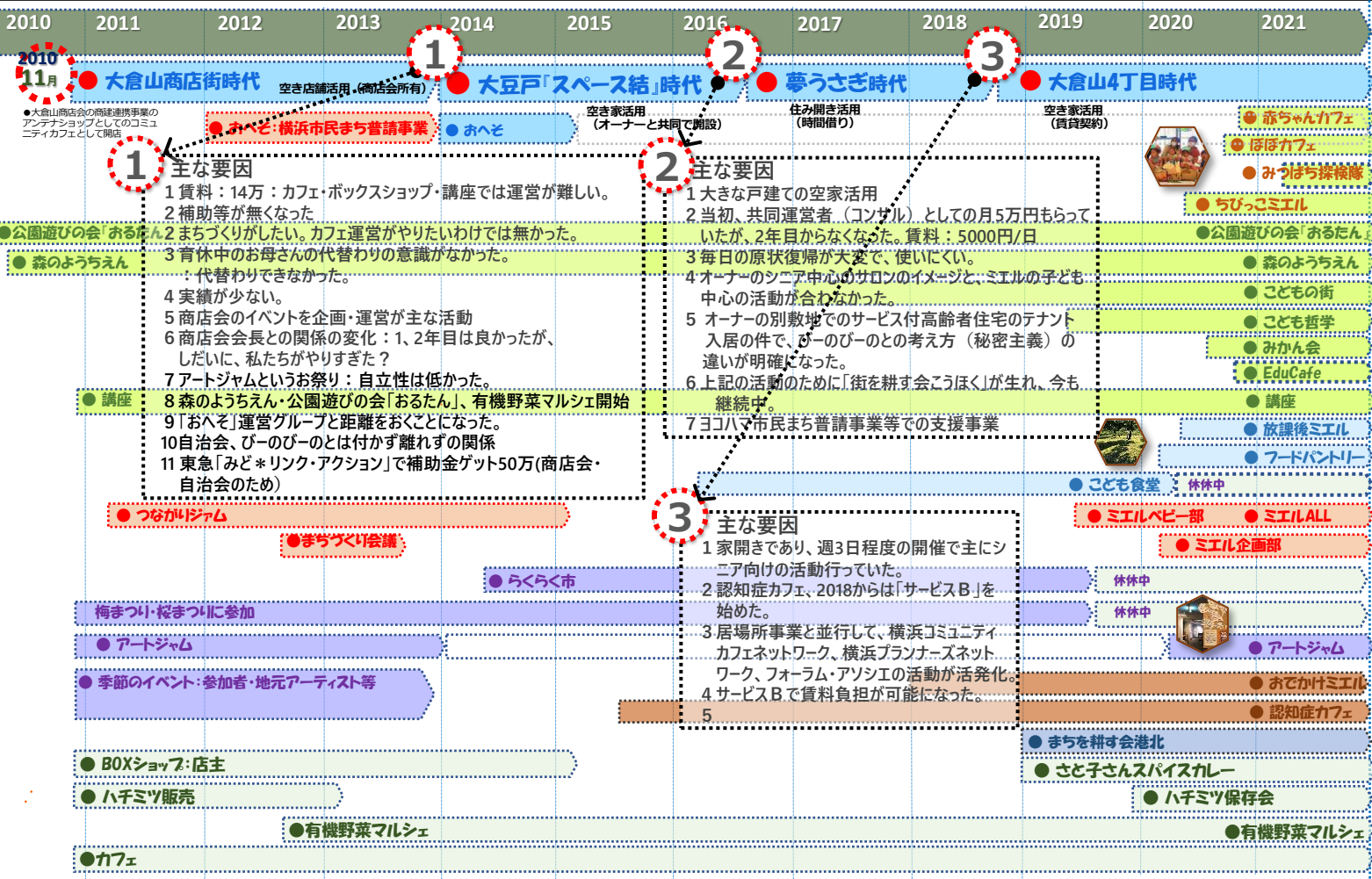
■大倉山ミエルの3度の移転



6 移転 大倉山ミエル・地域での協働活動の見える化 2021

●大倉山ミエルの11年の活動の見える化により、活動の活性化のポイントや有り様を分析するための「インシュアMAP」です。

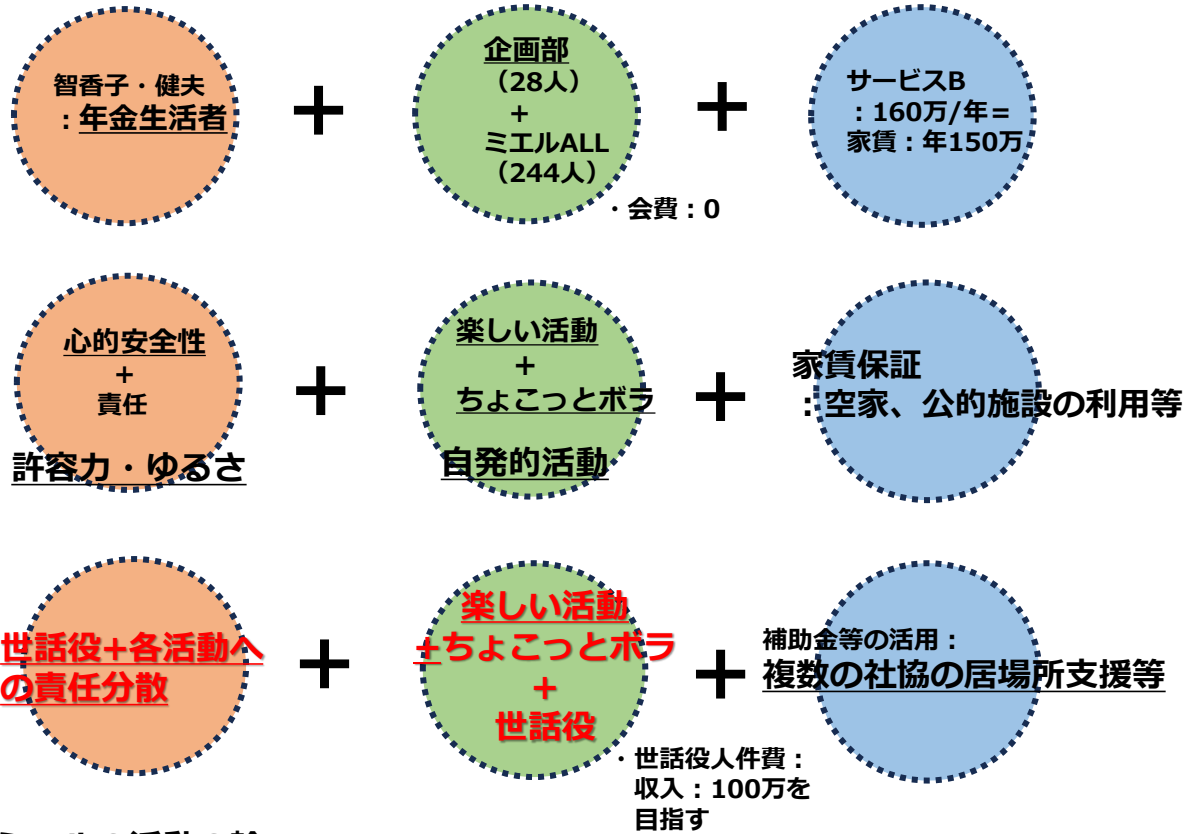
大倉山ミエルの活動・ひと・活動団体・協働活動・補助金等について、ミエル開設から11年の有り様を見える化します。様々な変化にどんな理由があるのか考察します。



● テーマ：「大倉山ミエルのこれから」

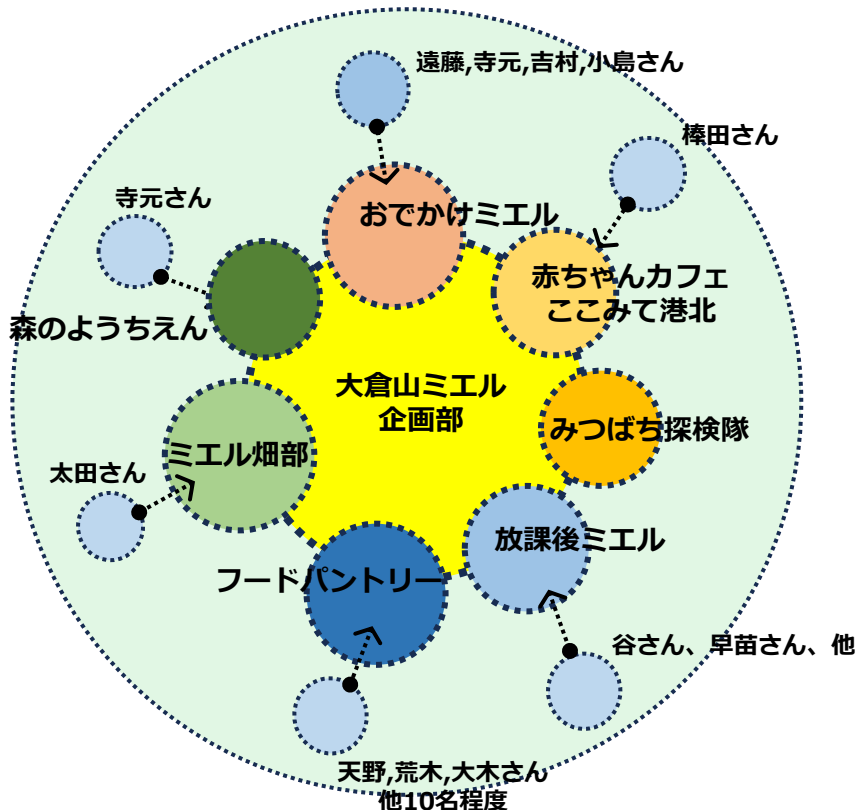
■ 徒歩圏のゆるくて自主的な多世代の居場所が広がっていくために

1. ミエルを支える要因



2. ミエルの活動の輪

：活動歴14年のつながりの輪：無理せずゆっくりつながり続ける



⑨ 居場所の運営・財政形態

*金額等は想定です。金額は月額(円)です

*サービスB:横浜市生活支援補助事業(サービスB)です。

① 茅ヶ崎市「さろんどて」:さいとうさんち、かんさんち

● 家賃:2万 + 賃金:0
(★空き家活用) (ボランティア)

家賃には光熱費等も含む

② さくら茶屋西柴

● 家賃:10万 + 賃金:0
(★サービスB) (シニアボランティア)

③ 大倉山ミエル1

● 家賃:15万 + 賃金:5万
(★サービスB) (楽しい+ちよこっとボラ+ボランティア)

④ 大倉山ミエル2

● 家賃:15万 + 賃金:15万
(★サービスB) (楽しい+ちよこっとボラ+ボランティア+補助金)

*ランタリー基金21、東急子ども応援PJ等の補助金で3人×5万/月程度

⑤ こまちぶらさ

● 家賃:15万 + 賃金:30万
(カフェ+会費+講座+委託費+クラファン等)

⑥ ハートフルポート

● 家賃:2万 + 賃金:10万
(★家開き) (カフェ等)

⑦ 港南台タウンカフェ

● 家賃:15万 + 賃金:30万
(★サービスB) (カフェ+BOXショップ+委託費+講座等)

*収入は:会費+補助金+委託費+寄付+クラファン+飲食+レンタル+BOXショップ+講座+マルシェ等が考えられる。

⑩ 自立した「多世代の小さな居場所」のモデル化

*金額等は想定です。金額は月額(円)です
*サービスB:横浜市生活支援補助事業(サービスB)です。

① 茅ヶ崎市「さろんどて」: さいとうさんち、かんさんち

● 家賃:2万 + 賃金:0
(★空き家活用) (ボランティア)

家賃には光熱費等も含む

② さくら茶屋西柴

● 家賃:10万 + 賃金:0
(★サービスB) (シニアボランティア)

⑥ ハートフルポート

● 家賃:2万 + 賃金:10万
(★家開き) (カフェ等)

③ 大倉山ミエル1

収入:100万円:世話役

● 家賃:15万 + 賃金:5万
(★サービスB)
(楽しい活動+ちよこっとボラ+ボランティア)
世話役 + 自発的な活動

① 自発的な「小さな多世代の居場所」

大倉山ミエルは4年前に3回目の移転で、現在の元ギャラリーと陶芸の工房の70㎡の小さな平屋を借りて移転しました。現在、かなり理想的な1歳~101歳の居場所になっています。様々な活動が自発的に企画され運営されています。地域の行政や小中学校や地区社協、ケアプラザ等や活動団体とも連携しています。

全体運営は理事長+1名で行っていますが、現場での様々な活動企画・運営はミエルALL(lineグループ230人)とそのまとめ役:ミエル企画部(23人)の内、基本育休中の親御さんが中心になって自主的に企画・運営等を行っています。

② 心的安全性のある場づくり

現在のミエルの心的安全性がどのように確保されているのかをヒアリング、アンケート等も含めて考察し、その要因の可視化を行う。全体運営を行う基本メンバーとその在り方、又、ミエルALLやミエル企画部のでき方、関係性の主要因を明らかにする方向で検討す。

③ 自発的運営・収入源の検討:「楽しい+ちよこっとボランティア」

大倉山ミエルの現在の居場所運営の主な収入源は横浜市生活支援補助事業(サービスB)で、月・水曜日の10時~13時のシニアサロンにより家賃と光熱水費が賄われています。今後、ミエルのような居場所を容易に運営できるように、サービスB等を前提に、給料とボランティアの共存を図り、自主的な運営を維持しながら、人件費用の収入形態を検討し、ミエルで実施して、検討・検証を行う。

検討する収入項目は:会費+補助金+寄付+レンタル料+BOXショップ+講座収入+クラファン+飲食+委託費+マルシェ等が考えられる。

⑪ ミエル企画部・ミエルALL

- 1 自然発生型の組織：子ども食堂、みんなの食堂 から生まれたLINEグループ
- 2 自立性重視：いつの間にか活動している。「ミニフリマ」「迂闊カフェ」「みかん会」…
- 3 LINEグループ：情報共有・コミュニティの醸成、テーマ型コミュニティ。
- 4 世代交代：育休中の親が中心：毎年次期を誘う。そして、ゆるくかかわり続ける。

● 全ての活動を温かく見守るミエルという家（プラットフォーム）

- ・自立的な活動へのヒント：ミエル企画部：ミエルは情報共有をする毎年更新する「ミエルALL」（現在230名）というLINEグループと、ミエルを自主的に支え、ミニフリマ、みかん会、みつばち探検隊等を自主的に発案・企画・運営等を行い、その他、多くのLINEグループのまとめ役を担う「ミエル企画部」（現在25名）のLINEグループが有ります。
- ・令和一年夏のソーメン流しの時に自然発生的に生まれたLINEグループが始まりで、育休中の親ごさんが中心的に活動していて、毎年、育休が終わると、時期の世代につなげることが必要で、一期からメンバー自身が、自分たちで、次期のメンバーにつないできて、現在四期に移行中です。
- ・ミエルのコミュニティは課題解決型ではなく、そこにいる人が必要な事、やりたい事を、できることから始めるタイプです。できる範囲で無理なく、楽しく始める活動です。いつも、「良いね！やってみて！」「無理なら、いつでもやめていいよ。」と言っています。サポートというより、全員が仲間として考えています。

■ ミエルの根・幹：ミエル企画部、枝・葉：ミエルALL

- ・ミエルの様々な活動の企画や運営を自主的に支えるミエル企画部（2022.03 現在27名）、そして、ミエルの参加者・利用者としてのミエルALL（2023.03現在237名）というゆるいコミュニティが続いている。



『活動』 → 『つながりそのもの』が目的
『楽しいコミュニティを作り・むりなく続けること』が目的

⑫ プロボノメンバー座談会 「ミエル企画部のこれから」

- ミエル企画部のメンバーで、ミエル企画部のこれまでとこれからを、意外に、まじめに話し合ってもらいました。
 - 新旧の見える企画部のプロボノメンバーの座談会を開催。20230211
 - 第一回ミエルプロボノミーティング議事録 2023/02/11
参加者：ゆきか、アヤナ、谷篤、おくじゅん、斎藤ゆりえ、りお
- 鈴木健)** ミエルでのゆるい活動が、なぜできているか、その展開方法などきいてみたい。

谷) もし鈴木夫妻がゆるい要因だったとしたら、移転できない〜!!!

おくじゅん) それもあるけど、地域性と、いろんなものの複合体がうまく噛み合ってるからかなと思う。

鈴木健) 「さろんどて」の早川さんも、ミエルのゆるさが魅力的だと思っているけど、ミエルみたいにはっきりものが決まっていのにスタートしたり、いつのまにかやめたり、途中で変更したり、なかなか難しい。と話しています。

鈴木智) アクションポートってどんな感じ？

ゆりえ) 「さろんどて」のようなきちっとやっていく組織の中で、ゆるい部分を残さなければならない部分はわかる！ある程度お金を回している組織だと、お金を出されている事業だと結果を出さなきゃならない。ミエルみたいに場があって回っている中でも、支援や責任あることを目的としてやっているところは、ある程度職員が責任を持ってやらねばならぬものがあるという中で、ボランティアや地域の繋がりだったり利害関係性の薄い人たちがゆるりと交わる「余白」をどう組み込んでいくかの悩みだと思う。ミエルの在り方と、他のミエルの良さを伝播させていきたい先の在り方が違う、環境や所用の条件が違うという話だと思っている、ミエルであっても、向き合っている壁はあまり変わらない。助成金を取っている部分はしっかりやりつつ、経理や裏側をやりつつ、その中にこのゆるさの場がどのように生きているのか浮かび上がってくると今日話したいところではないか。

アクションポートは、学生の参加を促す地域の団体やNPOや公共施設に学生が生き活きと活動できる場を作っておくといいよ！と言っている組織。学生は事業をやっている人から見ると不確定。こういう風に活動の枠組みを作るとやりやすい。ミエルの枠組みがどのようにできているのか、枠組みがあって人が入ってきている形ではなくて、人と出会いながら枠組みができているというプロセスを踏んでいると思う。

接点がないところからスタート。枠組みを作らないと交われない。ミエルと地域の人たちの場合は、枠組みがなくても関係性が持ちうるところがスタート。今の話とは繋がらない。

頭出しで思ったのは、ゆるいのがいいというのは皆思っていると思うが、自分が活動運営している中での実感は、ゆるいと単純に霧散する。ゆるいや自由に集まる人の意思を尊重しても、その活動にまだ入ってきてない人にわかりにくいから人は惹きつけられない。ゆるいや自由の良さで自走するのは繋がらなくて、それ以外で何があるのかな？

谷) 「ゆるい」以外のキーワードが出ると良い！

鈴木健) 「だから僕たちは組織を変えていける」の講師でもある鈴木勇次さんが特別ゲストです！

谷) 「ゆるい」は良い！だけど「ゆるい」から脱却しないと智香子さんのパーソナリティーに依存してしまい、厳しいリーダーのNPOの人がマネできない。

目的主義ではないのが印象的。目的を持つのが大事だと言いがち。NPOは利益を追求しない分、理念が大事と思いがち。ミエルは目的がはっきりしなくていいのが、は特殊。

鈴木健) 障害児やダイバーシティの基本的な考え方。

谷) ビジョン、すごく良い！放課後ミエルでビジョンを作りたい！

健夫さんと智香子さんが違う意見を言ったこと、とても大事だと思っている。2人が違う意見を持っていることで、いろんな幅が広がっていく。結果的にいい効果をもたらしているのではないかな。

おくじゅん) 結束力があるからゆるいだけではない。ゆるさの象徴として、関わり方の大小を許容する許容力をゆるさと表現しているのではないかな。他のNPOを見たことがあるが、理念や信念がしっかりしているNPOだとコアに活動している人たちの熱量や活動力などが一緒じゃないと気が済まない。

多少出ることを許容しない組織が結構ある。ミエルはそういうのではない。ゆるさ、許容力が持てない人は結構多いのではないか。それが無い集まりをマネできればいいのでは。みんながいろんなことをやっているが、根底にある思いとしては、「**ミエルの場を残したい!**」という気持ちが特に中心メンバーにはあるのではないか。ダイバーシティーは場がなくても思想があればできる。ミエルはこの場がないとできることできないことがある。無くさないために、あれやりたい!これやりたい!の発想が出てきているのではないか。

谷) 関わり合いや熱量を同じくらいに求めちゃう組織が多いと聞いて、PTAがまさにそう!

おくじゅん) 自分で手をあげたりできると、物事はポジティブに自己裁量で取れると思うが、受け身で入ってくると違う。受け身の人を許容する心があるかで場の成り立ちは違ってくるかなと思う。

りお) 同じ立場同士なので強要はできない。助け合いで成り立っている。小さい活動で、気楽にできる活動を求めているママさんが多い印象。成果を求めないからこそ継続して活動ができる。

ゆりえ) ゆるい集まりほど中心に立つとしんどい。周りは助けてくれるけど強制はできない。中心に立つといろんな楽しさが見えてきて、ある程度顔つなぎができるからこそ、自分ができていることが増えてきて楽しくなってくるが、バトンを渡せる人がいない。自分が続けるかやめるかの選択肢しかなくなる。じじばあばの壁の乗り越え方が知りたいポイントになってくる。

アヤナ) ひかるちゃんほっしーが1年馴らしてくれたのと、コロナもあって一旦ペースダウンした。ZOOMも含めて何回か話し合ったことで意識統一された。**子育て世代という大きな共通点があって**、一緒に親になりつつあって、子どもの成長を見守りながら楽しいことをやろうよ!というビジョンがあった。困ってるママを助けるとかは派生して出てきた。コロナ前に自分たちが楽しいことをやってたら、他のママが集まってきて一気に100~150人くらいに増えた。大人(じじばあば)が違った意見を言い合っていて、それを子どもも見ている。子どもの目線で言ってくれて、その中で子ども達も育っていく。それを見た大人は、なんて安心できる場なんだと感じた。1人で子育てするより皆で群れで子育てした方がいいと思えた。**ミエルは生活の中での延長線**、ここで過ごす自分もやれることがあるのかな、役に立てることがあるのかなという考えが自然と生まれてくる。コアメンバーじゃなくても関わってくれる方が思う瞬間があるのではないか。

鈴木智) コロナが挟まったのは偶然ではない。これからまたギアが変わってくるのでは。ビジョンがあれば良い!立ちもどれるのでは。熱海や畑など、外に出かけていけるのもミエルの強み!キャパシティーが広がる。

鈴木美) 網代の廃校を使って何かできるかも!ミエルの場を使って自由になんでもやりたいことをやっている枠組みなのが良い。場を使って欲しいというスタンスだったのがハマった。南熱海の家も、自由に使って欲しい。

ゆきか) ミエルの良さは無理強いしないこと、**やりたいと思ったことをジャッジされないゆるさ**が良い。やりたいと言ったことが、何か誰かと繋いでくれる。やりたいと言わなくても会話の中から「やってみたら」とアクションに繋がるコミュニティがやることに対するハードルが低い。子どもの事情でやりたいけどやれない時に必ず誰かが手伝ってくれて、また誰かができない時に助ける良い循環が生まれている。皆で協力し合いながらやっていることが、誰かの達成感になっている。コロナのせいで、**クローズドな生活の中でミエルでは発散でき、それが結束力になって今のミエルALLになったのではないか。**

鈴木智) コロナになった時に、与えられるものがたくさんあった。そのことをブラッシュアップすれば良いのかも。

鈴木健) コロナが収束してくると、前はどこにも行けなかったからミエルの存在が役に立ったけど、今後ミエルの役目が薄れていくことは絶対あって、その時にどう対処していくか。ミエルが変わっていくのはそれはそれで良いのかなと。コロナだったからミエルALLや企画部ができたが、これも変わっていくと思う。コロナの時にミエルがすごくよかったことは、コロナじゃない時にも必要なことなので、維持できることを考えていかなきゃならない。

おくじゅん) コロナが明けても変わらないのではないか。少子化と長野県の公園問題が勃発するように子連れでいける場所がせちがない世の中になってきていて、人が集まることに敏感になってきている。アフターコロナになっても簡単に抜けきらない。少子化を食い止めるには、こういう場がないと生き苦しい人が増えて少子化が加速するのでは。気兼ねなくいけるところは少ない。

港北区のエリアは地元じゃない人が多く、共働き世帯も多く、こういうコミュニティの場はありがたい。以上

⑬ ミエルの協働活動

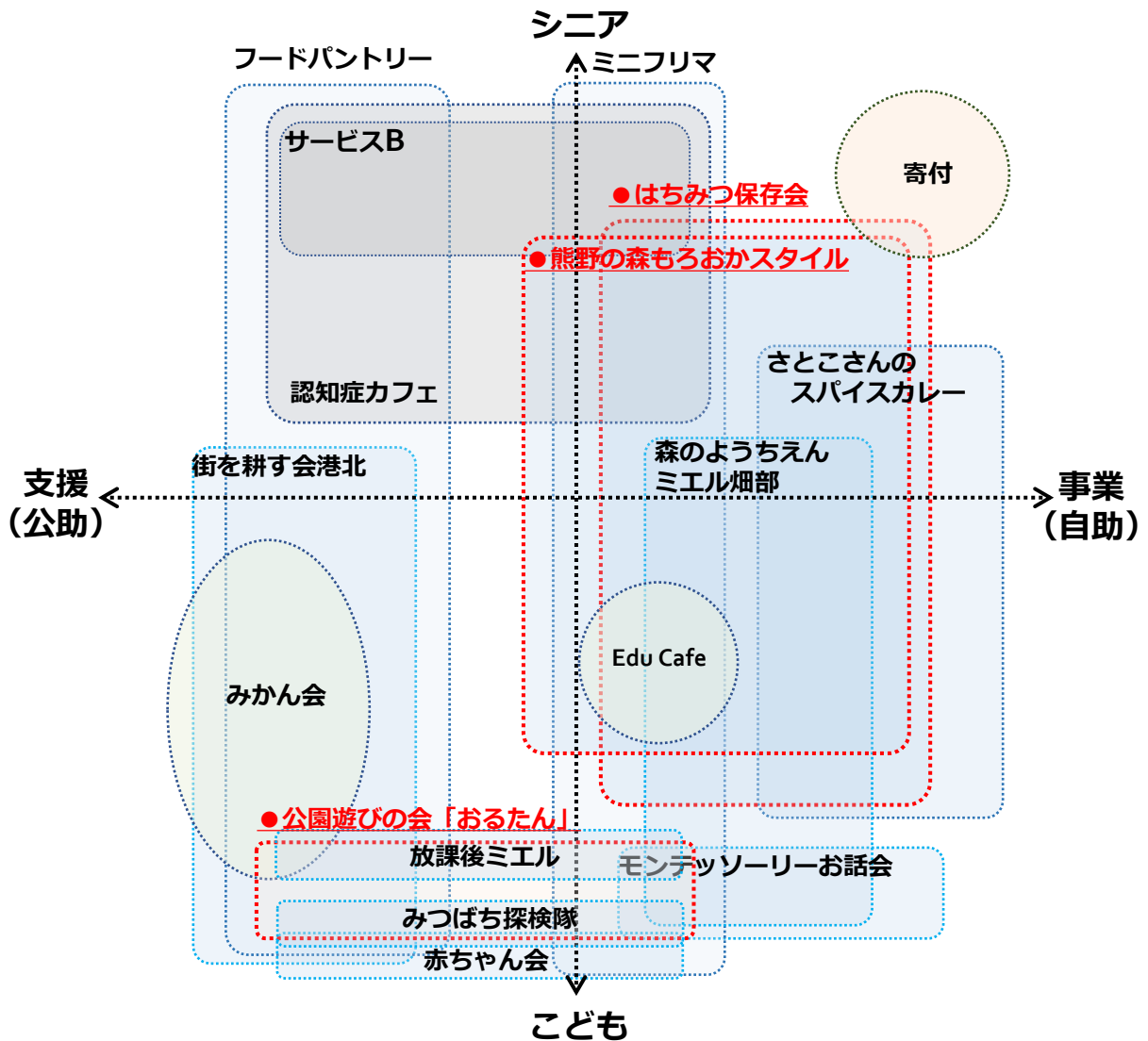
- 大倉山ミエルの協働活動：① ミエル内部の協働
② 大倉山地域での他の活動団体や行政機関等との協働

1 ミエル内部の協働

見えてきた協働の課題とヒント

- ・ゆるく、ながく、楽しいコミュニティが、自然に続いていけることが目標だと考えています。当然時間の経過と共に変化してゆく関係だと思えます。「ゆるい大家族」のような関係とも言えるでしょう。メンバー同士の日常的な助け合いの関係が大切だろうと考えています。
- ・改めて市民活動の課題は、活動の担い手の高齢化、活動費の必要性と捻出方法で、その解決するために重要なポイントは何か？、そして、そのヒントは、其々の活動団体が、**つながるためには、自分たちに不足していることをみんなで共有して、お願いしてゆくマインドが大切。**そして信頼関係が必要です。

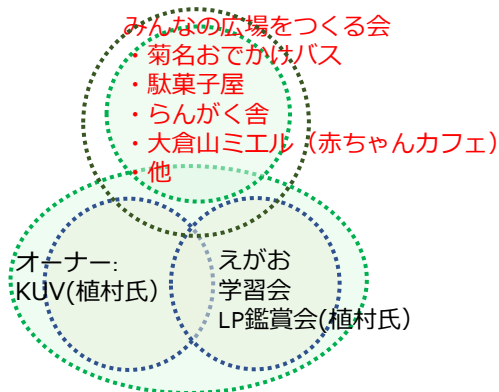
■ミエルの活動・協働活動広がり：活動の重層性



『課題解決のための活動』 → 『自然発生的・やりたい人が始める活動』

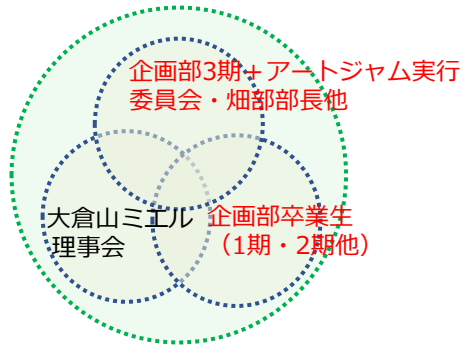
2 大倉山地域での他の活動団体や行政機関等との協働 1

1 菊名みんなの広場 → 「菊名あったか」



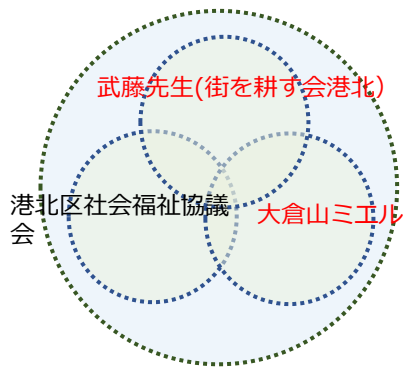
- 立上・街普請支援・そして現在、分裂中：協働活動は休止中

3 ミエル企画部



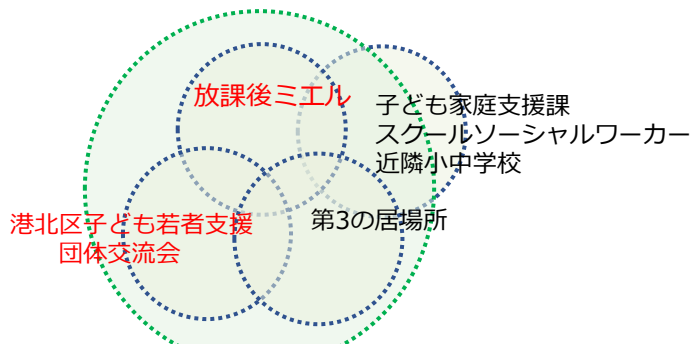
- 自然の発生したミエル企画部 1期そして育休明け毎の世代交代で4期目。ゆるいけど強いつながり。

5 港北子ども若者支援団体交流会



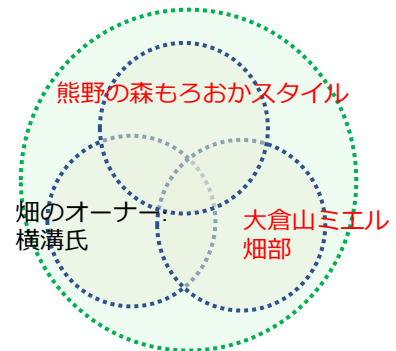
- 武藤先生の呼びかけに大倉山ミエルも協力して社協に持込、社協に前向きに協力していただいて順調に進んでいる。(港北区の3 1団体+ 2 2 機関程参加中)

7 放課後ミエルからの展開



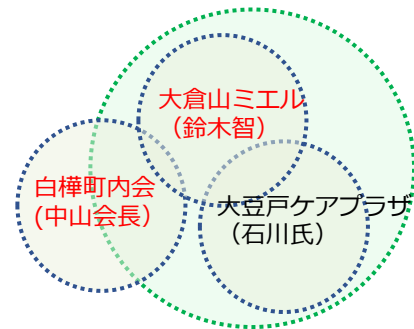
- 放課後ミエルのボランティアのお父さんのやりたい事の支援でもある「子ども第3の居場所」への展開も目指し、子ども若者支援団体交流会とも、連携してゆく予定。

2 大倉山はちみつ保存会



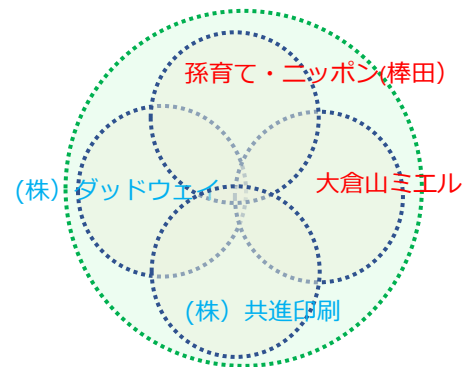
- はちみつ保存会：熊野の森もろおかスタイル・畑のオーナー・大倉山ミエルの協働事業

4 自治会館の再利用



- 地域ケアプラザと共に、白樺自治会館の有効活用について、自治会と打合せを始めている。

6 「ここみて港北」LINE妊産婦支援



- 棒田さんの発案で企業にも出資してもらって、ミエルも協力して進めている。大倉山地域での「赤ちゃん会」の開催も行っている。

3 居場所の作り方マニュアル (2023)

協働する居場所の作り方：公開性・社会性・常設性・事業性？

2021.01.07

1 やりたい事？

①仲間をつくる
②自分のやりたい事
③あなたのやりたい事
④地域の課題
⑤やりたい事
⑥4つの重なり、やる事
⑦具体的なプラン作成
⑧活動・事業計画書

2 参考に学ぶ

先輩とつながる
①助けてもらうことから
②ヒアリング・人脈づくり
③身近な相談相手
④活動・事業計画書
⑤周辺活動・地域資源調査
⑥将来につながる仲間
⑦具体対象者目標
⑧MAPづくり

3 具体的なプラン

無理ないプラン
①小さく始める
②仲間を探る
③共に考え続ける
④いつ、どこで、何を、
⑤誰と
⑥LINEグループで
⑦柔軟に考える
⑧事業性も考える
⑨具体的な活動後継

4 まず、お試し

地域の仲間作り
①まず、色々お試し
②仲間を探る
③毎回の見直し
④具体的な対策を
⑤専門家と相談する
⑥協働センター等
⑦地域へのご挨拶
⑧地域へのご挨拶
⑨地域の仲間入り

5 始動

やれることから
①相手がいる活動を
②事業計画
③楽しく、ゆるく始める
④やりながら考える
⑤口コミで広がる
⑥すぐやめれるように
⑦お話し補助金申請
⑧3に戻る

ステージ 01

ステージ 02

ステージ 03

ステージ 04

ステージ 05

ほんとに『居場所』は必要？

改めて、居場所がなくてもよくなることは？
居場所の居場所は出ないの？

つながる楽しみ！

他人と話すこと、発見がある。

ゆるく、ながくつながる

無理なく、気楽に
居場所が大切

Step 1 キーワードの意味 1

1 やりたいこと？

目的の共有

①仲間をつくる
②自分のやりたい事
③あなたのやりたい事
④地域の課題
⑤やりたい事
⑥4つの重なり、やる事
⑦具体的なプラン作成
⑧活動・事業計画書

1. 『やりたいこと』の共有

① 仲間をつくる
・できれば5人以上で始める
・仲間を作ることで目的が明確になる

② あなた・自分のやりたい事
・自問自答、自分がやりたい事を共有

4. 具体的なプランをつくってみる

⑦ お試しで具体的なプラン作成
・とりあえず、現在・未来をふまけてプランを作り、みんなで共有してみる。

⑧ 活動・事業計画書
・具体的な活動・事業計画・補助金申請・報告書
・目標と達成法を明確にする。

2. 『やること』の検討

③ 立地特性・現定利用費

④ 地域の課題
・活動する場所の地域の様々な課題を
小学校、市、区、町等の課題を
挙げてみる。

⑤ 地域の活動、施設を知る

⑥ やりたい事としてやる事
・今のメンバー、状況でできることを確認する。

3. 足りないを知る：お願いする

⑥ 足りないところを確認する：お願いする
・自分がやりたい事・あなたがやりたい事
地域の課題・やるべき事などの部分が
実行できること。

Step 2 キーワードの意味 2

2 参考に学ぶ

先輩とつながる

①助けてもらうことから
②ヒアリング・人脈づくり
③身近な相談相手
④活動・事業計画書
⑤周辺活動・地域資源調査
⑥将来につながる仲間
⑦具体対象者目標
⑧MAPづくり

1. 先人に学ぶ

① 参考に学ぶ
・地域の居場所のヒアリング (対象、大きさ、事業性)
・HP、報告書を確認する
・大宮はエール、城南はタカノカ、こまちカ、
ハートフルポート、シェアハウス、さら茶屋西芝、
川ノムライ、CASAKO、芝の歌等

② 参考事例で学ぶ
・お話し講座：匿名ボランティアネットワーク
・コミュニティカフェ：異業種交流
・持続可能な地域の作り方：資源活用
・ソーシャルデザイン実践ガイド：異業種活用等

③ つながりMAPを作る

・身近な相談相手を探す
・日常的に付き合いやすい仲間
・心の支えになる。
・支援のアイデアが見つかる
・点から繋いで面へ

3. 活動・事業計画書

④ たまたまの活動計画・事業計画を作る
・HPの報告書で参照する。
・活動のアイデアを見つける

⑤ 具体的な対象者目標
・目の前の都合ではなく利用者の目標で決める
・自分たちの都合ではない利用者の目標で決める

2. 近くの先輩に学ぶ、つながる

① 地域のヒアリング・人脈づくり
・地域のキーパーソンに会いに行く (ヒアリング表)
・自治会、町内会、町会等ヒアリング
・行政、社会福祉協議会等にヒアリング
・ヒアリングは人脈づくり・継続的に
・相手によって関わり方を調整してゆく

② 助けてもらうことから
・助けてもらうことで気楽につながる
・共利を考える (共利差を利用)
・助けあって
・結果につながる

Step 3 キーワードの意味 3

3 具体的なプラン

無理ないプラン

①小さく始める
②楽しい企画
③共に考え続ける
④いつ、どこで、何を
⑤誰と
⑥LINEグループで
⑦柔軟に考える
⑧事業性も考える
⑨具体的な活動後継

1. 小さく始める

① 小さく始める
・最小限の人数で、利用できるものを
・月3時間から
・無理ない
・10年は続けるつもりで

② 誰と、いつ、どこで、何を、を
③ 楽しい企画
・参加しやすい企画
・楽しいので長く

④ 柔軟に考える
・先物が当たり
・必ず改善策を実行する

3. 事業性も考える

⑥ 事業計画書を作る
・受益者負担が出来る活動が
・受益者負担が出来ない活動は補助金等
を検討する
・活動の要領があると補助金を受けやすい

⑦ 楽な補助金の検討
・地域のスタートアップ補助金を検討
・地区社会の補助金等

2. コミュニティづくりの始まり

② 共に考え続けること
・二人以上で考える
・考え続ける

③ LINEグループで情報共有
・コミュニティづくりの始まり
・LINEグループ等で情報共有を図る
・Zoomも積極的に利用する

Step 4 キーワードの意味 1

4 まず始めよう

地域の仲間作り

①まず、色々お試し
②仲間を探る
③毎回の見直し
④具体的な対策を
⑤専門家と相談する
⑥協働センター等
⑦地域へのご挨拶
⑧地域へのご挨拶
⑨地域の仲間入り

1. 小さく始める

② まず、色々お試し
・トライ＆エラーで
・気楽にチャレンジ
・思わぬ発見が楽しみ。

③ 仲間を探る
・始めることで、新たな出会いが
・来てくれた人がどんな方に来てくれたか
聞いてみる。
・つながれそうな人口は探ってみる！

④ 毎回の見直し、⑤共利の対策を
・案に気づいたときは、DPCで可。可。
・無理は禁物

3. 地域へのご挨拶

① 地域へのご挨拶
・近隣の自治会、商店会などの挨拶。
・できれば知れぬいから、人づてに。
・チラシなどご挨拶。

② 地域の仲間入り
・あさびや、風呂に
・そこから始めよう。
・相手によってはスタンスを変える。

2. 専門家と相談してやる

① 専門家と相談
・お話し講座の開催はみんな、良い事、悪い事。
・客観的なアドバイス
・簡単なアンケート (グループフォーム)

② 横浜市協働支援センター (無料) 等
・エール・城南台タカノカ・こまちカ等と相談

Step 5 キーワードの意味 1

5 始動

地域の仲間作り

①相手がいる活動を
②事業計画
③楽しく、ゆるく始める
④やりながら考える
⑤口コミで広がる
⑥すぐやめれるように
⑦お話し補助金申請

1. 担い手探し

① 担い手がいる活動を
・常に担い手がいることを前提に活動
・人数、大きくて可

② 事業計画
・最悪の事業計画も想定しておく。
・足りない部分は誰かにお願いするつもりで。
・無理せず、楽しい活動をする事で行動を促す。

③ 楽しく、ゆるく始める
・自分たちで考え、実行するが楽しい。
・楽しさが伝わる活動を！

④ やりながら考える
・毎日の気づきを共有して、対応する。
・提供するものはホストが可。

3. 最良の広報は口コミ

① 口コミで広がる。
・口コミで広がる、つながりコミュニティ。
・LINE、フェイスブックで広がるコミュニティの情報共有。
・そして、コミュニティ作り

② すぐ、やめれるように
・社員の活動だからやめにくいけど、無理は禁物。
・後継者が活動していれば、何か活動が見えてくる。

③ お話し補助金申請
・補助金申請してみよう、自分たちの活動の価値、目標が
明確になる。
・社会的な課題が見えてくる。
・政策・行政の施策が見えてくる。

1.2.3にもどる

1 「協働する居場所づくり」の概要

- ・居場所の目的はコミュニティづくり：つながりづくりそのもの。
- ・課題解決のような目的は無くとも良いのでは？
- ・楽しく、無理なくが基本。
- ・月3時間から始めよう。
- ・仲間と一緒に。

④ 「つながる≡フォーラム 2021+2022+2023」

① 「つながる≡フォーラム 2021」の概要・タイムテーブル

- ・コミュニティカフェによる活性化について、特に「つながる」ための考え方等について、法政大学の杉崎和久さん、新川崎タウンカフェの齊藤保さん、茅ヶ崎さろんどでの早川仁美さんとミエルで、話題提供していただきながら、勉強会的にお話しいただいた。

大倉山ミエルは神奈川県との協働事業で『孤の解消』のために

「活動団体がつながる 2021年度 コミュニティ活性化」

を行っています。

この事業(ボランティア基金21事業)では

- ① 大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業等の活性化と、その見える化・モデル化
- ② それらを基にした県域への展開
- ③ コミュニティ活性化のための人材育成のためのOJT的研修・つながりづくりを行っています。その中間報告としてミニフォーラムを開催します。

1/30 (日)
13:30~15:30+交流会
@zoom

つながる≡フォーラム

杉崎 和久 モデレーター
法政大学教授 法学部政治学科、大学院公法政策研究科所属。練馬まちづくりセンター専門研究員、京都市景観・まちづくりセンターコーディネーターなど。中間発表活動発表を経て現職。現在はコロナ禍市民まちづくりセンター審査委員長、みどりのまちづくりセンター審査委員(東京都練馬区)などをつとめる。

齊藤 保 コミュニティカフェ運営に関するノウハウの可視化と共有
株式会社イータウン代表取締役。2005年よりコミュニティカフェ「cafeからはじまるおもしろまちづくり」をキャッチフレーズに、場づくりや増つくりを目指し奔走中。著書「コミュニティカフェ～まちの居場所のつくり方、続け方」(学芸出版社)

早川 仁美 「さいとうさんち」から始まる寄り添った型支援とその展開
3人の子育てしながら、公民館や保育所の育児サークル、PTA、子供会、ガールスカウト活動に参加。生活クラブに入会後は、組合員活動に力かわり、それをきっかけに、保育フーカ、市議会議員に。認可保育園の園長を2年務め、現在は、地域のお茶の活動研究所さろんどでの事務局、市議会議員2期目。

鈴木 智香子 大倉山ミエルの小さな居場所と「活動をつなぐ活動」の見える化
NPO法人街カフェ大倉山ミエル理事長、横浜市協働推進センターコーディネーター、市民センターよこはま理事、横浜プランナーズネットワーク、横浜コミュニティカフェネットワーク世話人、一級建築士、大倉山ミエルを開設して12年、小さいからできる自由な居場所とつながる活動を展開しています。

この事業は神奈川県ボランティア基金21の協働事業により行っています。

つながる≡フォーラム 2021
主催：大倉山ミエル
開催日：2022年1月30日 日曜日
13:30～15:30 + 交流会
定員：30名程度

場所：オンライン (Zoom) で行います。
参加費：無料
申込先：大倉山ミエルに電話又メール ☎：045-717-677
Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp





大倉山地域つながりMAP

つながるミニフォーラム

2時間

■日時：2022年1月30日（日）13:30～15:30 @Zoom

■タイムテーブル

13:30～13:35	① 主旨と時間割の説明	5分
13:35～13:40	② 簡単な自己紹介	5分
13:40～14:00	③ 基金21の進捗説明（大倉山ミエル）	20分
14:00～14:15	④ 『さろんどて』早川さんから話題提供	15分
14:15～14:30	⑤ 斎藤保氏： 「コミュニティカフェ運営に関するノウハウの可視化と共有」	15分
14:30～14:35	－ 休憩 －	5分
14:35～15:25	⑥ ディスカッション モデレーター：杉崎先生、パネラー：斎藤さん・早川さん・鈴木智香子	50分
15:25～15:30	⑦ まとめ	5分
		合計：120分

■対話内容：『協働によるコミュニティの活性化』・様々な協働の在り方

この事業は神奈川ボランティア基金21の協働事業により行っています。

② 「つながるミニフォーラム」2021 での考察と気づき

- ・コロナの中で、オンラインによる活動報告的な「つながるミニフォーラム」を1月30日に開催し、30人の参加があった。この1年の基金21補助金事業による活動報告と、茅ヶ崎の困窮者支援、ひとり親家庭支援を中心とした活動紹介、新川崎や港南台タウンカフェを中心とした事例紹介や、コミュニティ分析と、学識経験者として法政大学教授の杉崎先生よりコメントをいただいた。動画の記録、参加者アンケートの集計を行った。
- ・ミエルの4回の立上、3回の移転がノウハウではないか？ 棚卸をしては？
- ・ミエル企画部の発生から、展開が担い手探し、活動の活性化でも興味深い。
- ・フォーラム開催と課題の共有化：今回のフォーラムは、ヨコハマ市民街普請事業の審査委員長でもある杉崎先生をモデレーターに、ミエルの中間報告の後、茅ヶ崎で「さろんどて」の事務局長の早川さんの「地域のお茶の間プロジェクトさろんどて」の説明では、茅ヶ崎駅前の「さいとうさんち」（空家活用）での高齢者向けに始まったカレーの会が、プレママと赤ちゃん会・傾聴講座に、そして第二の活動拠点で始めた子ども食堂から、コロナ禍に始まって、フードバンクにつながり、来年は一五〇世帯に広げる予定です。昨年末からは、第三の拠点として松が丘の空家活用で運営を検討中だが、担い手の確保が課題とのお話もありました。
- ・次に、港南台や新川崎でのタウンカフェの運営者の斎藤さんからは「コミュニティカフェ運営に関するノウハウの可視化と共有」というテーマで、やりたいこと・できること・必要とされていることの整理により、足りない部分を外に呼びかけることが繋がるきっかけになると。そして仲間と組織づくりにはプロセスそのもの、そして、現場の参加者の思いを形にしてゆくことが大事で、協働には人と人としての関係が不可欠等、示唆に富んだ話が聞きました。
- ・後半のディスカッションでも、其々、早川流の、斎藤流、ミエル流の活動があり、一方で、共通の何かもあると思え、それらを見える化することが課題なのではないかと気づきました。

③ 「つながるミニフォーラム」2022

● 「つながるミニフォーラム」2022

大倉山ミエルは神奈川県との協働事業で『孤の解消』のために「活動団体が**つながる** 2022年版 **コミュニティ活性化**」

行っています。
この事業（ボランティア基金21事業）では
① 大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業の活性化と、その見える化・モデル化
② それらを基にした関係への展開
③ コミュニティ活性化のための人材育成のための研究・つながりづくり
を行っています。その中間報告としてミニフォーラムを開催します。

1/17(火)
18:00～19:30+交流会
@zoom

ミニフォーラム

- ① ミエルを自立的に支える企画部の「楽しい活動+少しのボランティア」
- ② ミエルの3回の移転はなぜ？「協働のおとし穴」

杉崎 和久 モデレーター
協働の推進と、ボランティアの活動の促進、地域の活性化に貢献することを目指して活動しています。

早川 仁美「さいとうさんち」から始まる「活動を繋ぐ活動」の見える化
3人の子育てしながら、公民館や養育施設の育保サークル、PTA、子供会、カールアウト活動に参加。地域活動のリーダーとして、組合員活動にかかわり、それきっかけに、保育フー、市議会議員に立候補。現在は、地域のお茶の間研究会所長としての事務にあたっています。

鈴木 智香子 大倉山ミエルの小さな居場所と「活動をつなぐ活動」の見える化
NPO法人むすび大倉山ミエル事務局。横浜市の協働推進センターフェスティバル事務局。先子リレーグループは理事。横浜ボランティアネットワーク、横浜コミュニティカフェネットワークの共同代表。一級建築士。大倉山ミエルを開設して1年、小さいからできる自由な活動を行って来ました。

この事業は神奈川ボランティア基金21の協働事業により行っています。

主催：大倉山ミエル
開催日：2023年1月17日 火曜日
18:00～19:30+交流会
定員：30名

場所：オンライン (Zoom) で行います。
参加費：1000円
申込先：大倉山ミエルに電話又メール ☎: 045-717-677
Mail : miel@rf6-so-net.jp

大倉山地域「つながりMAP」

つながるミニフォーラム 1.5時間、ZOOM

■日時：2023年 1月17日（火） 18:00～19:30

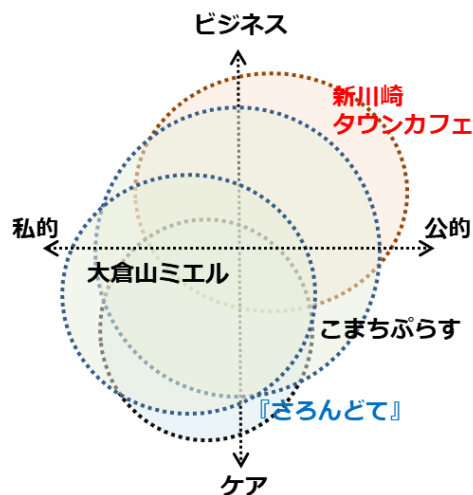
■場所：ZOOM

■対話内容：「協働によるコミュニティの活性化」

■タイムテーブル（案）

① 主旨と時間割の説明	5分
② 各人の挨拶・近況報告	5分
③ 早川さんからの近況報告	5分
④ ディスカッション （杉崎先生、早川さん、鈴木智、鈴木健）	
① ミエル企画部の 「楽しい活動+少しのボランティア」	30分
② 「ミエルの3回の移転」から学べること	30分
⑤ まとめ	15分
合計：	90分

■活動の広がり・性格



*あくまで主観的イメージです。

- ミエル企画部のメンバーで、ミエル企画部のこれまでとこれからを、意外にまじめに話し合ってもらいました。
- 新旧の見える企画部のプロボノメンバーの座談会を開催。20230211

■つながるミニフォーラム議事録

【開催日時】2023/01/17(火) 18:00~19:30

【参加者】杉崎先生、早川さん、谷さん、棒田さん、美美子さん、伊藤ちあきさん、荒木典子さん、辻さん、西川あやなさん、松本まゆみさん、上田梨央さん

■ ディスカッション 2022

1) ミエル企画部の「楽しい活動+少しのボランティア」

早川) 新しいことが生まれ、短期間で実現させていくことは怖くてできない。スタッフメンバーは保育士がほとんど。保育の管理をしている中で、現場の安全の確保を第一に考える。保育園ではないので、多数の親子が集まる中で、親子がのびのびと過ごせるにはどうしたら良いか熟考した結果つまらなくなる状況に陥っている？ミエルの話を聞いて、両方解決していけるのではないか？「ゆるい繋がり」を真剣に考える状況に陥っている。

鈴木智) リスクを考えると、いいのか？と考える時もあるが、今のところ怪我などなく過ごせている。この場を長く維持していく為にもっと考えなければならないと思う時もある。

鈴木健) 思っているよりもっと少ない人数でやっている。ある限られた人数がいろんなことをやっている状態。居場所も小さく、人数も限られているので、広報ではなく口コミで広がっている。活動をやる前の北海道で子どもを遊ばせる「冒険遊び場」から入っている。少くらの怪我はしてほしいと思っている。早川さんからしたら危険！基本的なスタンスは、いい加減。そういうことを求めている。

鈴木智) 子連れのお母さん達が納得して来ているか。できる範囲で保険を掛け、できるだけリスクを回避できたら良いな。お互いの納得という部分をもう少しオープンにしていく必要があると思う。

杉崎) いろいろ触発された。3回移転し、4回場所の立ち上げをしているのがポイントだと常に思っている。場所が変わると、場所や建物の設え、人も変わる。経験的に蓄積されるけど、いい意味でリセットできることもある。それが何かを知りたい。場作りに関して、冒険遊び場の経験もある。それが背景にあることを初めて知った。早川さんの話に重ねると、場所を運営するのはみんなで丁寧に語彙形成をするのが理想だけど、実際はリーダーが強い意志を持って、あるいはこの指とまれのようなことが必要で、中心の人(達)がいて、その人の想いがあるって、強く表現していくところに一緒に乗っかっていく人がいる。企画部の存在が強い。どこで手放そうかと思ったか。最初のメンバーで「これが大事」と思ったものがあって、見えないものを共有していて、後から来た人は、相性で残ったり離れたり。今までの経験で培ったものなのか、最初からなのか。いきいきと活動してもらえる場を作ることが大事だが、一方で最後は責任を取るというおっしゃり方もしている。できた経緯もあるから、目指したいところも言っているけど、そこは柔軟に変わるかもしれないし、出てきたアイデアはどんどんやってね！という盛り上げ方もするところが面白い。

子ども食堂→みんなの食堂へと活動が広がっている。活動の場が開いていて、そこに新しい人が来てワイワイおしゃべりができて、おしゃべりができるからそこでアイデアが出てどんどん展開していく。アイデアを出すような話をする機会がLINEも含めて、ちょっとずつ結果的に広がっている。一方で人数が多くなりすぎて、ミエルを考える会を立ち上げたのもキーポイント。どれくらいの規模感が良いのかなどを発見をし、調整すべく立ち上げた会が、ずっとミエルが大事にしてきたものを共有する機会になったのではないかな。戦略的ではなく、現場での意見が結果的にこうなった。興味を持ったポイントを後付けで整理していくと面白そう！棒田さんの存在が大きい！外に出ていき、活動が展開していくと、その場を複数でコーディネートできる人が出てきたのは大事。

今回話がなかったこと1点言うと、他の組織や他の主体とどのタイミングでどの事業で～の話がくっつく、自前でできない話が出てきて、その話も聞きたい。

鈴木智) 手放すで言うと、コロナがきっかけでコロナがなかったら今の形にはなっていない。コロナで手放したものは多く、何よりカフェを手放したことは大きかった。

杉崎) チャットにもあったが、鈴木家の変化もあった。ポジティブな諦めもある。

2) 「ミエルの3回の移転」から学べること

杉崎) 印象に残った言葉は「転勤族だった」というキーワードに興味を持った。いい意味でいろんなことをリセットしてもどうにかなるという人生経験がこの辺にあるのではと思う。一緒に組む人との関係性の中で条件が変わって、若干受け身でそこでできることを一生懸命やり、やりたいことが明確になっていきながら、経済的なことも含めて主体的に活動するようになってきたのかなと思った。蓄積したものは大事にしたくなるが、転勤族だったのが繋がってるような気がする。(影響が大きかったのではないかな)

実績を積み、地域の中で信頼関係の築きは、蓄積されていったのではないかな。いろんなグループと連携したり離れたりしていることは大事なこと。ボランティア・想いでやってる活動なので、お互い気持ちよく活動できる環境作りが大事だけど、円満な離婚をあえてやって乗り越えて身動きが取りやすい体制でやっていることは、市民活動としてはとても大事なことです。場所が変わるタイミングなどでうまく機会にしながら関係性を精算したり、新しい人と組んだりするのは、単純に引っ越すだけではなく運営も含めて今の体制になっているのではないかなと感じた。

早川) 私も転勤族だがリセットするのは怖い。リセット、自分一人で組み直すのは良いが、仲間と一緒にやっていく中では覚悟が必要。それがなぜできるのだろうと不思議に思う。いくつか気になったのが、財源をどうしているのか。自分たちのお金を持ち出しているから、自分たちで決断し、自分たちで辞めることができるのではないかなと思いました。みんなの寄付や助成金などでやっているのだから、辞めることは無責任に感じてできない。

短い期間に決断して実行することが、なぜできるのか。予算・見通しをたて、戦略を練り、「さろんどて」は小さいことから始め、成功したら次に進んでいく。「さいとうさん家」は辞めないで展開してきたから、やり方が違うと感じた。地域柄が違うこと、オーナーに恵まれた。(家賃など)お金の裏付けがないと勝負できないところがあり、慎重になっていく。今はウェルカムベビープロジェクトを通して、ファウトレッシングを広げていく手段を取っている。やりたいことが広がれば、安定財源を求めなければならぬことは話し合っていてまだ実現していない。市民事業ができるサービスBがあるなど、チャレンジしやすい横浜は羨ましい。

棒田) 高校生にベンチャー企業の話をしに行っていた。ベンチャー企業・中小企業は、5年後に残るのは15%。地域活動は、辞めたくなくなったら辞めてもいいと思っているが、皆は辞めちゃいけないと思っている。ねばならないに縛られている。企画部の良いところは、自分たちが楽しくないことはやらないこと。何かのためにやるよりは、自分たちも楽しめることだからやる、それが一番エネルギーになる。子育て世代なので、次のステージで卒業していきたい人は卒業していけば良い。卒業しても何人かは残りたい人がいて、その人たちがお節介ばあになっていけばいい。来る者拒まず去る者追わず。ミエルで出会って育て、その人がまた違うところで何か活動が始まったら素直に応援していく。一歩間違えたとなぜか市民活動は妬みになる。ミエルは、お金をものすごくかけることをやってる訳ではないので、ダメなら引けばいい、自分たちが大変だったら、手間だったら辞めればいいという土俵があるのは大きい。

家賃の部分で、活動をしようと思うと場所を探すところから始めなければならない。自由に使えるのは大きい。探すとなると、場所によってはケアプラザなど。安くネットで借りれるところを予約し集まるようになる。

お母さんたちだけ特にとすると、これだけ時代の流れが早いので、企業のように年間計画を立てていると、やりたいことができない。あまり予算をかけずにやってみるのが企画部の大きな特徴で、それが今のニーズに合っていると思う。地域事業はなぜ続けねばならぬになるのか。

杉崎) 経営は鈴木家がやっていて、その地域の人に活動しやすい安全な部分を用意しているから、皆、条件が少し減った中でアイデアが形にできている。早川さんのところは、場所の維持や経営も含めて皆でやっていて、その違いが極端に出ているのではないか。これが重なって、スピンオフする活動が出てくると面白い。

早川) 小さいころからやって楽しいことしか残していなく、辞めていないだけ。

鈴木健) 早川さんのところは、本当に大変な人を助ける事業を多くやっていて、やり続けなきゃいけない。ミエルの活動は、自分たち（お母さん達）の活動で、性格が違うと思う。

早川) かんさんちを使って、お母さんたちがゆるいことをやってくれたらいいと思っているが、自信がないからさろんどでの自主事業でお願いします！となる。結果自分たちの事業が広がっていく。

りお) アンケートを再度実施して、今のニーズを知りたい！

アヤナ) ミエルの今のALLの内訳は気になっている。リアルに活動している世代が、今何を必要としているのか掴めていない。アンケートはすごく大変だったが、皆さんの声を洗い出せたのでまたやりたいと思う。復帰会・入学前のおしゃべり会の企画は毎年好評だが、今回はまだ参加が少ない。前年と反応が全然違う。世代はずれてないと思うが、皆で集まってお喋りするのを前ほど求めてない？というのが疑問点。コロナを経験したからなのか、この現状に慣れてしまって、再び繋がることのハードルが上がっている。今のママさん達は単独でミエルに訪れることはあっても、繋がることを求めていない？などが最近のモヤモヤ。

辻) 出会う場がなくなったので、横の繋がりがなくいきなり会うような形。オンラインだと見せなくて済むことがたくさんあるので、会うことのハードルが高くなるのではないか。

鈴木健) ミエルにいない時間が増えたのも、何か影響しているのではないか。餅つき・アートジャムは、以前より人は来ているが、日常的な活動となるとあまり集まらない。人数が増えて顔と名前が一致しない。以前のようなコミュニケーションを保てるコミュニティじゃなくなるのかもしれない。

杉崎) 気になったのが、コロナの前後の話は議論になりそう。西川さんの問題定義があるまでは、コロナをきっかけにその場所が大事だなと思った人たちが結束して、一度活動を整理する良い機会になったと思う。一方で新しい人との関わり合いがなくなっている？活動に参加する人は継続的に関わるけど、新しい人と出会うのは難しいから閉じてしまう。結束は固くなるけど、新しい人は増えないということがありそう。意識的にやっていくのが良さそう。

鈴木智) 場所の広さの限界もある。今思っているのは、地域にあるコミュニティーハウスでまだ使える場所や人や団体があるのでは。広がりの中で、次を見ていくのは大事だなと思う。親密な活動の限界というのはあると思うので意識をしていきたい。

④ フォーラムモデレーター（杉崎先生）からのコメント

大倉山ミエルの活動への関心 杉崎和久（法政大学）

1. 3回の移転、4回の場づくりこそがミエルの財産

本事業は、大倉山ミエルでの活動経験を他の居場所づくりへの技術移転をすることが目的である。私自身は、これまでもミエルを数回訪ねたこともあるが、今回の事業を通じて、ミエルの活動について再認識する機会となった。中でも大倉山で3回の移転を経て、4回の居場所づくりを行ったことがミエルの特徴であり、そこでの居場所づくりの経験こそが技術移転のポイントだと思っている。居場所を運営するには、周辺との関係構築、活動の担い手のチームづくりなどのプロセスが重要になるが、移転する度にその立地や建物の機能などは異なり、上記のプロセスを新たに経る必要がある。ミエルは、居場所づくりにとって基本的なプロセスを4パターン経験したことは、ミエル独自の財産である。

そして、居場所づくりは、負担のかかるプロセスであり、それを経てできた居場所に対する思いが強くなるのが当然である。そういった中でミエルは、活動を進化させるために積極的な移転を3度も決断できた背景も気になっていた。これに対して、ミニフォーラムの中では鈴木夫妻が転勤族であったこと、その中でコミュニティに関わる経験をしてきたこと、そして自ら「継続へのこだわりが少ない」と語られていたことが印象的であった。

2. 「ミエル企画部」を生み出すリーダーシップ

さて、ミエルの特徴のひとつに「ミエル企画部」がある。地域の居場所としては、多様であり、かつ多くの活動を生み出していること自体もミエルの特徴であるが、それを生み出す企画部の存在が興味深い。次の関心は、企画部のような場を生み出したことに対して、ミエルの経営に関わる鈴木夫妻がミエルがどのような居場所になることを想定しているのかという点である。

これまで私がいくつかの居場所運営に関わる活動のお話を伺う中で感じていたことに、メンバー間でのミッションの共有、事業の検討・実施について、丁寧に対話を行っているグループであっても、その中には中心となる人がいて、その人の強いリーダーシップが発揮されていることが多いことである。ただし、ここでのリーダーシップとは、独断専行という意味ではなく、関わる人たちの思いを実現させることも含めた強い意志と言える。そのリーダーシップにより、参加する人たちはその場での活動に安心し、信頼することができる。と、同時に中心となる人は、その場所に想定されるリスクを受け止める覚悟を持ち、他の誰よりもその場への愛着を持ち、ぶれない信念を持っている。

それに対して、ミエルの経営をする鈴木夫妻のリーダーシップは私がこれまで出会ってきた居場所運営のリーダーとは少し異なる。と思うのは、ミエルが得意とするテーマ、あるいは軸とする活動が見えにくいことである。私は、このことが結果的に新しい活動を生み出しやすくしているのではないかと考えている。

では、なぜ、鈴木夫妻は、参加する人たちにミエルをゆだねることあるいは手放すことができるのかという点に興味がある。今回のミニフォーラムの中で以前冒険遊び場活動をされており、場づくりの経験があったこと、またその先に自治の場を描いていることが語られたことを通じて、当初から地域における場づくりを志向していたことがわかった。

とはいえ、「最後は私たち（鈴木夫妻）が責任をとる」という語りもあり、責任を手放したわけではない。つまり、インキュベーターとしての居場所の運営をされていることが示された。結果、鈴木夫妻による居場所の維持などの経営を担うことで、ミエルでの活動に関わる参加者の心的ハードルが低くなっており、それにより創造的空間を担保しているのではないかと。

3. 活動を創造するおしゃべりの機会

鈴木夫妻が地域の人たちが主体となった活動を促す志向をもって居場所の経営を行っていても、それを実現させることも容易ではない。ミニフォーラムでの鈴木さんからの報告やミエルの活動参加者から出された意見から興味を持ったのは「おしゃべりの場」の存在である。例えば、こども食堂からみんな食堂、そうめん流し、フードパントリーなど活動が展開するエピソードの中で、それぞれの事業の中で参加者層が拡がり、そこでの「おしゃべり」を通じて、新しい活動が生まれてきた、という話。また、LINEグループを使ったコミュニケーションを通じた活動の拡がり。と、あっさりとして書いてしまったが、イベントをやって、さらにLINEをつかえば、活動のアイデアが創造されるわけではない。これもミニフォーラムの中で参加者からコメントにあったように創造的な対話を生み出す心地よい「よい加減な雰囲気」が作られていたことが想像できる。この延長線上に「企画部」の存在があるのではないかと。

4. コロナ禍への対応

最後にコロナ禍は、各地の居場所運営に大きな影響を与えた。人々が集まるための装置であった居場所は、密を避ける社会の中でその居場所の価値を再考する機会となり、ただ集まるだけでなく、居場所の価値として必要とされる活動に絞り込むことになった。ミエルに関していえば、「カフェをやめる」ことがひとつの例である。コミュニティカフェは、カフェではあるが、いわゆる喫茶機能が必要なのかという問いへの気づきはコロナ禍がなければなかったかと思う。これだけでなく、ミエルの価値と必要な活動を問い直す機会になったと思われる。

また、ミニフォーラムでは、ミエルの活動に関わる人たちの変化についても、語られた。コロナ禍において、人々の移動が制約され、それによって居住地近くで過ごす時間が増えた人が多くなった。さらにオンライン環境も整備されたことも後押しして、新たな活動参加者が登場し、そのことがミエルがさらに活動を創造するようになったと思われる。

ということで、本事業でミエルの活動を見聞きすることで私がミエルの活動の中で興味を持ったことを羅列した。必ずしも実証的ではなく仮説の域を出ないが、今後機会があれば実証していきたいと思っている。

⑤ 「つながるフォーラム」2023

大倉山ミエルは神奈川県との協働事業で『孤の解消』のために
**「活動団体がつながる 2023年度
 コミュニティ活性化」**
 を行っています。
 この事業（ボランティア基金21事業）では
 ① 大倉山ミエルや大倉山地域での協働事業等の活性化と、その見える化・モデル化
 ② それらを基にした県域への展開
 ③ コミュニティ活性化のための人材育成のための的研修・つながりづくり
 を行っています。その最終報告を兼ねたフォーラムを開催します。

12/9(土)
 14:00 ~ 16:00 + 交流会
 @大倉山ミエル+zoom

フォーラム

1 「ミエルのこれから」
 自立した自由な小さな多世代の居場所
 : 鈴木 健夫

2 「茅ヶ崎市における重層的支援」
 : 早川 仁美

3 ディスカッション
 モデレーター: 杉崎 和久

「つながるフォーラム R5年度」
この事業は神奈川県ボランティア基金21の協働事業により行っています。

■ スケジュール

2023 12 09 14:00 ~ 16:00

1

「茅ヶ崎市における重層的支援」
 「地域のお茶の間研究所さろんどて」 事務局：早川 仁美
 15分

2

「ミエルのこれから」
 自立した「多世代の小さな居場所」の可視化・実践展開へ
 大倉山ミエル 鈴木 健夫
 20分

3

ディスカッション
 モデレーター： 法政大学教授 杉崎 和也
 25分 + 休憩5分 + 45分

4

まとめ
 10分

この事業は神奈川県ボランティア基金21の協働事業により行っています。

■ ながるフォーラム 2023
 主催：大倉山ミエル
 開催日：2023年12月9日 土曜日
 14:00 ~ 16:00 + 交流会
 定員：リアル20名+zoom20名

場所：@大倉山ミエル+オンライン (Zoom) で行います。
 参加費：1000円
 申込先：大倉山ミエルに電話又メール ☎: 045-717-677
 Mail: miel@rf6.so-net.ne.jp

■ ディスカッション：茅ヶ崎市の重層的支援＋ミエルのこれから

●2023年 12月 9日

- 参加者：杉崎（法政大学教授）、早川（さろんどて）、三浦（元生活クラブ神奈川副理事長）、
- ミエル：鈴木智香子、鈴木健夫、谷さん、天野さん、おくじゅんさん、斎藤百合恵さん、松本まゆみさん、上田りおさん

（鈴木智）3年間基金21の方で3つの事業をやってきた。今日はそのまとめの回として、活動団体をつなぐ活動の話になるかと思う。今日皆さんに集まっていたいて、ミエルみたいな小さい場所が増殖していくにはどんなことがあるといいのかをもう1回皆さんに教えていただいて、いろんなエピソードも含めてこういうことがあれば、こういう小さくて緩くて、なにかしら役に立つんじゃないかという場所が増えるよというのを今日は見れたらいいなと思います。

ところで今日お話しいただくのは、茅ヶ崎の方で私たちはこの3年間一緒にやってきた「さろんどて」という活動があって「さろんどて」さんは茅ヶ崎市で「さいとうさんち」という場所をやっていて、私たちと一緒に「かんさんち」というもう1つの新しい場所を作られたり、子供食堂もパントリーが150世帯、登録は200以上ある茅ヶ崎市内の困窮家庭であるとか支援家庭を支えているいうところ、そのベースに色々な他機関と繋がってやっている、その辺の話を一言で言うと重層的支援という専門的な名前だが、厚生労働省が随分前から他機関が連携してやっていくってということが大事だよって話。各自治体に出しているそれをいち早く茅ヶ崎市では取り入れてやっているその話を先にお聞きし、その本当に一番ちっちゃいあり方がこういう地域の多世代のミエルは－1歳から101歳と言ってるが、そういう場所のあり方繋がっていくんじゃないか。これは仮説で、その繋がりの中でお話をさせていただけたらと思います。

（早川）私たちこの3年間何をミエルと学んだかという、**真面目に緩いってことを学んだ**。私たち生活クラブの元ワーカーズの運営をやっていたメンバーが主になってやっている、染みついて運営会で毎月の運営会をしっかりとやり決算をやり総括し、あの新しいことをする時には必ずみんなのご用を取ってみたいなやり方をやっていてミエルの緩く、皆が集まって自発的に何か動き出すというのを一生懸命学んで「かんさんち」ではそれが動き出したかなドキドキしながらやっている。

資料が出たので**茅ヶ崎市における重層的支援について**少しお話をさせていただきたい。令和3年の3月に策定した厚生労働省の重層的支援体制整備事業における関わる自治体事務マニュアルがあって体制の背景とか理念が書いてある。線を引っ張っているところが1人1人の生が尊重され複雑多様な問題を抱えながらも社会との多様な関わりをとして自律的な生を継続していくための伴奏型支援の強化が求められている。伴奏型支援とは支援者と本人とが継続的につながり、関わり合いながら本人と社会他者との関係を広げていくことを目指す行政だけでは実は伴奏ができない、地域と一緒にやっというもの。ここの2つ目、地域の居場所などにおける様々な活動を通じて行われる地域住民同士の支え合いや緩やかな見守り、ミエルみたいなこの居場所で緩い繋がりや緩い見守りが今まさに求められている。社会の人々の繋がりにはここが求められているというところでもう実践されているので、ここを厚生労働省が言語化してマニュアルにして全国に落とし込むというところ。

言語化していないと皆があまりよく分からないかなと思うがこれ見て当てはめていくと「やってるじゃん」と思いながら、これまさに私たちと行政との狭にある人たちをどうやって地域と一緒に暮らす生活者仲間として一緒に暮らしていけるかの視点がすごく大事で、それを支援する、されるのではなく、そこをやっていくのが自然と絆奏、**一緒に暮らすことが伴走になってる**よっていうところ、これが重層的支援体制整備事業。

行政として何をやるかっていうのが次。行政としてはこの3つの柱になっている「相談支援・参加支援・地域づくりに向けた支援」。そうは言っても地域の中にこのようなミエルみたいな場所は多くない。例えば私は子供食堂の県域ネットワークの世話人とかもやっているが、自分たちのあの居場所を開き、そこに来てくれる人の子どもたちの幸せや親子の幸せを願ってはいるけれども、まだそこまでその人たちの困難さとか抱えている問題のところまではアプローチはいけてなく、それをやりながらその課題に今、子ども食堂もぶつかっているところ。まさにいろんな課題をどうしたらいいかっていうところではネットワークで悩みを交流をしながら一緒に課題解決をしている。なかなか広がっていかなかった。そしてさらに縦割である高齢者は高齢者、子供は子供、若者は若者、障害者は障害者で、行政が縦割であるように、地域も縦割りになっている。だけど**人々の抱える問題はとつても複合的かつ複雑でこっちの問題が解決したら終わりではなく、でもそこで相談していることが終わったら放り出されちゃう、だけど解決してない**。見過ごされていた特に8050問題、引きこもりの問題とかここだと不登校の問題とかなかなか向き合えて

まだなくてそこがほって置かれているっていうところをミエルも 放課後ミエルや私たちがヤングケアラーのことにフォーカスして社教との共同事業を今始めようとしているところ。**居場所をしながらそういう地域の人と繋がって問題の解決に、行政と地域の他の団体と一緒にこう関係を作りながらやっていくってのがこの重層的というところかなと思っている。**

次事例いきます。実際の事例を見てみないと分からないかなってところでは事例の1、これが重層的っていうのかなっていう所なんですけど、1番最初 フードパントリー 食料支援をやるようになってから困難な問題にたくさん出会うようになって生活の困窮していく、経済的に困窮していく中には、その人の人生が あってそこまでの課題が解決されないままどんどん複雑になっていったという方々がやっぱり多いかなと思う。

2021年この事例の1は反貧困ネットワークって皆さんご存知でしょうか。困窮者の方が支援をしている団体があり、そこもあの駆け付け支援したり、又、経済的に困窮している人が多いので、生活保護につないでいくってことをして、私も神奈川メンバーとして活動をしている。そこからあの連絡があり、色々お話を聞くと、これまでの生育歴や親の遺産の問題や家族の問題があって。立ち行かなくなった時にコロナ禍であったので、社協の緊急告知支援だとか総合支援資金って特例の貸し付けがバンバン出た時だったので実はラッキーだった。これがなかったらこの方どうしたんだろうって今思うとちょっとドキドキするが、これがあつたおかげで返さなくても良くなり、しのいだ。だけどこれは本当に解決にならないので結局はえっと今後今まで抱えてた問題をどうしようかっていうところで、コロナ明けに重層に繋いで一緒に職員がアウトリーチしながら私たちが食料支援をしながら相談に行っていた。最後は本人が死ぬ気でもう死んだと思って生活保護を受けた。生活保護嫌だった。一緒に暮らしてたので猫ちゃんのためを思って生活保護に繋がるっていうことで繋がって、生活のお金的なものはなんとかあったが、それを受けた時の気持ちを思うとその選択で良かったのかどうかは一緒にその気持ちに寄り添いながら、でも すぐ死ぬっていう風におっしゃるので死ぬのも選択かなって私は思ったが、それもその方の選択だなと思っていて そこを止めることも 私たちもあの思いも止めることもできず、話を聞きながらやれる ことをやっていたというところ結局は他市に引っ越してその先でも政府のケースワーカーとうまくいかずこう通いながら、その社協と地域包括支援センターに繋いで、今もそこケースカンファレンスしながら私も入って支援をしている。

小さい居場所は居場所があつて、まるで何でも解決できるように思われているかもしれないが、居場所だけでは解決できない。居場所は糸口であつて、役所と違うところは関係性を築きながら思いがポロポロって話せる。役所行くと構えちゃうから怒られるんじゃないとか、あの自分がいけないことをしたような気持ちになっちゃう。でもこういうところはほっとして自分の思いがこう言えるのが、居場所のいいところかなと思う。

この事例以外にも1番目が生活困窮者事例、次に高齢者と8050問題の複合課題、3番目が子供、4番目が障害者、いろんな方が居場所で出会いがあつて複合的にそこを解決していくには、この重層が縦割じゃないところがやってくれるのが良い。その重層の福祉相談窓口ではいろんな課に繋いでくれる。繋いだ後も絆奏をその課の専門的な課のやり方を見ていってくれるので、私たちの居場所にもその人は来るのでその人たちの話を聞き、担当課とうまくいかないところの間を繋いで、どういう支援がその人のために一番いいのかどういうやり方がいいのかっていうのを一緒にやっていくところ。

当事例のことをもっとゆっくりと思ったのですがこれはかなり個人情報が入っているのでミエルだけに置いといておく、前段のところのは、厚労省のマニュアルを見たり、茅ヶ崎市も計画を立てているのでHPを見ていただければ、そこからどうのことをやるかっていうのが載ってる。

実はこれ2年目なんですけど、1年目、職員がやっぱスキルない。こちらからお話ししながら一緒に作っていく、私も実は1年半目になって愚痴を言える間柄になった。今までは情報提供ばかりして、そういう関係性ではなかったけれど一緒に作っていくってのが重層ではよりいいことかなと思っている。**行政でなければできない個人情報もいっぱいあるので、そこは行政にお任せし、地域は何をやるかっていうことに一緒に相談できる場所かなと思う。**

(鈴木智)まさにこの話をして欲しかったっていうところ。ワンストップで相談を受けるが、役所の人とかそういうのとも違う。そういう窓口が横浜市の区、港北区にもあつたら私たちはそういう風に繋ぎながら、さっきみたいにこっちの課ではダメだったけど、こっちのこの担当者だったらなんとかなるかというのもある。課題も複合している。おばあちゃんお母さん子ども、いとこみたいに本当に家族中で課題が複合していたりする。ここに普段遊びに来ている様子から伝える。

(早川) あといいなと思ってるのが、行政は地区社協とか地区の地縁の団体との繋がりがすごく強いのでそこの関係も繋いでくれる

どうしてもNPOとか市民活動は少し地域から浮くところがあるので、そこをどうやって繋いでくれるかっていうのは重層ができて、

その事例が、私たちがずっと支援していた知的障害のお子さんを持った親子さんがいて、その方が二十歳になったから特別児童手当が終わったので食料支援ストップした。その後作業所に行ってるからなんとか暮らせるだろうと、でも繋がってたから何かの時に相談には乗ってたんですけど、その方が地域の民生委員と繋がってて、民生委員は私達が支援してことを知らないの、こんな人がいて支援したいんだけど。あのんだなとすぐ思ったので、パントリーをやりたいと、その人にノウハウを教えてほしいって言われたので民生委員にパントリーのノウハウをお伝えしながら**地域づくりを私たちのスキルを広げていって、地域の人を支援していくってことも福祉政策課が繋いでくれたご縁。**あとスクールソーシャルワーカーにパントリーを繋いでもらってなかなかスクール学校で不登校のお子さんのシングルのご家庭と繋げないところを食料支援で繋いだとか、そういうところでは繋ぎによくなってくれる。

(鈴木智) 最初はこの子のためにやりたいっていうお話は割と聞く。そういうのをお手伝いしたいなって私たちも今思っている。ここだと駅の1つ向こうの駅の綱島とか日吉とか、また日吉から中に入った方のところからもらっちゃう。声が聞こえるとあのお手伝いしたい。その時に地区社協さんと一緒にやっていきたい。

(早川) いいと思います。やっぱ地縁の方はよく知っていらっしゃるけど、実はNPOの活動にはあまりアンテナ張ってなかったりとかいうので、そこを繋ぐのはすごく大事。

(おくじゅん) 重層的支援体制整備事業とは？

(早川) 重層的支援体制整備事業というのは厚労省で打ち出している。人々の課題が複合的で受動的であるってところ、縦割りでは対決できず相談支援参加地域づくりという地域を作りながら相談に乗ってその人の伴奏をしていきますよと重層的支援ということ。令和3年に厚労省がこのマニュアルを出して、茅ヶ崎もいち早く手をあげて、これ手あげ方式。横浜市は手あげてない。茅ヶ崎市は早く手をあげた。も補助金もつく。令和4年から本格的に開始した。

(杉崎) この事業を茅ヶ崎市で受けると具体的にどういう事業と、どういう窓口ができる？

(早川) 地域包括支援センター全部に福祉相談室というのは実は設けてて、今はそこはそのまんまで、福祉相談室って名前だけとって体制は地域包括にそのままに残っている。地域福祉課の中に地域福祉担当だったんですけど、ここに福祉総合相談を作って重層的支援体制整備事業をやっている。この中に地域担当っていうのがいて、あと困窮者自立支援もここに持ってきた。なので困窮者支援と地域担当で、ここを入り口にいろんなことを解決してこうということで、自立支援に持ってくると複合的なので、ここを入り口にやっている。その横に障害福祉課があり、その横に福祉事務所がうちはある、ワンフロアの中でやっている。

(杉崎) それは市役所の中に1つ部署がある？

(早川) そうです。

(杉崎) つまりこう地域づくりで言うと、生活支援事業みたいな話でもっと細かい単位で地域づくりの介護保険の枠の中で

そこの関係がどうなってるのかなと僕は気になったりする。

(早川) 地区社協との関係もあったり、地域福祉課は地域の高齢者のことやってる人たちとも繋がっているところ。

(杉崎) 本庁の中に繋ぐ役割をする担当部署がある？

(早川) 全国的だと社協に委託している部分も多いが、うちは本庁がやらざるを得ない。

(杉崎) それに踏まえて質問。つまりこう先ほど言われたような話で、この事業はなくても**地域にこういう拠点あって、人がいるとポロっと「つぶやく」って話があったけど**、そういう「つぶやき」があって、そこからどうしようかって動きはあるわけですね。役所に行ったりして、どうこの人支えるかっていう、そういう活動はあると思うんですけど、それにこの事業が茅ヶ崎市に乗ってきたときに、その叩く武器っていうかなんて言うのか、そんなにかこうやりやすくなった部分がどういふことがあるか？

(早川) すごくやりやすくなったのは途中でも話したが、情報提供で終わっていた。その人の困り事があって、情報提供があって向こうから返りがない。今は重層になるとそこが意外と情報共有ができる。

本人の承諾を得てすごい個人情報が生き返るようになっていく、そこがすごい良かった。アウトリーチもしていくので、職員が本人に会いに行ってくれて確認をすると、虐待案件だと割とケースワーカーがやったり、あと生活もケースワークはしますけど、それ以外の部署はあんまりアウトリーチはやってなかったから、よく動いている。事業を請負っているからできている。

(杉崎) 個別事業の中でそういう役割をしてる人がいたけど、それが縦割的になった。

(早川) そうなんです。縦割的になって横断的になかなかそれ以上のことはできてなかった。

(杉崎) 行政的に言うと、被るんじゃないかみたいなあるんだけど、本当は被ってもいいと思う。選択肢がたくさん増えることが大事なことから、だから要は隙間が少なくなってく、なるようにしていく。今までは制度がないと動けないみたいな、そこが社協が動いてるとか社協が拾っていく。

一番問題があるのは、その情報のハンドリングに責任を持ちたくないだと思ふ。出すと出すっていうことにすごく慎重になるのでそれをやっぱり出してやっていかないといけないんだよというのが、多分これの事業で進めること自信を持って、行政の人たちも進めていいんだなっていう風になったんじゃないかなと思う。

(鈴木智) 私たちも最近地域ケア会議というのに出るようになって、やっぱりさっきみたいな情報を出せば今までは、ここちょっと大変な人いますよって言ったまんまで、それがその後どうなったかは全然返ってこなかったけど、そういう**ケア会議に出るようになって互いで出してもらえるようになって**、そしたらじゃその子のためにここの夕飯の会やろうとかか、その家族のためにこの日なんとかしようとかか、そういうのはできるようにもなりますよね、地域でも。そうですね、関係を作るんだったら情報出しても大丈夫、この人だったら相談が来てるよって言うても大丈夫。

(早川) それが居場所だと作りやすいです。**継続的にあって支援していけるところがすごく大きいかなと思ふ。**担当者変わっちゃう。

(鈴木智) 当初私たちが子供食堂を始めた時も学校に話を持っていっても、学校は私たちから子どもにあなた行きなさいと言えないんですよってというのが何年か前の対応でした。今はねそういうことでもなく先生が来るようになってる。

(杉崎) 学校のカウンセル あのコーディネーターとか、つまりもう講師だけじゃなくて環境とかコミュニティとか、いろんな部署がいろんなコーディネーターを地域で置いてる、町中コーディネーターだらけの論もある。いろんな制度でお金がついて雇われているコーディネーターが街中にいる。

(鈴木健) 「ミエルのこれから」についての説明 (別PPT)

(谷) 昨日、健夫さんと話をしていた、今、放課後ミエルをやって、健夫さん飛ばしたんですけど、心理的安全性って1番大事かなと思って、私、今、PTAやったり子供会やったり学童の会長やったりしてて、全部が**心理的安全性の大小でやれること全然違って来た。**当然ですけどミエルが1番心理的安全性が高く、例えば新しいことやろうとするとかやめようとする、これまでやってきた人の思いはどうなるのって言われる、それ言われちゃうともう本当に何にも言えなくなっちゃう人なので、でもここでは最初は方向をミエルでこんな風になりたいですっていうと、「いいじゃない!」と言ってもらったり、色々やってる中でなんかやめることも続けることも何にもあの厳しいこと言われない。それはすごくいいなと思ってる。もうこれは繰返しこれ言ってますけどこの心理的安全性は外せない要素。例えば**今上の3つの要素が揃ってたとしても心理的安全性がなかったら多分これだけ広がらないだろうと思ふのが1つ。**あとはミエルのすごい強みは、ここの下にあるいろんな活動これだけじゃなくて、**あのミエルの木にめっちゃくちゃいっぱいあると思ふんですけど、あの資源は個人的にミエルをすごく自己実現のために使わせてもらってる人なんです、あの資源があるのと、勝手に私が1人でどっかで1人で個人的にやるのは全然違うと思ってるんで、これから色々繋げて広げさせてもらいたいなと思ってる**ところ。

(鈴木智) 私たちが持つる資源をあげられるんだから、それこそ市役所の1階までちょっと来て来てって言って谷さんをデビューさせようとかね。色々そういうありがた迷惑な。

(谷) 赤ちゃんいるし畑もあるし高齢者の方もいるし、いろんな人がここに来れば繋げられるけど1人じゃ全然繋がれない。フードパントリーもあるし。

(早川) 子ども達は本当に幸せだなと思ってる、そんないろんな年代のいろんな人に可愛がられて、本当にこんな場所はない。今の時代に。

(谷) 昨日たまたま中二の女の子がたちが来て、公園で遊んでいた。彼女たちが言ったのはこんなところがあるって小学校の時知らなくて知ってればよかったって言うていた。**知らない子は多い。**

(杉崎) 緩くて楽しい場がなぜここでできてるかっていうところに踏み込んだ方がいいと思う。だって場所の上ってやっぱ家賃払わなきゃいけないし、光熱費払わなきゃいけないし、じゃあどこが誰が緩やかなリーダーというか、皆を包み込むようなやるかっていうと

多分これは鈴木夫妻がそれを受け取っているから、他の人達は緩く楽しくの思いがあることが、このプラットフォームの上で実現できていて、できればそうしたいけど皆そうできないから運動するとかさ、なんかやっぱ今日は責任を分散するために運営会議やったりっていうことは、それはそうやらざるをえない。

グイグイ引っ張るタイプではないけど、お2人がここを守ってくれてるから多くの人たちは、活動やりたいことにこう直面できる環境になってるっていうのはなんかやっぱ大事なこと。そういうタイプじゃないのもあっていけど、ここはそういうタイプ。場合によっては大家さんが自分の場所で地域の人のためにやってほしいっていうやり方もあるかもしれないし、だけどそうじゃなくてやっぱみんなでお金出さなきゃいけないとかやっぱやらざるをえない。

横浜市民まち普請事業で一次コンテストでチーム作るんだけど二次になるとだんだんメンバーが減ってきてっていうのは、やっぱり家賃を払うとかその責任を皆びっくりしちゃう。だんだんメンバーが減ってくるっていうのは、やっぱりその時に誰か1人、ひよっとしたらあのリーダー待望論じゃないけど、私ここ責任取るからみたいな人がいたら、ひよっと行くかもしれないし、2~3人でもいいのかもしれない。中心的な人がいて、それについてく人がいるみたいな、その緩やかに楽しいがなぜ実現できてるか、どこまで関わる範囲が1つのプロジェクトなのか、もうちょっと全体考えたいのかっていうそのグラデーションの中で、でも好きな人は運営に関わりたいたけど、2人が楽しくなくなっちゃうと、多分世代はなかなか育たないと思うが…。そこは変わらないしこの良さはそれだし。

急に私たちあと来年でやめるからあとは皆よろしくなっちゃ、みんなざーっといなくなっちゃうか。

(天野) とにかくさっき心理的安全性が、うちの子がまずもうそのおかげで大倉山のミエルのおかげで、智香子さん、健ちゃん、谷君たちのおかげで私から全然離れられず外に出ることもできなかった子が、今見事に中1で夜の11時まで帰ってこないような状況になりました。そのくらい羽ばたきました。だからこの安心感が素晴らしい。そういう大人がいてくれて理解してくれる大人がいて、そこにいる大人たちも安心して、もう信頼関係です。ありがとうございます。

(鈴木智) 例えばの話、私や健夫さんが「じゃあ、後は頼んだ」って言った時にミエルは生き残れるか? という話が出たんですけど。

(天野) できる人ができることをやるってのがミエルだから元々。だから誰かがやります! やります! って来るのか、どうぞどうぞとなるのか。個々の性格にもよるけど、とりあえずじゃあ手伝いますと私は言う。

(鈴木智) まずなんか自然発生的に出てくる。

(天野) まず手伝うと私は言うだろう。そして他の人も手伝うと言うだろうと思う。自然に発生するところがミエルだと思う。

(杉崎) ありがたみがそこでよりわかる。

(天野) なんかそう全部自然発生だよ。経営のことを考えなくていいっていうのはいい、禁止用語とかもない。なんかこれがダメあれがダメっていうのもないからそれがいいよねと思う。

(早川) 同じ年頃なのであと10年とってる。だからもう70になったらちょっともう厳しいかな。

(上田) 昨日もシュトーレンの食べ比べ会をやった。やりたい人がポッと私に話してきて、やりたいんだよねみたいな。ミエルでできるかなって言われたんで、「じゃやろう!」と言って声かけて6人ぐらい子連れで、ベビーも多かった。本当フットワークが軽い人がたくさんいる。

(鈴木智) 2ヶ月か3ヶ月を背負ったり抱っこしたりしてやってるそ上田、さんはあの実は数少ない有償スタッフの1人で、そんなたいして出してるわけじゃない。でも自分から仕事を見つけてきてくれる人。

(杉崎) ちょっと不思議ですね。普通 5万円払う時にはこれをお願いねっていう。担当が決まってみたいなことだと思っただけ。

(鈴木健) 生活的な感じなんです。そう、自分でやらなきゃいけないことを見つけたらやっていく。

(鈴木智) 事務局っていうLINEがある。LINEでやりとりがある。組織的な会議とかNPOなのはない。こないだアートジャムというイベントでなんと大きなガラスが割れてしまって、たくさん色々ボランティア保険とか行事保険とかかけていたにも関わらず、全然保険が効かなくて出費になった。それはそれで子供が怪我したわけじゃないしガラスが割れただけでよかった。

(谷) 私いつかは大きな怪我があると思ってて、こういうことをやっていけばいいも悪いも必ず怪我はすると思う。だからその攻め合いは今後絶対どっかで直面する、すごく心配。

（早川） 今、主体性とか自由保育とか現場も実はね保育園の現場も保育士がそこでせめぎ合いの中やっ
てる。

（鈴木智） 本当ね。一筆書いてもらうかぐらいの話ですよ。こないだも口を切る怪我とかしてたんですね、怪我なく終わってよかったって書けなかったっていう、火傷はなかった。あの焚き火をしてたから、火傷が1番心配だったんですけど、全然違うところで怪我をしてね。

（早川） それも預かってるその子どもだけが来ちゃうと分かるに保護者のとか了解やそういうのが分かると、こういうこともありましたって相互で、できるけど、そこ難しい分もあって。

（鈴木健・智） そういう意味では無料ってことはすごく大事。 そうお金もらっちゃうと本当責任が発生する。
責任はあるんだけどでも無料だと向こうも参加してるわけだから、なんていうかこう一緒だよ立場は。

（早川） 怪我と弁当自分持ち、自分持ちだよって合意が取れてればいいんじゃないか。

（杉崎） ミエルのこう自由なことと、どうバランスとるかという大きなテーマだということが報告書的に言うとなんかそういうことの方で、やっぱりそのリスクに関しては緩いかもしれない指摘がある。合意してればいい。皆がどこまで承知してきてるかっていう話だから、あの危ないっちゃ危ない。

（鈴木智）

学校とここの大きな違いは、多分学校は保険が入ってるからお金は出ちゃう、ミエルはないからボランティア保険ってダメなの？ 人に対しては出る、その人が怪我したとかここでも出る。谷さんもボランティア保険に入っているんで、確か子供たちも出る。

（早川） 私たちもあのNPO保険に入ってるんですけどボランティア保険に入ってなく NPO保険っていうのに入ってる。ボランティアが活動してる間に起きた事故は、うちのフードパントリーを取りに来た時に事故、怪我しちゃったおばちゃんに入院費まで出た。

（斎藤百合恵） 私は今育休取るたびにミエルで平日昼間楽しく過ごしている地域住民です。元々アクションポート横浜っていう若者参加の中間支援をしてる団体に運営参加してまして、学生時代にもNPOで楽しく過ごしたり、インターンしているんな勉強したりして 社会人になって、社会人になっても働きながら地域とかNPOとかで自分の興味あるようなことに参加できたらいいのになんて思いながら、入り口というか機会もまだ少なかったりもするので、色々トライアルしたりとかしつつ、子どもが生まれたり、子育て支援のNPOとかもいるしミエルみたいなそうじゃない枠組の居場所もあるしっていう中で、なんか地域にいろんな場があるんだななんて実感しながら今生きてます。

健夫さんがあの投映してたの見てすごいわかるな、その通りだなんていう、あの綺麗にまとっててすごいなって思った一方で、今、智香子さん健夫さんが守ってるからこうある意味自由に、ある意味ちょっとそんなに重い責任も持たずにやってみたいことやれてるっていう環境がある中で、なんかじゃあそれが今後どうなるかみたいなのを聞いてた時に思ったのが、多分ミエルの隠し味が何かあるんじゃないかなと思って、心理的安全性とか、これだけいろんな人がこれだけいろんな多様な人があんまり枠組が定まったものがない中に放り込まれたら、普通なんかもうちょっとカオスになると思うんですけど多分それはなっていない、なんだか不思議、なんだかみんな同じ方向を向いているみたいなのはどうやってそれを作ってるのかみたいなのが多分その技だと思ってる。

そのミエルがミエルとして成り立ってる、その辺が智香子さんや健夫さんの隠れた技がこうこういうものだよ、みたいなのが、ある意味意識できると、じゃ次のいろんな人たちにどうぞってなった時にある種この行動指針というか、なんとなくこうより所のようなものになるんじゃないかななんて思ったりしました。

このままフリースタイルで今のまま10年後よろしくねってなったら分かんないですけど、困っちゃうような気もしたので、じゃ何なのかみたいなのももうちょっとヒントがあると困らない未来が待っているような気がした。

（鈴木智・健） 我慢して、私たちは我慢してやっているわけでは全然ないけど、気がついたらできているだけなんだけど。でもその難しいのは僕らは きっと何も意識しないで今の状態でなってるから、隠し味とか言われて何だろう。

（杉崎） 来るけど残らない人もいるんじゃないですか。だからそれはやっぱりなんとなくその雰囲気合う合わないって、

それは残る人はここが居心地がいいから残ってみたい。来るものこまらずでね。

（天野） 来るもの拒まず、去る者追わず。とにかく対応してその人その人、じゃあこれをこれよ、とやってるうちにこうなったっていう感じがすごくあって、普通だったらそれをじゃあ運営するためって言ってどんどん組織化していくんだけど、それが全くないアメーバなの。

(杉崎) この人のこのつぶやきは拾ってこうみたいなそういうのはあるのかもしれない。

(鈴木健) その人とちゃんと向き合っということは当然だと思う。それしか基本的に考えてない、それが芯にあるからそれぞれの人たちに、でもそれが合わない人達も当然いるんだよね。きっと。

(杉崎) 親の立場からすると託児があるから行くんじゃないかと、**子どもがあそこ楽しいから行こうよっていう状況になるのがすごい。**

(鈴木健) シニアのここに来るのだから。シニアそれぞれ本人がここに来て楽しいと思うから来てくれる。

(杉崎) 子どもがまた行きたいって言ってくれると親としてはほっとするようなそういう環境を作る。

(鈴木健) 1人1人の子をいかにこうちゃんと大切にできるかっていうのがまずごく大事。放課後ミエルでも何回も来てもらうためじゃないんだけど、来てもらった子をその子、その子をちゃんと見てあげる。

(早川) サービスBがあるっていう安心感がある。やっぱり横浜市がすごいと思う。逆に言うとサービスBみたいな枠があればきっと子供の事業もやってるじゃないですか。

(おくじゅん) ミエルがなんで存在できてるのかで言うと、さっきどなたかがミエルの鈴木夫妻がプラットフォームみたいなことをおっしゃってた方そちらでいらっしゃるじゃないですか。このプラットフォームがある前提で企画部って好き勝手なことができるっていうのがあるので、この土台を他の地域とかで作れるのか、みたいな、この土台があって初めて上物が自由気ままに好きなことやって、伸び伸びと暮らしていけるっていうところがあるんで**その土台をどうやって各所に作れるのかが課題なのかと思う。**

(松本まゆみ) 毎日のように通っております。私今3歳0歳の子供がおりましてミエルと出会ったのはその上の子があの出産して転勤でこちらに、全く頼れる人もいない中で子育てが始まってすごい孤独を感じていた時に赤ちゃんカフェでミエルと繋がったんですが、

そこから今上の3歳がみつばち探検隊でもお世話になっている。すごい私自身ここから広がったその人間関係がすごくたくさんあって、いろんな方とお話ししているうちに、その自分の未来というか保育士の免許を取ったりですとか、そういう自己実現とかの分野でもすごく私にとって影響力があって、本当に感謝してるミエルと繋がれてよかったなって思っている。

普通のただの近所の主婦ですけど、私もお話を聞いていてやっぱり鈴木夫妻の力がすごいなって今までも思っていました。今日もお話聞いて思っていましたし、やっぱりそれをこのいろんなところに作っていききたいと思う。そういう場所がもっと色々あればいいなって私がもし転勤で帰って地元 広島なんですけど、広島にもそういう場所ってあるのか、なければ自分でも作りたくなるだろうなってミエルが恋しくなるだろうなって思うぐらい、本当にミエルという場所がすごいなってそう思っている。

いろんな企画をそうやって出していける、でもそれに失敗しても鈴木夫妻がこうしたら？などのアドバイスをいただけて、なんかこうしていろんなことをやっていける場ってそうそうないんじゃないかなって本当に思う。

(杉崎) つまり2人が根っこは**大事なことは共有してるけど、2人いるって幅が広がるなっていうのがあるんじゃないかな**と思って、

つまり1人の場所の運営するマスターっていうか、そこを運営してる中心人物リーダーがいるんじゃないかと、お2人が微妙に対応が違ったりとかなんか関心が違ったりするこの2人いるのがどうも強みではないかという気がした。それぞれに対して、それが多面じゃないけど、2人いると対応になるダブルマスターみたいな感じでここが運営されている。多分参加されてる方になってる。1人だとやっぱりその人のその人色にその空間ができてくっというのはいわゆる公共施設と違ってやっぱりこう色があって、それに相性がいい相性が良くないみたいな、選べるってことは大事なことなだけけど、プラスここはお2人いることで、ちょっと彩りがちょっと広がるっていうの、ひよっとしたら特徴がある。

得意興味も違ったりするし、フォローする人も違うかもしれない、考え方が全く違う他人ですもんね。なんかとか工夫してるわけだから大事なことは共有してるけどでもやっぱりそれぞれが違うっていうなんかそんな気がした。

(谷) PTAとか見ても例えば校長が2人いるのであれですけど、校長と副校長がお互いで否定し合っているの、まず見たことない。町会もそうだし町会も上の副会長とかみんなが基本的に同じ方向向いて会長が言ったことを否定するの、聞いたことないですけど、ここは智香子さん言われたことを健夫さんが「違うよばあば」とそういうの言っているんだと、逆もしかり、色々言っているんだって思える。

(早川) 多分だからそれは会議の場で決めるとかいう前提がないからできる。

(鈴木健) そもそもやりながら、その場その場で、こうやっていくだけ。

(杉崎) ここの特徴ってやっぱり他の場所と違う、かなりいくつかあって、展開はその場で誰が言い出しっぺで、建物は誰が持っててとか、そこがもうちょっと整理されれば、つまり大家さんと、建物持ってる地域のオーナーさんが、別に自分はそんなバリバリ稼がなくてもいいし、でも空き家あるし地域のためになんかやりたいみたいにならしたら、ちょっとできるかもしれない。むしろ家賃払って借りるよりも、なんかそういうとこに特化してこゝを見守ってこゝと、ちょっと後押しする。

(鈴木健) ここでもね、何人かそういう人たちに僕ら、出会っているんですけど、合わない。あそこのYさんもそうだし、Uさんもそうだ。みんな地主なんだけどなんか最初は一応こゝやりましようとか言ってやるんだけど。

(杉崎) そういう意味ではなんかよくこゝ場所を作ってうまくいくと支援したりとかアドバイザーになったりみたいな、仕事があるじゃないですか、そうすると店開けなくちゃいけないって任せられる状況になってくる。多く僕が聞いたとこは、自分がいて場所が成り立ってる、他の街のそういうとこに支援に行ってくださいと。その仕事が多くなると事業的にはそれが委託とかになったりするから、なるんだけど そうそもそも自分の作った場所が、なんかちょっと色が変わってきちゃうという悩みを聞いたことがある。

ちゃんとしてるっていうのはちょっと失礼な言い方だけどリーダーが抜けてる隙間があるから、こゝ良すぎちゃうとみんな別に発揮しようがない、わざと隙間作ってるのが隙間ができちゃってんのかわかんないですけど。

(斎藤百合恵) 質問を1個投げ込んでもいいですか。

今の話の流れで、結構ミエルってあの事業承継、受け継ぐには 相当しんどいものだと思う。今、良さもあるんですけど今の形の良さ、多分継いでくださいって言うのとあの多分皆潰れちゃうんじゃないかな、みたいな感じがするんですけど、どういう未来がありそうかなって思ってるみたいなとこは智香子さん健夫さんは今どんな感じで、どんな方向かあるんですか？

(鈴木智) 私は全然なんていうか未来はあまり何も考えたことがなくて、さっき言ったみたいに目の前にいる人とかこの状況を基本的に考え、この基金21でそのモデル化とか展開とか初めて考えてるぐらい、それまで別にそのなんか自分たちがこんな事業をやりたい、将来どうなりたいていう感じはない。その細かい意味では。例えば小学生の部分は谷さんがやるかもしれないし、乳幼児の部分はりおちゃんやまゆみさんみたいな人が交代しながらやれるかもしれないし、みかん会は天野さんがやる。いろんな人が入れ替わり立ち代わり、シェアキッチンみたいになんかそういうのも部分とかをどっか公的なところがちょっとしてくれると1番やりやすい。あるんじゃないかなとは

思う。さっきちらっとあの誰かが言ってたけど、そういうそのお金の。

(早川) 子ども食堂のネットワークやって、ボランティアしたり、やりたいこといっぱいやって、集まってくるんですよ。なんだけど1番皆しんどいって言うのはこの会計とか、この一番運営のコアな部分をやってくれる人は、今も2人でやってるので、そこが多分心配なんですよ。きっとその部分で誰がどう引き継いでやっていくのかってこゝが結構どこも今課題で、今そこ直面してるんです。

その得意な人がこゝら辺にやりたいと言って集まる人たちとまた人種が違うから、だから自からあんまり来ない。だから逆に役所とかでちょっとそういう人たちをパート的な感じで雇ってまとめてくれれば、パートごとの、事業活動ごとの、うちは何をいくらとかいうのはちょっと緩くね。1回か2回か運営会で話して決めるとか、なんかそのぐらいの感じでできれば楽じゃないですか、そういうの意識したい。

(鈴木智) そういうことを役所と一緒に考えていくみたいな、そういうテーブルは作っていかなきゃいけないなって思っていて、最近も例えば今度そういう子ども大綱が降りてきます、それによってどういう事業があってそれにはどうするのがついてきます。

とかあの介護保険のことにしても、そういうのは一緒に考えながら引っ張ってこれるものがあれば引っ張ってくるってことをやっていく必要は絶対あると思う。

(杉崎) こゝがあるから地域で自分の居場所があるっていう人にとっては、やっぱりなくなってもらっては困るからどうかしなきゃいけない。もう1つはこゝがすごい生き生きと皆さんできる環境も維持したいっていうのもあるし、これ両方あるじゃないですか。運営できなくなっちゃう、維持したいなら皆さんで考えて自分たちで状況どう作るかっていう話があるけどでも。

この場所の良さを残すのに誰が支えるかっていうのも、支えられなかったら仕方ないっていうかそこまで背負う必要はないっていうか、市民活動の良さってそういうとこでもあるわけだから。

(鈴木健) それはいろんな人に言っているんだけど、教育学の那須先生が「屋根のない学校」っていう本の出版記念の会で、いろんな社会貢献等をずっとやってきて、その先生が「この世の中、正しいことは長続きしないっていうのが鉄則だと私は理解しました。でもその長続きしない正しいことは、楽しいことでも、それをやったっていうその時間とか、そういうその時の繋がりとか、経験がその後のあなたの人生にとってすごく大切だから、その続かないとかいうことじゃなくて、やるっていうことそのものがすごく大事なんですって言われて、僕らは一応こういう活動を、転勤族だったけど、とりあえずやりたいんだからやるか、みたいな事を言われたんです。腑に落ちたね。あれでまあやっていっていいっていうか、頑張ればいいんだなって、やれる間。

(杉崎) もうそうすごく大事な話。ポンと放り投げるっていうのはちょっと色々あるけれども、やれるところまで頑張ると、それはそのやったことが何らかの形で、いろんな形で残る。

以上

⑥ ミエルがめざすコミュニティ（組織）

① ミエルがめざす組織像に向けて（「だから僕たちは、組織を変えていける」斎藤徹著を参考に）

1 楽しさあふれる「やさしい仲間」

- ① 楽しむ仲間：自分たちの幸せを考え、常に楽しみを生み出す
- ② 学ぶ仲間：地域の幸せを考え、常に新しい価値を生み出す
- ③ 共感する仲間：社会の幸せを考え、持続可能な豊かさを分かち合う
- ④ 自走する仲間：仲間の幸せを考え、多様な人たちが自ら活動する

2 「やれるだけ、やればよい」

これを、みんなが許容できるためには：心的安全性、透明性、公平性、圧倒的（個人情報も共有しながら保護されている場）

3 対話（議論ではなく意味の共有を・順番に話す）の大切さを理解する。

本音で話せる場づくり、問題解決・価値創造に導くコミュのケーションの仕方を作っていく必要がある。

4 「心的安全性」の確保

すべてのナレッジワーカーが「自分の知識を共有したい」と思えるような場があるかがキーとなる。そのために「心的安全性」が必要になる。

5 ゆったりとした気持ちの中で雑談することが、クリエイティブな発想につながる

リラックスして素のままの自分を出せる場。他愛のない雑談から斬新なアイデアという価値が生まれる。

② 場づくりの前に組織の心的安全性を！

1 安全に対話できる場を作る

関係性は組織の土壌である

すべてのメンバーが「強がりの仮面」「いい人の仮面」をはずして、自然体の自分、素の自分をとりもどすことが前提。

2 内向き組織から外向き組織へ：チームの人間関係から顧客の価値創造へ。

3 リーダー：自分の弱さもオープンにした上で「組織を良くしたい」「価値を生み

出したい」と自分の思いを情熱を込めて語る。⇒ メンバーが心的安全性のある場で参加する行動習慣がつくことで、組織の生産性と個人の幸せがともに高まる素地ができる。

5 地域連携活動支援

1. 港北区子ども若者支援団体交流会

- 港北区の子ども若者支援を支える行政機関・社協・ケアプラザ・活動団体等を繋いで支援を広げていきたいと考えています。（大倉山ミエルは事務局）
- 今後の展開：① ケアプラザエリア毎（9エリア）の日常的情報交換関係づくり ② 課題解決型から伴走型（寄添い型支援）へ ③ 子ども関連のあらゆる支援等の活動の交流会に。



2. よこはま・子ども若者が孤立しない地域づくり研究会

- 横浜市域での子ども若者支援を考える研究会：来年度の横浜市の子ども行政の施策決定時期に現状を考え、伝える活動を開始した。（下記チラシ：キックオフイベント）
- 来年は6回の講座+シンポジウムを開催予定。（大倉山ミエルは世話人の一団体）

「さとにきたらええやん」上映会
加藤彰彦×青砥恭×小川杏子 鼎談

● 開催趣旨
 2023年7月地域で孤立する子ども若者たちの社会参加を応援することを目的に「よこはま・子ども若者が孤立しない地域づくり研究会」を立ち上げました。本企画では、映画上映と鼎談を通じて「子ども若者の貧困と居場所」についての理解を広めます。また、上映後の鼎談（加藤彰彦×青砥恭×小川杏子）では私たち市民ができることを考えるとともに、本研究会のキックオフとします。

子ども若者が孤立しない地域づくりを目指して!

申し込み

● 主催：よこはま・子ども若者が孤立しない地域づくり研究会
 共催：（公財）NPO 横浜アクターズ・倶楽部、（公財）よこはまユース・倶楽部、（公財）横浜市民会連合会、（社）アソビの会、（社）横浜子どもサポートワーク、（公財）神奈川福祉文化センター、（特財）アソビの会、（特財）アソビの会、（特財）アソビの会

● 日時：2023年12月16日（土）開場：11:45 開演：12:30～15:40（上映80分・鼎談75分）
 ● 会場：神奈川公会堂講堂（JR東神奈川駅、京急東神奈川駅から徒歩5分、定員500名） ● 参加費：500円

「よこはま 子ども・若者が孤立しない地域づくり研究会」がスタートします!

研修会を開催します!

私たちは、経済的な貧困と共に、さまざまな経験や関係を失わない孤立して暮らさざるを得ない子ども・若者や家庭が直面する現実強い危機感を抱いています。
 横浜市内の地域で孤立している子ども若者たちの実態を知り、これらの子ども・若者たちの社会参加を応援すること、地域に住む市民みんなが理解を深め、日ごろから少しずつ気にかけて声かけや協力がしあえるような地域づくりを応援できればと、当研究会を立ち上げました。

よこはま・子ども若者が孤立しない地域づくり研究会
 【会長】 加藤 彰彦
 【副会長】 武藤 啓司/青砥 恭

【呼びかけ人】 鈴木 智香子/鈴木 健夫
 池田 正則/尾崎 万里奈/水谷 裕子
 米田 佐知子/小川 杏子

【事務局】 守田 洋

ホームページ <http://yokohama-kowaka-inclusion.jimdofree.com>
yokohama.kowaka.inclusion@gmail.com
 090-6018-8359（事務局 守田）
 045-717-6778（事務局 鈴木（大倉山ミエル））

最新情報はこちら!

3. 事業2 : 県域への展開

1 県域への展開

① 概要

- 1 支援地域の検討：茅ヶ崎、新川崎、三浦の検討
- 2 茅ヶ崎「さろんどて」の支援決定：松が丘の居場所活動開始へ
- 3 大磯・座間・綾瀬等での支援

● ① モデル地域と ② 適用地域

① 大倉山地域

モデル地域（大倉山・菊名・師岡・大倉根）ミエルのこれまでのネットワークを生かし、さらに活性化し、事業やつながりの見える化に取り組む。

② 主な候補地域（茅ヶ崎、新川崎、三浦市）

主にサポート事業を行う適用地域の候補、今年度から茅ヶ崎の「さろんどて」等を支援地域として選定した。

③ サブ候補地域（大磯、座間、綾瀬、相模原）

サブ的にサポート事業を行う適用地域の候補、活動のマップづくり（横プランナーズネットワーク）や生活クラブ、フォーラム・アソシエ等のネットワークを生かす。

● 過去の活動実績の例（大倉山地域以外）

1 二俣川駅（旭区）

2019年、相鉄線、二俣川駅周辺町内会活性化を担当した（大倉山ミエルの事業）

2 反町

都心地区の空店舗活用事例でもある障害者の支援施設でもあるコミュニティカフェ「反町ポラン」開設の支援活動を担当した。（横浜プランナーズネットワーク、以下横プラ）

3 南永田団地

団地再生事業の一環で団地の空店舗を利用したコミュニティカフェ「サロンほっとサライ」開設の支援事業を担当した。引き続き団地再生業務を継続予定。（横浜プラ）

4 綱島

横浜市緑区の緑アップ事業の支援で、計画案の作成等企画から支援を行った。（横浜プラ）

5 南区（NPO法人NORA・学校地域コーディネーター）

NPO法人NORAの居場所づくり事業の支援を行った。（大倉山ミエルの事業）今年度は南区の学校地域コーディネーターの研修事業を引き続き担当している。（横浜プラ）

6 230カフェ ヨコハマ市民まち普請事業のサポート採択

鶴見駅前地区で外国につながる子どもの支援を含む、コミュニティカフェの開設支援（横浜まちづくりコーディネーター）



② 地域コミュニティの活性化のためのモデル化

●重点手法

- 1** -1歳~101歳の居場所の展開
 小さなゆるい居場所の成立要因と持続可能性



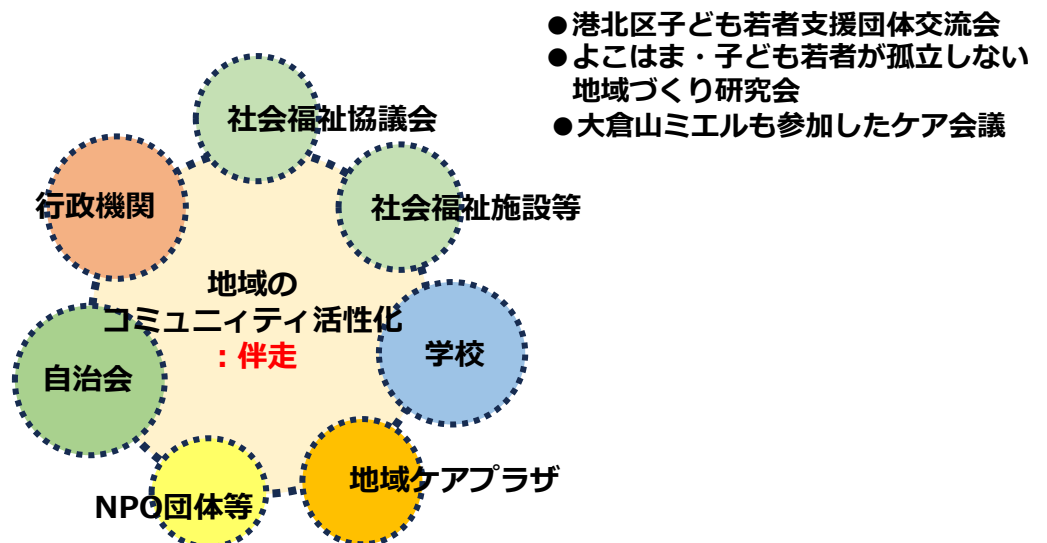
- 2** テーマ型団体と自治会の連携による：
 地域コミュニティの活性化：孤の解消へ



- 3** テーマ型団体の不足 + 自治会の若返りの対策



- 4** 自治会・行政機関・社協・ケアプラザ・関連機関・社会福祉施設等・テーマ型団体の日常的連携：**日常的な情報共有関係**



③ 県域支援：活動団体の協働支援のモデル化に向けて

1. 支援先の選定：入口・条件

- 支援先の団体等へは支援以前からのつながりが重要である。さもないければ、その地域の活動に精通した中間支援的団体等を通じてアプローチする必要がある。
- 茅ヶ崎地域活動支援センター等で「さろんどて」さんとの連携できる団体を探したが、なかなか難しい状況。
- 連携先は近隣地域だけでなく、テーマ毎での県域でのつながりを活用することも重要（横花し戸塚区のコまちプラス、子ども衝動ネットワーク等）

2. 支援団体、支援地域へのアプローチ方法

- 団体の状況（立ち上げ期、完成期、拡大期等又、中間支援機能を担える団体か等）により支援の方法は異なる。

① 茅ヶ崎市「さろんどて」伴走にて

- 茅ヶ崎市「さろんどて」の3番目の居場所に繋がる：茅ヶ崎市、空家活用
：行政との連携（茅ヶ崎市都市計画課）
- 赤ちゃん支援活動の展開：こまちプラスのウェルカムベビープロジェクトとの協働
：横浜市戸塚区のNPO団体との協働
- 県社協との協働事業の「ヤングケアラー支援施策試行事業」受託
：県社協との協働事業に応募

② 大磯国領PJ 伴走にて

- 生活クラブ系の連携で試案を開始、ゆるく先方団体のペースに合わせてながら伴走
- 大学や近隣の関連団体とのゆるい関係の継続により、来年度から田園調布大学の学びのフィールドのなり、事業化への次の段階に移行できている。

3. 支援・伴走方法の切り口

- **支援ではなく伴走、そして、共に学び合うこと**を基本にする
- 伴走団体の状況・**ペースに合わせて伴走**すること（自主性・自立性の重視）
- 現在の地域活性化のための重要な視点は
 - ① ハードルの低い居場所活動の支援
 - ② テーマ型団体と自治会の連携による地域コミュニティの活性化
 - ③ テーマ型団体の不足 + 自治会の若返りの対策：**楽しい活動、ハードルの低い活動**
 - ④ 自治会・行政機関・社協・ケアプラザ・関連機関・社会福祉施設等・学校・テーマ型団体の日常的連携：**日常的な情報共有関係**



- 基本、各団体ごとの活動のみではなく、地域の団体等との連携・協働を前提に支援をする必要がある
- 市民活動支援センター等の支援目標を理解して伴走する
 - ① 個人の地域活動への参加を促進・支援
 - ② 団体・個人の地域活動の活性化支援
 - ③ 地域の課題解決や魅力あるちいきづくり、様々な主体の連携協働へ取り組めるようコーディネートする。

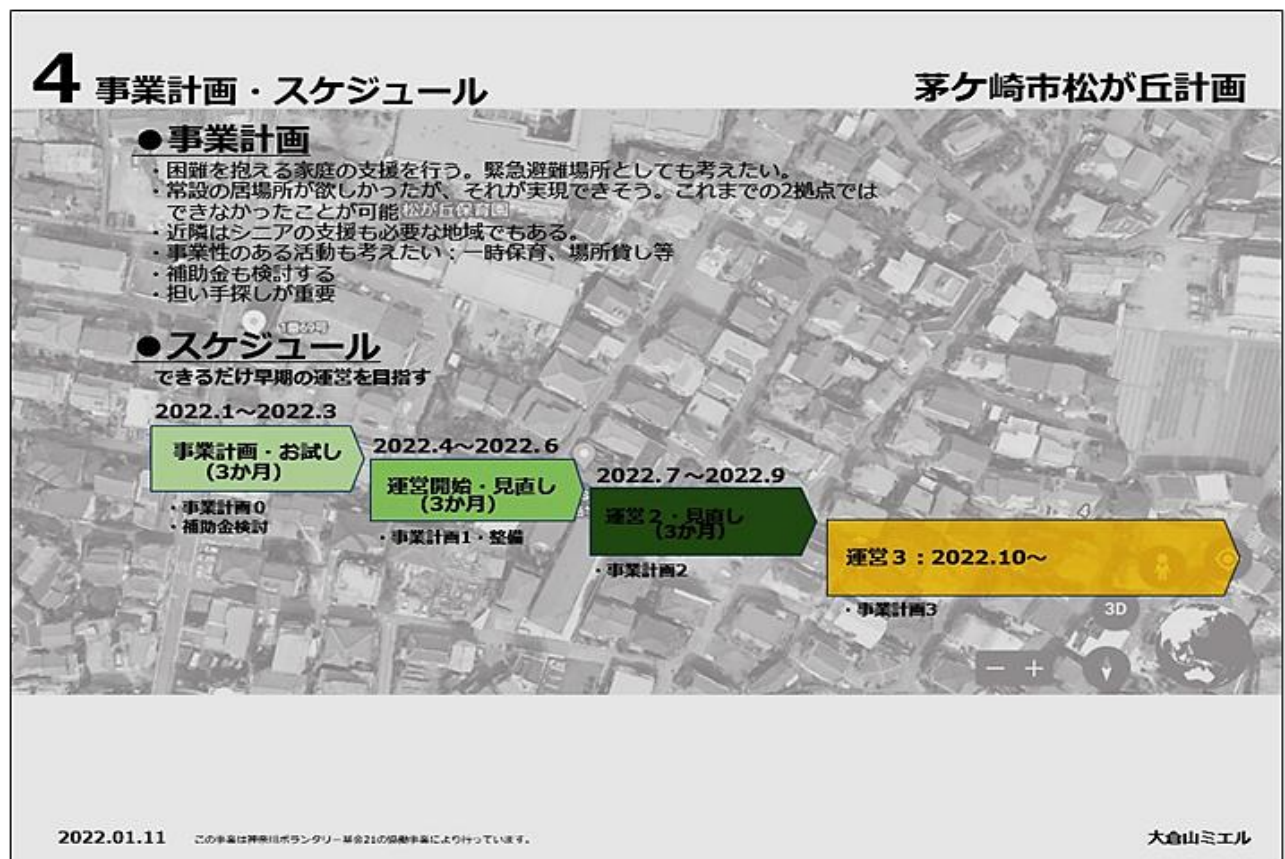
④-1 茅ヶ崎『さろんどて』への展開 2021+2022

1 茅ヶ崎市「さろんどて」の3番目の居場所活動の支援：松が丘の居場所（空家活用）開設に向けて準備中。



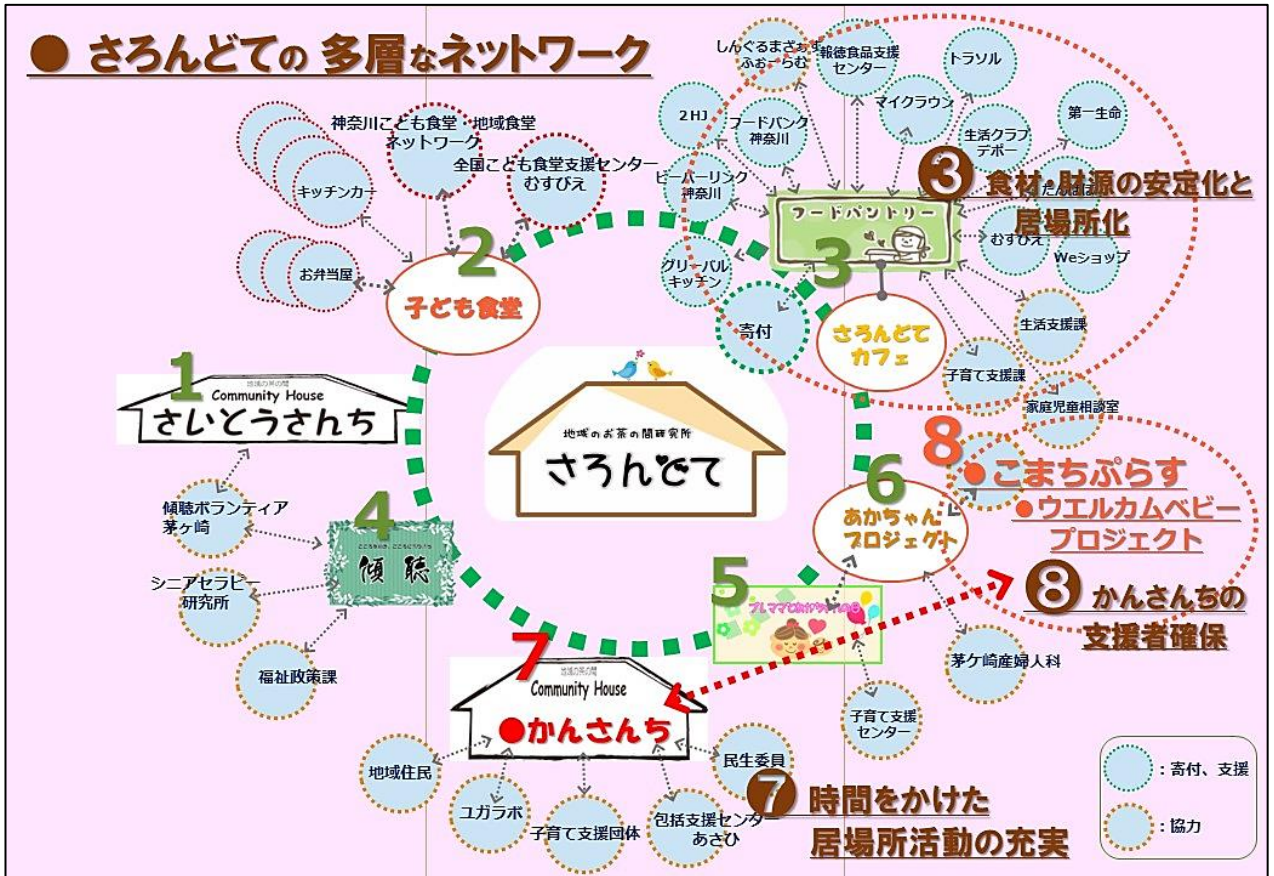
④-2 茅ヶ崎『さろんどて』への展開 2021+2022

1 茅ヶ崎市「さろんどて」の3番目の居場所活動の支援：松が丘の居場所（空家活用）開設に向けて準備中。



④-3 茅ヶ崎『さろんどて』への展開 2023

「ウェルカムベビープロジェクト支援、「さろんどて」ネットワーク図作成



● ウェルカムベビープロジェクト :こまちぷらすとの協働

ウェルカムベビープロジェクト
キックオフイベント
10/31 (月) 10:00~11:00
会場：茅ヶ崎市勤労市民会館A研修室
予約不要・入場無料

プログラム
10:00~ 稲垣涼子 アイリッシュハーブ演奏
10:20~ 代議挨拶
10:25~ 協賛社様のご紹介
10:40~ 協賛団体の紹介
10:50~ 協力団体の紹介

オープニングコンサート
アイリッシュハーブ演奏

稲垣涼子プロフィール
沖縄生まれの母の影響で小さい頃から沖縄民謡を聴き育つ。10歳より歌をはじめ、専大在学中に数多ライブ、その後もアイランドへ留学、韓国歌謡ホストレーサーとしても活躍。現在は、音楽講師やハンドメイド作家としても幅広く活動。市内在住、2児の母。

2016年戸塚区からはじまったウェルカムベビープロジェクト、まち全体であかちゃんのお誕生をお祝いし、子育てを応援できる社会になることを目指しています。このプロジェクトの経緯や協賛企業様について、またあかちゃんご家族へお届けするお祝い品についてご紹介します。応援していただける企業やサポーターも募集しております。

主催：地域の若茶の問研究所 さろんどて (ウェルカムベビープロジェクト事務局)
【お問い合わせ先】 sarondote2@barocco.jp 090-5536-8096(受付)
【協賛企業(敬称略)】
「ハーブとハーブ」(株)稲垣涼子(株)TRASOL など
その他、特定NPO法人「こまちぷらす」茅ヶ崎市内の子育て支援団体、地域のみなさまなど、ご本人の方のご支援ご協力のもとこのプロジェクトは運営されています！

2023/1/29

2022.10.31キックオフ
● ウェルカムベビープロジェクト

あかちゃんプロジェクト

茅ヶ崎産婦人科

子育て支援センター

：寄付、支援
：協力

④-4 茅ヶ崎『さろんどて』への展開 2023: 「さろんどて」パンフ作成

【ご寄付のお願い】
 ・地域の子どもたちやひとり親家庭などへのご支援をお願いします。いただいたご寄付はフードパントリーや子ども食堂などの運営費として大切にさせていただきます。

* 口座 ゆうちょ銀行 店名 ○九八チキノオチャノマケンキュージョ サロンドテ 普通 2611214

ご寄付

・ホームページからでもクレジットカードでもご寄付いただけます。
 ・食品などのご寄付も受け付けております。

【ボランティアのお願い】
 ・一緒に活動してくださる方を募集しています。スタッフは全員ボランティアです。ぜひ私たちの活動に力をいだけませんか。

ボランティア募集

Community House
さいとうさんち
 住所: 茅ヶ崎市新栄町8-15

さいとうさんち
 プレマとあかちゃんの日
 カフェの会場

子ども食堂・フードパントリーの会場
 日本ホーリネス教団・茅ヶ崎教会
 住所: 茅ヶ崎市本村1-2-14

Community House
かんさんち
 住所: 茅ヶ崎市松が丘1-1-59

地域のお茶の間研究所
さろんどて

さろんどては・・・
 食を中心としたさまざまな居場所づくりや、困窮者支援をしています。「地域に孤立をつくらない」をモットーに、ともに地域に暮らす生活者として一緒に考え活動します。また、傾聴の学びを通して自分を知り、支援する側、される側ではなく、誰もが幸せに暮らせる地域をめざしています。

ホームページ さろんどて公式 LINE

salondote.org

【発行責任】：地域のお茶の間研究所 さろんどて
【後援】：まちづくりユニット茅ヶ崎 (参加団体)
 湘南生活クラブ生協茅ヶ崎コンズ・ちがさきデポ・NPO法人W.Co-心・NPO法人W.Coのびのび・NPO法人W.Coがらねっと・NPO法人ワーコレたんぼほひろば・NPO法人W.Coほっぺ・NPO法人WE21ジャパンちがさき

【お問い合わせ】
 電話 080-5536-8096 (事務局 早川)
 メール saitosanchi822@yahoo.co.jp

地域のお茶の間研究所
さろんどて

● 毎週水曜日 11:00~12:00, 12:30~13:30
 対象:どなたでも 参加費:300円
 齋藤様のご自宅の一部を地域に開放をいただいています。ぶらっと来てぶらっと帰るそんな自由な居場所です。ランチとお茶をご用意しています。どなたでもどうぞいらしてください!

● 毎月最終日曜日 11:00~14:00
 対象:シングルマザーとお子さん。要予約、無料
 場所:さいとうさんち
 ひとり親家庭のためのカフェ。お食事、リラックスした時間を過ごしてください。

● 月1回開催 11:00~12:30
 対象:プレマさんと0歳児の赤ちゃん&ママ
 参加費:500円 要予約 場所:さいとうさんち
 あい遊びや紙芝居、ママ同士でおしゃべり、手作りランチも楽しめます。スタッフは保育士や助産師です
 *SNS、チラシ等でお知らせしています。

Community House
さいとうさんち

フードパントリー

ほんもん子ども食堂
いただきます

● **ほんもん子ども食堂「いただきます」は・・・**
 毎月第1水曜日 17:00~19:00
 対象:お子さんとその家族 要予約
 場所:日本ホーリネス教団茅ヶ崎教会駐車場
 詳細はさろんどてLINE登録された方にお知らせしています。

Community House
かんさんち

地域のみなさんと一緒につくる居場所です。
 ● あかちゃんの日
 毎月第1火曜日 11:00~12:30
 対象:0歳児のあかちゃん&ママ
 参加費:500円 要予約
 ● 子ども食堂
 毎月第3金曜日 17:00~19:00
 対象:お子さんとその家族 要予約
 ● その他、様々な活動を行っています
 イベントスケジュールはホームページでご確認ください。
 ● レンタルスペースも行っていきます。
 ぜひかんさんちをご活用ください。

ウエルカムベビープロジェクト

● まち全体で、赤ちゃんの誕生をお祝いし、子育てを応援できる社会になることを目指すプロジェクト。地域で企業から【出産お祝い】を送ります。
 プレマとあかちゃんの日 ウェルカムベビープロジェクト 茅ヶ崎
 Instagram PREMANA_AKACHAN

傾聴
 ● **傾聴講座を開催**
 「傾聴」は単におはなしを聞くことは違い、相手のところに寄り添うもの。「傾聴」の学びから自分を知り、日常生活や職場、ボランティア活動に活かしませんか?
 詳細はホームページなどでお知らせしています。

④-5 茅ヶ崎『さろんどて』への展開 2024

●県社協との協働事業「ヤングケアラー支援事業」の伴走

- ・さろんどてが県社協と協働で行う、フードパントリー・子ども食堂に繋がる困難家庭への支援の試行を行うための3年間の事業ね伴走

1. R5年度

- ・困難家庭へのアンケート・ヒアリング項目等の作成・実施に伴う打合せへの参加（日本福祉大学、安藤先生も参加）
- ・キックオフイベント企画への参加
- ・キックオフイベントの内容
 - ①ケアラー支援の現状等
 - ②当事者体験団（坂本拓さん、樫山枝里さん）
- ・「茅ヶ崎市フードパントリー・子ども食堂MAP」作成支援

2. R6年以降のミエルの関わり

- ・R6,7年度のさろんどての事業に継続して伴走する
- ・ミエルでも、アンケート・ヒアリングの実施（対象：ミエルのフードパントリー配布先：45家庭）
- ・アンケートの分析・施策への反映にも協力していく予定。

●キックオフイベント「ヤングケアラー当事者の声を聴く」のチラシ

神奈川県社会福祉協議会地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）
「福祉的課題を持つ子どもの豊かな育ちを支える食支援の可能性」キックオフイベント

ヤングケアラー当事者の声を聴く

ヤングケアラーという言葉に耳にする機会が増えました。しかし、当事者のお話を伺うことは、ほとんどありません。今回は、統合失調症などの精神疾患の親の元で育ち、家族会やびあ^{（注）}の場所を開いているお二人のお話を伺います。地域で共に暮らす私たちに何ができるのか一緒に考えます。

同じ立場の仲間が会える

「ひとりやないで代表
樫山枝里さん

ひとりやないでとは・・・
統合失調症の親と向き合う「子向け」の集まりです
全国各地に存在する「家族会」で、
今まで中々焦点を当てられてこなかった子どもの立場の方（主に若い世代の方）を対象としています

「こどもびあ代表
坂本 拓さん

こどもびあとは・・・
精神疾患の親を持つ成人した子供たちの会です。
“こどもびあ”の“びあ”は、
こどもの立場にとって居心地のよいところ（ユートピア）と、こどもの立場の仲間（ピア）によるピアサポートの意味です。



*日時：2024年3月9日（土）13：30～15：30
*会場：茅ヶ崎市民文化会館4階大会議室
*参加費無料、先着順70名
*どなたでもご参加いただけます
*問い合わせ：saitosanchi822@yahoo.co.jp
電話：080-5536-8096（早川）
*お申し込みはQRコードから

主催：地域のお茶の間研究所さろんどて
神奈川県社会福祉協議会



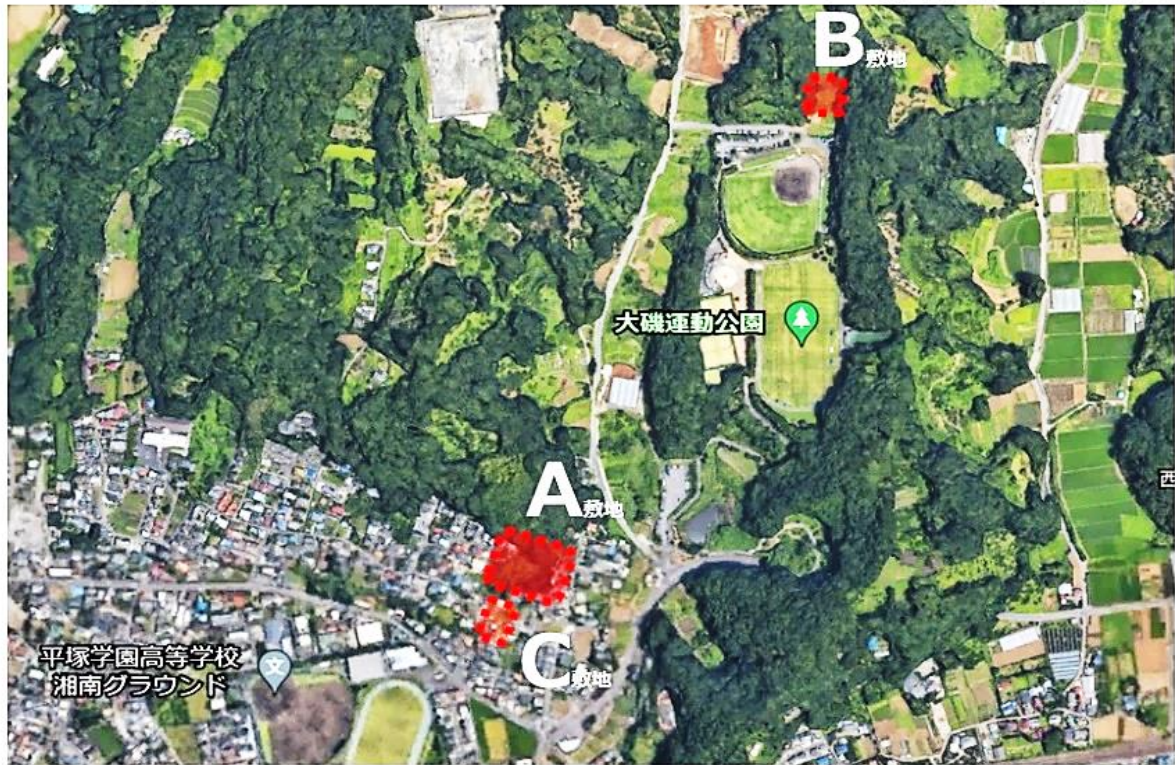
「ヤングケアラー当事者の声を聴く」
会場の申し込みフォーム
link.google.com

⑤-1 大磯国府本郷への展開 2021+2022

1 敷地での現在の活動や、敷地の豊かなポテンシャルを活かした色々の活動を進めながら、人材を有効に活用できる活動を選択しながら事業的選択を平行して進める提案をおこなう。

1 計画地

大磯町国府本郷計画



2021.12

この事業は神奈川県庁より補助金を受け、21年度に開始予定の事業です。

2 計画地

大磯町国府本郷計画

マリア道



- 国府村、屋号『大東』300年前から
- 北からの切道の旧道で、間所があった
- 以前はマリア道と呼ばれていた。現、星桂大学に音修道所があったので。

2021.12

この事業は神奈川県庁より補助金を受け、21年度に開始予定の事業です。

3 関係者

大磯町国府本郷計画

●坪内俊憲先生
(星槎大学・共生社会・環境教育・フリースクール・獣医・自然遊び等)

●運動公園の北側の畑
・林に囲まれている畑、火遊びも可能。
・奥の西部不動産の敷地(ゴミが捨てある元農地：市街化調整) 取得希望。
・公園の駐車場、WC等が使って便利

●和(かのう)先生
(田園調布大学・地域社会福祉)
・二宮町でも活動中

●おじさんの家+畑
・賃貸住宅3軒(2LDK・賃料3万円)
ファミリーマート
大磯国府本郷店

●自宅・グループホーム・おばあちゃんの家+果樹園
・農業をしっかりやりたい。
・果樹園：JAに出荷している+2次製品(柿酢?)
・グループホーム(別の社福が運営)

●生活クラブ
かたつむりの家
平塚学園高等学校
湘南グラウンド
平塚学園 総合運動場

●関係者・施設
神前山
別養護老人
ゆるぎの里
ダイチヤリ
大磯運動公園
金龍寺
エピナール
ファミリーマート
大磯国府本郷店
Google
国道本線

2021.12 この事業は神奈川ボランティア-基会21の協働事業により行っています。

4 やりたい事・スケジュール

大磯町国府本郷計画

●やりたい事

- 1 農業+2次商品の開発 榎湘南スタジアム
- 2 新しい障害者のグループホーム+ファクトリー+カフェ+果樹園
- 3 悩みを抱える子どもの就労支援(工賃を上げる)
- 4 子どもの第3の居場所(小学生以上の子ども・若者支援)
- 5 防災(大磯エネシフト)

●スケジュール

1 5年後の実現を目指す

2022.01~2023.07
基本構想(1.5年)

2023.07~2025.01
実施計画(1.5年)
事業計画1、真勝寺
事業計画2、整備計画1

2025.01~2026.01
建設(1年)
事業計画3、整備計画2

新運営：2026.01~

●関係者・施設
ダイチヤリ
大磯運動公園
大磯運動公園
uramichi
かたつむりの家
平塚学園高等学校
湘南グラウンド
平塚学園 総合運動場
エピナール
ファミリーマート
大磯国府本郷店
Google
国道本線

2021.12 この事業は神奈川ボランティア-基会21の協働事業により行っています。

5 歴史・地形等



2021.12

大磯町国府本郷計画



5 やりたい事・スケジュール

大磯町国府本郷計画

●やりたい事

- 1 農業+2次商品の開発 → 作業スペース建設計画（古材利用）
- 2 新しい障害者のグループホーム+ファクトリー+カフェ+果樹園
→ 事業計画+補助金等検討
- 3 悩みを抱える子どもの就労支援（工賃を上げる）
- 4 子どもの第3の居場所（小学生以上の子ども・若者支援）
→ 日本財団「子ども第3の居場所」検討
- 5 防災（大磯エネシフト）
→ エコハウス・エコファームの検討（「お金に頼らず生きたい君へ」服部文祥著参考）

●スケジュール

- 5年後の実現を目指す

2022.01~2023.07



6 現地状況

●B敷地

大磯町国府本郷計画



●A敷地周辺



2023.02.07

7 事業計画

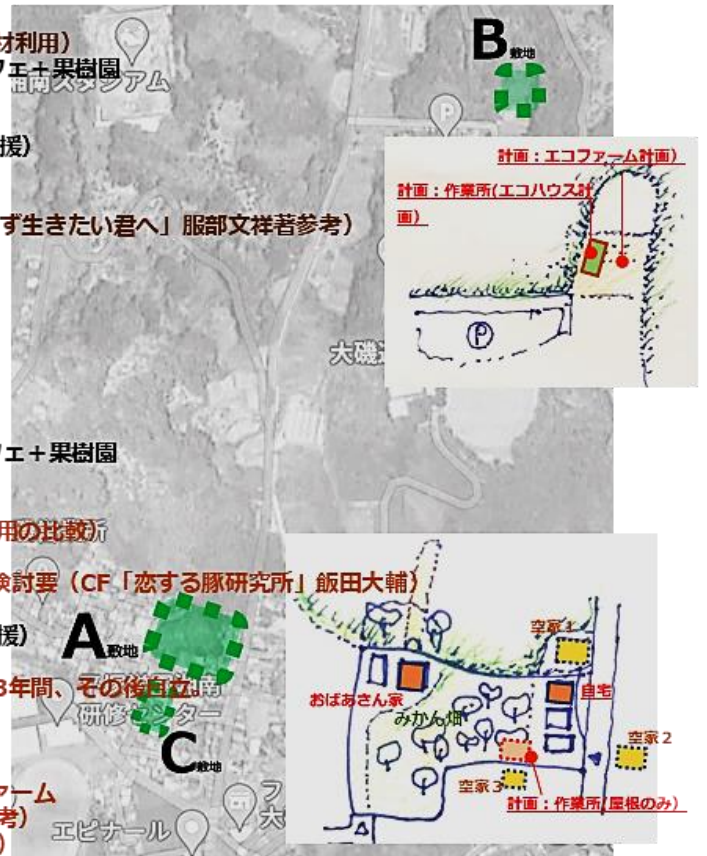
大磯町国府本郷計画

●やりたい事

- 1 農業+2次商品の開発 → 作業スペース建設計画 (古材利用)
- 2 新しい障害者のグループホーム+ファクトリー+カフェ+果樹園
→ 事業計画+補助金等検討
- 3 悩みを抱える子どもの就労支援 (工賃を上げる)
- 4 子どもの第3の居場所 (小学生以上の子ども・若者支援)
→ 日本財団「子ども第3の居場所」検討
- 5 防災 (大磯エネシフト)
→ エコハウス・エコファームの検討 (「お金に頼らず生きていたい君へ」服部文祥著参考)

●事業計画 2023 01

- 1 農業+2次商品の開発
→ 作業スペース建設計画 (古材利用)
■ シャム等2次製品の生産方法、体制等の検討
■ 農業体験+キャンプ・宿泊
- 2 新しい障害者のグループホーム+ファクトリー+カフェ+果樹園
- 3 悩みを抱える子どもの就労支援 (工賃を上げる)
→ 事業計画+補助金等検討
■ 障がい者グループホームの事業計画 (新築と空家活用の比較)
■ 障がい者作業所の事業計画 (20年後も考慮したい)
→ 果樹園+畑での農作業での工賃の確保が可能か検討要 (CF「恋する豚研究所」飯田大輔)
- 4 子どもの第3の居場所 (小学生以上の子ども・若者支援)
→ 日本財団「子ども第3の居場所」検討
■ 条件確認：3日/週×15名、90㎡以上：年600万、3年間、その後自立
→ 難しい？：3日/週×15名が難しい。
- 5 防災 (大磯エネシフト)
→ エコハウス・エコファームの検討・協働体験ファーム
(「お金に頼らず生きていたい君へ」服部文祥著参考)
(縄文文化の体験・エコツーリズムルート体験)



2023.02.07

8 計画地・周辺状況

マリア道

大磯町国府本郷計画



2023.02.07

⑤-2 大磯国府本郷の新たな展開へ 2023、2024～

1 田園調布大学の和先生の企画（構想中）で、2024年4月から、大学のカリキュラムに位置図けてもらえました。

- ・福祉をデザインする人材育成の沿岸地域のフィールドに位置づけられました。
「大磯町のミカン農家を拠点としたごちやまぜの地域福祉&コミュニティビジネス」として。
- ・DCU学生 & 社会的起業家養成やDCU福祉型カレッジ卒業生の企業への雇用
- ・特別支援学校高等部卒業生を対象とした福祉型カレッジの企画・運営
- ・DCUキャンパスにおける自立訓練（2年）+就労移行支援（2年）=4年
- ・社会的企業・行政・社福におけるインターシップ。
社会福祉法人、NPO一般社団。企業、行政、社協
- ・福祉社会をデザインできる人事育成を図る。

2 今後も継続して関わっていく。

- ・今後の課題
 - ・障害者の就労施設やグループホームの設立・運営の検討が必要
 - ・和先生の企画との連携や様々な活動のフィールドとしての価値の創造の考える必要がある。
 - ・急がず、ゆっくりすすめる。
- ・具体的な検討事項についてR6年度から返答を開始する。
 - ① 法人化
 - ② 拠点化

② その他の地域への展開

- 1 座間市生活クラブの居場所や綾瀬市の居場所支援等を進めている。
生活クラブ「全員参加の未来機構」との連携を進めている。
- 2 横浜市南区の登窯の市民活動支援：2022、2023
- 3 宮城県の震災復興の自治会自立支援：2022
- 4 港北区「港北つなぎ塾」委託事業：2023
- 5 横浜市民まち普請事業での団体支援：横浜市まちづくりコーディネーター：2021、2022、2023
・金沢区・食卓八景ANEX 2021・えだきん夢かなキャラバン 2022、2023、
・弥生台「コミュニティだんだん」2022
- 6 旭区区政推進課委託事業「地域の魅力づくりパートナーシップ事業」2022
- 7 横浜市市民協働推進センター、協働推進コーディネーター2022、2023

- 8 横浜プランナーズネットワークの一員として
 - ・横浜みどりアップ事業支援
 - ・団地再生支援事業（横浜市団地再生コーディネーター）
 - ・「横浜市区民活動支援センター強化事業」プロポーザル提案 2024

③ 県域展開での考察と気づき 2021+2022+2023

- 1 中間支援的ではなく活動との伴走・情報共有へ
 - ・支援ではなくつながり続けること。支援ではなく寄添うこと、学び合うこと。
 - ・様々な居場所、活動、組織の在り方を考えることが大切。

- 2 協働しやすいコミュニティとは
 - ・参加しやすく、休みやすいコミュニティ。課題解決型ではなく、つながり、伴走重視型
 - ・地域の既存の活動を大切に、そして気長に。とりあえづ一緒にやってみる。
 - ・無理せず、我慢しない。ゆるくつながる。永くつながる。
 - ・活動が常に外向きな活動を行っていること。常に少しの余裕を残した状態であるのと。
 - ・まず助けてもらうことから、始めるぐらいでよい。
 - ・情報共有で多くの気づきと無駄な活動を減らすことができる。

4. 事業3 : 県域への展開

① 普及のためのプレ研修2021

- ① 目的・ずっと、ゆるくつながる (line グループを作る)
- ・実践で考える (活動体験と課題の共有)
 - ・参加者の発表。気づき(目標・ヒント)一步を踏みだす。

つながる研修 プレ研修

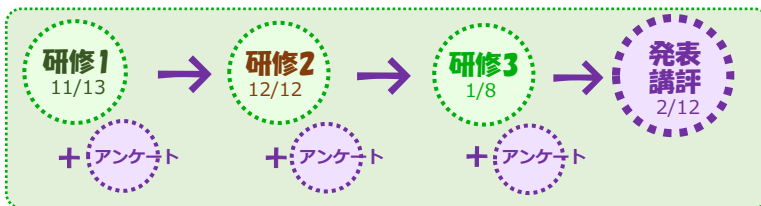
第2土曜日
13:00~15:30

大倉山ミエルは『孤の解消』のために「活動団体をつなぐことによる活性化事業」を行っています。つながる事そのものが目的であることを実感しながら、コミュニティに関心のある様々な人が、ミエルとつながって、各人が一步をふみ出すための研修です。

■研修のポイント

- ① ミエル等の実際の活動の課題を実感し、共に考える。
- ② 現地での活動体験も行います。(研修と別日予定。後日設定)
- ③ 参加者は各人の思いを形にして発表してもらいます。
- ④ ミエル スタッフもあなたの一步を共に考えます。
- ⑤ 将来も継続的なつながりを作ります。

■スケジュール



※スケジュールは変更になることがありますご了承ください。

■研修内容 (基本的にオンライン(Zoom)で考えています)

1 居場所 ミエルの居場所とミエル企画部 11/13(土) 13:00~15:30

大倉山ミエルの ① 妊婦からシニアの居場所活動の現状と、② ミエルを自主的に支える21人の『ミエル企画部』の誕生と現在の活動、そして今の課題を共有してもらう事で、各参加者にとっての活動の目的や居場所の目的と運営組織の在り方を共に考えます。同時に参加者の方々の其々の思いについてもらいます。

2 子育て 棒田さんとミエル企画部 12/12(日) 13:30~15:30

妊産婦支援を中心に『ここみて港北』『赤ちゃんカフェ』を主催し、ミエルを自主的に支える『ミエル企画部』の心の支えともなっている棒田あきこさん、そして、『孫育てニッポン』等での全国での知見がミエルにも生かされているところを実感し、開かれたコミュニティの豊かさ、楽しさを実感します。同時に参加者の思いについてもう一度考えてもらいます。

3 環境 『熊スタ』と『大倉山はちみつ保存会』 1/8(土) 13:30~15:30

『熊野の森もろおかスタイル』が目指す持続可能な暮らしを目指して広がる様々な活動や、ミエルとの協働の活動である横浜まち普請事業、「大倉山ハチミツ保存会」や「ミエル畑部」の協働活動の有り様、今後の取組についても話します。そして、できれば参加者の方々に各人に思いを形にし話してもらいます。

4 思いを形に 『発表』と『話し合い』 2/12(土) 13:30~15:30

前3回のWSやアンケート等を通して考えた事をふまえて、参加者各人にそれぞれの思いを形にして発表してもらいます。そして、みんなで意見交換をしたいと考えています。

つながる研修・プレ研修 2021

開催日：2021年10月~3月、第2土曜日
4回程度：研修+話し合い
1回2時間半程度(オンライン)
定員：10名程度+オーディエンス参加
(各回500円、プレ研修は無料)

場 所：基本オンライン (Zoom) で行います。
参加費：3000円、全4回 (プレ研修なので無料)
申込先：大倉山ミエルに電話又メール
☎：045-717-6778
Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp

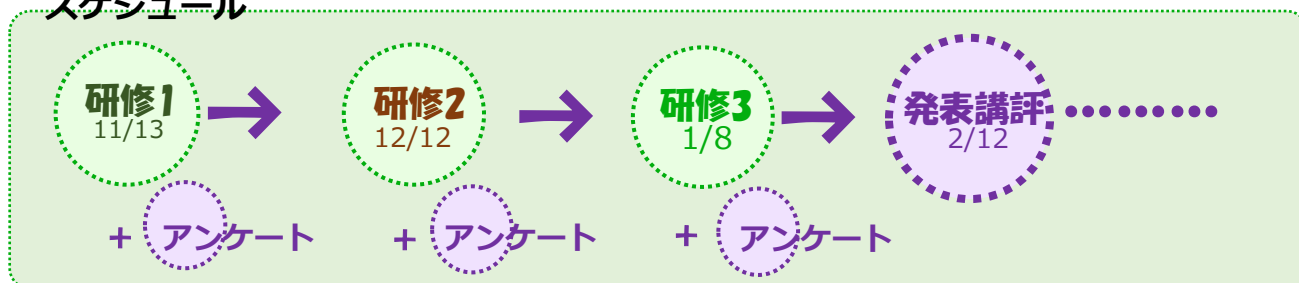


② 研修のポイント

- ・ミエル等の実際の活動の課題を実感し、共に考える。
- ・現地での活動体験も行う。(コロナ禍で今年度は未実施)
- ・将来も継続的なつながりを作ります。

③ プレ研修の概要とスケジュール

スケジュール



1 居場所 ミエルの居場所とミエル企画部

11/13(土) 13:30~15:30

大倉山ミエルの① 妊婦からシニアの居場所活動の現在と、② ミエルを自主的に支える21人の『ミエル企画部』の誕生と現在の活動、そして今の課題を共有してもらう事で、各参加者にとっての活動の目的や居場所の目的と運営・組織の在り方を共に考えます。同時に参加者の方々の其々の思いについて考えてもらいます。

2 子育て 棒田さんとミエル企画部

12/12(日) 13:30~15:30

妊産婦支援を中心に『ここみて港北』『赤ちゃんカフェ』を主催し、ミエルを自主的に支える『ミエル企画部』の心の支えともなっている棒田あきこさん、そして、『子育てニッポン』等での全国での知見がミエルにも生かされているところを実感し、開かれたコミュニティの豊かさ、楽しさを実感します。同時に参加者の思いについてもう一度考えてもらいます。

3 環境 『熊スタ』と『大倉山はちみつ保存会』

1/8(土) 13:30~15:30

『熊野の森もろおかスタイル』が目指す持続可能な暮らしを目指して広がる様々な活動や、ミエルとの協働の活動である横浜まち普請事業、「大倉山ハチミツ保存会」や「ミエル畑部」の協働活動の有り様、今後の取組についても話合います。そして、できれば参加者の方々に各人に思いを形にし話してもらいます。

4 思いを形に『発表』と『話し合い』

2/12(土) 13:30~15:30

前3回のWSやアンケート等を通して考えた事をふまえて、参加者各人にそれぞれの思いを形にして発表してもらいます。そして、みんなで意見交換をしたいと考えています。

④ プレ研修での考察と気づき 2021

- ・活動経験者の歴史と思いを聞くことで、今の活動が腑に落ちた。じっくりその人の歴史を聞くことで深い理解がえられ、つながりも深まると実感した。
- ・人を知ることの大切さを実感。
- ・ミエルの様々な活動を知りたい。ミエルの歴史(3回の移転と4回の立上)も知りたい。
- ・肥後さんたちも、棒田さんも、基本、やりたいことを仕事にしてきた人達の強さ・豊かさを感じてまぶしかったです。人との出会いの大切さをつくづく感じた。
- ・ミエルが求めるコミュニティ：参加(協働)し易いコミュニティとは：参加し易く、休み易いコミュニティ。課題解決型ではなく、つながり重視型。既存の活動を大切に、そして気長に。とりあえず一緒にやってみる。無理せず、我慢しない。ゆるくつながる。永くつながる。境界をなくす。

⑤ プレ研修での考察と気づき 2022

- ・2022年度の研修でも、大倉山地域で活動している熊野に森もろおかスタイルさんや、棒田さんも含めた、OJTと、つながりを重視した研修を行ったが、研修以外の活動経験者の歴史と思いを聞くことで、今の活動が腑に落ちた。じっくりその人の歴史を聞くことで深い理解がえられ、つながりも深まると感じた。
- ・一方、OPEN DAYに来る方等、それぞれの関心事があり、それに答える研修の必効果や要性を感じて、OPEN DAYを研修の一部とする事にした。そこで、ミエルの様々な経験や、我々の他団体の様々な経験をや知見、ネットワークを活かした、つながり研修が可能となっている。
- ・運営面での考え方は、来年度も含めて検討していく。

② 今後の研修について・2023

- ・2022年度の予定：4回ワンセットで、年3セットのつながる研修を行予定であったが、2セットにして、それ以外は月1回のOPEN DAYと一緒に、個別にミエルに見学等に来る方を対象に個別対応の研修に切り替えた。
- ・月1回のOPEN DAYでミエルの現地体験を組みこむ。
- ・今後の研修テーマ（検討テーマ）
 - ① ミエルの4回の立上と3回の移転、
 - ② ミエルを自立的に支えるミエル企画部・ミエルAL、
 - ③ 菊名みんなの広場での協働の失敗から学ぶ、
 - ④ 補助金と受益者負担の混合、
 - ⑤ ボランティアと給料の両立、
 - ⑥ ヨコハマ市民まち普請事業と大倉山ミエル

③ 2023年度の研修：Open Day（個別的研修）

① 目的・成果

- ・少人数で参加者の聞きたい事に答える。⇒ 満足度が高い、つながりができ易い。
- ・ミエルとのつながりができ、ミエルに参加してくれる人材発掘に繋がっている：4名
- ・居場の立上げ、運営支援、活動の活性化支援、NPO化支援に繋がっている：本牧での活動支援、霧カフェ、虹色ばたけ（NPO化）、洋光台のカフェ（運営支援継続中）
- ・研修の依頼に繋がった：生活クラブ湘南、高田ケアプラザ「認知症フォローUP講座、フォーラムアソシエ交流会、横浜市立大学講義「コミュニティカフェ」、横浜市市民協働推進センター「協働相談会のコーディネーター参加：2回、東急、活動報告会、ダッドウェイ、よってこ下田、おたがさん、太尾小学校、箕輪小学校等
- ・県「100歳時代・この指止まれPJ」への参加：10回

② 実績・今後

- ・毎月第2土曜日、13:00から、15:00からのOpen Dayとして開催。
- ・2023年度：12回開催、料金：1,000円（コーヒー付）
- ・来年度以降も継続する

5. HP作成：ノウハウの開示に向けて

① HP作成の目的とポイント

① 目的

- ・ミエルとつながりたいと思ってもらえる HP
- ・ミエルの様な居場所を作ろうとする人たちの参考になるための HP
- ・実践で考えれる（活動体験と課題の共有等）

② HPのポイント

- ・ミエルの活動が『楽しい!』と感じてもらえ、行ってみようと思ってもらえる HP
- ・つながりことの楽しさを感じてもらえる HP
- ・ミエルの活動が分かり易い HP
- ・ミエルの活動の実践がわかり易い活動ブログ（各々の担当者が記入。活動体験と課題の共有）
- ・常に活動が開いていて、近隣団体等とのつながりを考えられる：「ミエルの森」は他団体の紹介の兼ねる。
- ・多様で、自由さ、社会性が感じられる HP
- ・「なんでもOK!」と感じられる HP
- ・だれでも更新し易くデータ化も可能な HP
- ・ひとが見える HP（担当者紹介ページ）

新HP



旧HP



●参考資料（書籍等）

- ・レイ・オルデンバーグ「サードプレイス」 みすず書房
- ・西村佳哲「自分の仕事をつくる」 晶文社/ちくま書房
- ・算裕介「ソーシャルデザイン 実践ガイド」・「持続可能な地域のつくり方」「人口減少のデザイン」 英治出版
- ・NPO法人ヨコハマプランナーズネットワーク ザ・まち普請編集委員会「ザ・街普請」
- ・NPO法人ヨコハマプランナーズネットワーク「地域に貢献する空家の利活用について」パンフレット
- ・齊藤保「コミュニティカフェ」 学芸出版社
- ・広井良典「人口減少社会のデザイン」 東洋経済新報社
- ・NPO法人さくら茶屋にししば「さくら茶屋にししば」 フェミックス
- ・認定NPO法人 こまちばらす「居場所に対話の機会を！WAM助成co-machi対話プロジェクト実施報告者」
- ・認定NPO法人 こまつばらす「居場所を通じた「自分らしい」市民参加を育む」
- ・NPO法人つながりデザインセンター・あすと長町「居場所づくりブックレット」
- ・山崎亮「まちの幸福論」 NHK出版
- ・西智弘「社会的処方」 学芸出版社
- ・平田オリザ「わかりあえないことから」 講談社
- ・IIHOE「人と組織と地球のための国際研究所」「続・小規模多機能自治 地域経営を始める・進める・育てる88のアクション」
- ・まちづくりプラットフォーム研究会（卯月盛夫、杉崎和久他）「まちづくりプラットフォーム」 萌文者
- ・吉原直樹「コミュニティと都市の未来」 筑摩書房
- ・岡田朋子「支援困難事例の分析調査」重複する生活課題と政策のかかわり ミネルブア書房
- ・見田宗介「社会学入門」 岩波新書
- ・暉峻淑子「豊かさとは何か」 岩波新書
- ・マックス・ウェーバー著 梶山力、大塚久雄訳 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
- ・松村敬一郎「くらしのアナキズム」 ミシマ社
- ・財団法人住宅総合研究財団 住教育委員会「屋根のない学校」一対話共生型住まい・まち学習のすすめ
- ・岸正彦「断片的なものの社会学」 朝日出版社
- ・大澤真幸「新世紀のコミュニズムへ」資本主義の内からの脱出
- ・庄野潤三小説撰集 岡崎武志編「親子の時間」夏葉社
- ・原研哉「デザインのデザイン」 岩波書店
- ・水野学「アイデアの接着剤」朝日文庫
- ・榎文彦「漂うモダニズム」左右社
- ・青木淳「原っぱと遊園地2」王国社
- ・斎藤徹「だから僕たちは組織を変えていける」株式会社クロスメディア・パブリッシング
- ・大月敏雄「住まいと町のコミュニティ」王国社、「町を住みこなす」一超高齢社会の居場所づくり 岩波新書
- ・柄谷行人「世界史の構造」岩波書店、柄谷行人ほか「力と交換様式」を読む 文芸春秋
- ・野本三吉「水滴の自叙伝」現代書館
- ・井上ひさし「ボローニャ紀行」文春文庫
- ・鷺田清一「誰のための仕事」講談社会学術文庫

●あとがき

「イベント」から「日常活動」そして「居場所」、そして「人と人のつながりそのもの」へ、つまりは **日常的なコミュニティ**、そして、ゆるいおたがいさま的な関係性のある地域づくりへ。ミエルが14年間で大切に考えている事の変化です。基金21の今回の事業によって、多くの学びと、様々なつながりが生まれ、そして深まりました。ミエルもこの3年間で中間支援機能（つなぐこと）を高めることができました。これからも「小ささ」「ゆるさ」「自立性」そして「心的安全性」を大切に、人間本来の「欲望」を見つめながら、楽しく変化しつづけていけると良いのですが、ありがとうございます。今後ともよろしくお祈りします。

2024年2月15日

鈴木智香子・鈴木健夫

つながる 大倉山ミエル なご が



大倉山ミエルの良さは？

4回の立上と3回の移転
でも14年続いている。

自然発生的なミエルALL・ミエル企画部
迂闊で、自主的な企画・運営。

大倉山ミエルの様々な
小さな・楽しい自由な居場所づくり
を応援します。

つながるプレブックレット 2023年度

2024年3月31日 初版第一刷発行

著者：鈴木智香子 鈴木健夫

発行者：NPO法人街カフェ大倉山ミエル

発行所：NPO法人街カフェ大倉山ミエル

〒222-0037 神奈川県港北区大倉山4-36-26

☎：045-717-6778

Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp



●この事業は神奈川県ボランティア活動推進基金21の協働事業により行っています。